

七 山東出兵問題

520 昭和2年3月23日

在青島矢田部(保吉)総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

青島治安維持に關し趙總弁へ警告について

青島 3月23日後發
本省 3月24日前着

第三九号

上海方面ノ局面變化ハ当地地方ニ及ホス影響甚大ニシテ山東軍敗退ニ伴フ民心ノ動搖ハ赤化分子ノ蠢動ヲ助成セシムル機會ヲ作ル虞有リ殊ニ当地ハ邦人關係ノ工場鮮カラス一昨年紡績罷業ノ苦キ體驗ヲ有スルノミナラス最近支那側ニ檢舉セラレタル赤化宣傳員ノ行動ニ徴シ所謂便衣隊ノ潜入モ既定ノ事実ト見做シ得ヘキヲ以テ本官ハ上海方面ノ形勢ノ推移ニ伴ヒ常ニ当地ノ情勢ヲ注意シ各方面ノ警戒ヲ怠ラサルト共ニ不斷ノ視察ニ努メツツアル処昨今上海モ愈々南軍ノ手中ニ歸シタルニ於テハ一段ノ警戒ヲ加フル必要ヲ認メタルニ付直ニ支那側ニ對シ此ノ際治安ノ維持ニカムル事最緊要ナル所以ヲ説キテ各工場埠頭等ノ労働者ニ對スル視察

在支公使、濟南、上海へ電報シ芝罘へ暗送セリ

521 昭和2年4月6日

幣原外務大臣より
在青島矢田部総領事宛(電報)

青島在留邦人の人心安定に努力方について

本省 4月6日發

第三七号

貴地日本人会名義ニテ本大臣及海軍大臣ニ宛テ南軍平服隊入込ミテ種々画策シ居リ何時上海南京、漢口事件ノ如キ事態ヲ惹起スルヤモ測リ難ク多数ノ邦人在留シ工場其他邦人企業多キモ租界ヲ有セサル事情ニ鑑ミ政府ニ於テ予メ万全ノ策ヲ講シ万一二備ヘラレムコトヲ懇請スル旨ノ電報アリ右ハ他方面ニモ同様通電アリタルモノト察セララルル処貴地ニ於テハ時節柄一部赤化分子ノ蠢動及所謂平服隊等ノ潜入等ノ事實アルヘキモ貴電第三九号支那側官憲ノ取締モアリ今俄カニ南京、漢口事件ノ如キ暴狀ノ發生スル虞アリトハ認め難キノミナラス政府ニ於テハ貴地碇泊ノ海軍力ヲ上海方面へ増勢廻航ノ必要アル場合ニ於テモ常ニ適當ニ之ヲ補充スルノ途ヲ講シ警備上違算無キヲ期シ居ル次第ニモアリ時節柄人心安定方ニ付貴官ニ於テ適宜御手配中ナルコトハ

警戒ヲ嚴ニシ事變ヲ未然ニ防止スル為努力スル様警告シタルニ趙總弁ハ直ニ警察庁長ヲ招致シ諭達スル処有リ海軍呉副司令ハ数日前東北渤海兩艦隊合併シ張宗昌總司令ニ畢庶澄チコウレット及自分副司令ニ任命セラレ南方へ出動準備中ナリシモ局面ノ急變セル今日ニ於テハ最早出動ノ必要無ク此ノ上ハ專ラ当地ノ治安維持ニカムル事大切ナルヲ以テ商埠總弁及陸軍側(畢ノ旧部下第八軍ハ残留部隊僅少ニシテ實力ヲ有セス濟南ヨリ派遣セラレタル祝旅長ノ兵約千名駐屯シ將來祝カ畢ノ地位ニ代リ駐屯ノ予定ナリト云フ)ト協力シ最善ヲ尽スヘク從來内港ニ繫留セル艦隊モ二十三日ヨリ二隻ヲ外港ニ移泊シ警備ニ当ラシムル筈ナリト答ヘタリ今後ノ情報交換方ニ關シテハ支那側各方面ト連絡ヲツケ置キタルカ尚當館ニ於テハ二十三日邦人各工場代表者ヲ召集シ一応南方ノ情勢ヲ説明シタル上今後ノ対策及日支官憲トノ連絡方法等ニ付予メ協議ヲ遂ケ万一ノ場合違算ナキ様措置スル筈

申ス迄モナキ儀ト存スルモ尚此上トモ居留民ヲシテ南方ニ於ケル一二突発事件ヲ見テ直ニ誇大ノ騒ギ立テヲ為サス其ノ居ニ安ンセシムル様説示方可然御措置アリ度シ
濟南ニ電報アリ度シ

522 昭和2年4月8日

在濟南藤田(栄介)総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

北軍の敗北により濟南在留邦人約二千総引揚
の可能性あり政府の方針稟請について

濟南 4月8日後發
本省 4月9日前着

第五七号(極秘)

当地方状況ニ関シテハ屢次電報ノ通河南方面ニ於テハ奉天軍稍々有利ナルモ江蘇安徽方面ニ於テハ山東軍相当苦戦シアルモノノ如ク殊ニ南軍ハ積極的ニ進撃ノ態度ニ出テ居ルニ對シ山東軍ハ防衛ニ專ラニシテ此ノ点既ニ士氣ノ上ニ多大ノ不利ト見ラレ加之一方孫伝芳ノ行動ハ一日モ監視ヲ忽ニスルヲ得ス又畢庶澄ヲ銃殺シタル結果山東々部ノ不安ハ除カレタルモ然モ各地土匪ノ跋扈及其レニ對スル南方派ノ煽動ハ極メテ警戒ヲ要シ又直魯連軍ハ合計約二十万余ト称

セラレ其ノ數ノ上ヨリ見レハ尠シトセサルモ然モ其ノ多クハ苦力、土匪、乞食、無頼漢等ヲ急募編成セル烏合ノ集ニシテ其ノ素質極メテ恶劣ナル上ニ何等組織的訓練ナク又其ノ指揮官ニ軍事的知識ヲ欠キ殊ニ大軍ヲ指揮スルハ最モ不得手トスル処ナルヲ以テ一般ニ山東軍ノ将来ハ極メテ悲觀セラレツツアリ若シ山東軍蚌埠及徐州ニ於テ破レ南軍更ニ積極的ニ進撃シ来レハ濟南ハ到底保チ得サルヘク其ノ節ハ敗兵、土匪南軍ト連続シテ非常ナル混雜ニ陥ルヘク予想セラルル仮リニ南軍ハ徐州ニ止マリ北上セストスルモ約二十万ノ敗兵カ濟南ニ殺到スルニ於テハ其ノ兵ノ素質前述ノ通ニ有之且山東ハ到ル処土匪無頼漢ノ徒多ク是等カ其ノ不秩序ニ乗シテ自暴自棄ノ敗兵ト共ニ市中ヲ攪乱スルニ於テハ之亦戰爭以上ノ混雜ヲ免カレサルヘシ

一般ニ如上ノ如ク觀測セラレ且南方各地ノ例ニ刺戟セラレ当地人心ハ漸次動揺ヲ来シツツアリ殊ニ英米人ハ相当恐怖ノ念ニ驅ラレ居ルモノノ如ク婦女子及宣教師等ハ既ニ殆ト全部引揚ケ独逸人モ昨七日当地「スタルスホテル」ニ會合シ全部引揚ケニ決シタル趣ナリ本邦人ハ猶比較的冷靜ヲ保チ居ルモ然モ南京、漢口事件並北方露支關係ノ新發生ニ刺

北京、青島、天津へ転電セリ

523 昭和2年4月9日

高岡(健吉) 濟南居留民団行政委員
會長より
幣原外務大臣宛(電報)

徐州方面の戦乱に鑑み在留邦人保護のため至急派兵方について

濟南 4月9日後發
本省 4月9日後着

徐州方面變亂ノ影響必然南京事件ノ覆轍ヲ思ハシメ然モ山東鐵道中斷ノ危懼ヲ禁セス在留邦人二千ノ生靈何時亡フルカ測リ難シ此際深ク実情ヲ洞察セラレ至急派兵保護ヲ仰ク

524 昭和2年4月11日

幣原外務大臣より
在濟南藤田總領事宛(電報)

濟南方面在留邦人引揚げの際の措置方について

本省 4月11日 發

第一五号

貴電第五七号及第五八号ニ關シ

貴地方ノ事態悪化シ居留民ノ引揚ヲ必要トスルニ至レル場合ニ於テハ貴館員ト共ニ一時之ヲ青島ニ避難セシメ海軍力

載セラレ漸次不安ヲ感シ来リ既ニ正金銀行、東洋棉花、三井等各支店ハ各本店ノ内命アリタリトカニテ家族ヲ引揚ケシメツツアリ本官ハ是等自ラ引揚ケヲ希望スルモノニ對シテハ敢テ之ヲ阻止セス万全ノ策トシテ尤モナルヘキ旨応對シツツアルモ然モ当方面ノ事態ハ何時突發的ニ重大事件發生セストモ限ラス現ニ丘檢察庁長ノ内話ニ依レハ南軍ハ其ノ捕虜トセル山東軍ノ兵士ニ急ニ革命思想ヲ吹込ミ之ヲ山東各地ヘ帰還セシメ山東内部ノ攪乱策ヲ講シツツアリトノコトニテ何時事變突發スルヤモ計リ難ク殊ニ当地ハ各地ト事情ヲ異ニシ深ク内地ニ位シ居ルヲ以テ一朝事變發生スルニ於テハ其ノ交通並ニ通信機關ノ杜絶ハ当地ノ最モ不安トスル処ナリ現ニ本月五日畢庶澄銃殺事件發生ノ当日モ当地青島間電信電話共ニ不通トナリシ事実アリ一部邦人中ニハ当地ニ出兵シ武力防衛ヲ希望スルモノアルモ当地ノ地勢及大勢ヨリ見テ之ヲ期待シ得サルヘキハ勿論ノ儀ニシテ結局当地地方二千余人ノ生命ノ安全ヲ計ル為ニハ必要ト認メラルル時期ニ於テ全部引揚ケルヨリ外ナカルヘシト認メラルル処当地地方在留民保護ニ關シ政府ノ御方針ニ關シ至急何分ノ御回電ヲ請フ

ノ保護ノ下ニ立タシムルノ外無カルヘキモ其ノ時機ハ畢竟江蘇方面ノ戦局ノ推移ニ依リ決セラル可キモノニシテ将来山東軍カ例ヘハ徐州ヲ敗退シタル場合初メテ右ノ避難ヲ必要トスルニ至ル可ク目下ノ処末々其ノ時機ニ非スト認メラルルノミナラス若シ貴地ニ於テ時局ノ見究ハメヲ俟タスシテ居留民ノ引揚ヲ行フカ如キコトアラハ之カ為メ北支那各地ハ勿論延イテ滿州方面居留民ノ人心ヲ不必要ニ動揺セシムル悪影響アル可キヲ以テ貴地トシテハ輕々ニ斯カル非常措置ニ出ツルヲ得サル可ク旁々貴官ハ居留民ノ慰撫方ニ付此上トモ充分御手配アリ度ク陸海軍側トモ協議シタルカ貴地ニ予メ兵力ヲ以テ警備スルコトハ地理上又政治上困難ナルヲ以テ万一ノ際ニハ膠濟鐵道ニ於テ予メ特別列車ヲ利用シ青島及濟南ノ警官隊ヲ以テ保護シツツ引揚ケルノ外ナシ右ノ点ヲ考慮シ予メ児玉等日本側最高傭員ト内密打合ヲ遂ケ置カルルノ必要アル可シト存セラル尚青島ニ一時引揚ヲ必要トスル場合ニ於テモ山東ニ於ケル邦人ノ既得ノ地歩ニ鑑ミ時局ノ安定後ハ速カニ復歸セシメ度キ方針ニシテ右ハ今次長江方面各地ニ於ケル居留民ノ一時避難ト其ノ趣旨ヲ同一ニスル次第ナリ以上貴官ノ御含迄

525 昭和2年4月16日 幣原外務大臣より
在青島矢田部総領事宛(電報)

濟南地方在留邦人の青島への避難および保護
方について

本省 4月16日 発

第四〇号
濟南ヨリ転電スヘキ本大臣宛在濟南総領事宛電報第一五号
(五二四文書)
二関シ

貴地方方一ノ際ニ於ケル警備及居留民保護方ニ関シテハ往
電第三七号及前記濟南宛往電等ニテ申進シタル通り今少シ
(五二五文書)
ク時局ノ推移ヲ見究メスシテ居留民ヲ引揚クルカ如キハ北
支及滿州方面ニ対スル影響ニ鑑ミ此際輕々ニ行ヒ難キ所ナ
ルモ一方山東ニ於ケル我カ既得ノ地歩保全方ニ付テハ当方
ニ於テ關係当局トモ連絡ヲ執リ慎重考慮中ナル処濟南ノ警
備ニ海軍陸戰隊ヲ用フルカ如キハ用兵技術上問題トナラス
又陸兵派遣モ地理上並政治上ノ關係等ヨリ至難ナルヲ以テ
事態最悪ニ陥レル場合ニハ同地ノ居留民全部ヲ貴地ニ避難
セシメ貴地居留民ト共ニ海軍力ヲ以テ保護スルノ外無ク之
カ為メ貴地ニ対スル差当リノ警備トシテハ海軍ニ於テモ在

〇二二

青島 4月19日前発
本省 4月19日前着

第七三号(極秘)
貴電第四〇号ニ関シ(在留民引揚ニ関スル件)
(五二五文書)

万一ノ場合ニ於ケル濟南及沿線各地ノ本邦人引揚ケ及当地
ニ於テ之等引揚者收容方ニ付テハ本官ニ於テモ先般來種々
考慮ヲ回ラシ居リシ処ナルカ斯ル場合ニ立至ラハ膠濟鐵道
ノ運轉直ニ円滑ヲ欠クニ至ルヘキコト勿論ニシテ若シ濟南
其他ニ於ケル事態カ排日的傾向ヲ有スルニ至ルコトアル場
合ニハ到底其ノ安全ヲ期スヘカラス左リトテ我武力ニ依リ
全線ノ運轉ヲ維持又ハ管理スルカ如キハ独リ政治上ノ關係
ヨリ至難トスルノミナラス相当ノ大軍ヲ動カスニ非サレハ
事實上不可能ナリ結局奧地本邦人ノ安全ヲ期スル為ニハ徐
州及蚌埠ノ形勢次第ニテ早目ニ(仮令後日ニ至リテ幾分慌
テ過キタルノ譏ヲ免カレサルカ如キコトアリトスルモ万全
ヲ期スル為ニハムヲ得サルヘシ)当地迄引揚ケヲ断行スル外
ナカルヘク思考ス其時期ノ判断ハ頗ル困難ナルモ徐州ノ陥
落ヲ待ツハ晩キニ失スヘシ(濟南宛電第一五号ハ接到セ
(五二四文書))

支公使宛往電第一九五号ノ通り手配中ナルカ濟南ノ引揚ヲ
必要トスル場合ノ対策ニ付テ更ニ海軍側ト段々協議ノ結果
右ノ場合貴地ノ警備ハ海軍ニ於テ全力ヲ尽シテ引受ケ之ニ
對シテ貴館及濟南ノ警察官ハ勿論膠濟鐵道沿線配備ノ警察
官全部ヲ挙ケテ濟南居留民ノ避難ヲ援護セシムルコトニ大
体方針ノ決定ヲ見タルニ付テハ貴官ハ予メ藤田総領事トモ
充分協議ノ上現ニ配置中ノ警察官七〇名ニテ右避難援護ニ
手薄ヲ感セラル場合ニハ之カ補充増員方ニ付貴見至急申出
テラルルト共ニ膠濟鐵道利用方ニ付テハ日本人最高傭員
トモ連絡シテ具体的便法ヲ講究セラレ特ニ兎玉ニ對シテハ
緊急ノ場合先年大村ノ総同盟罷業ノ際ニ於ケル奮闘振リニ
モ準シ此際大決心ヲ以テ機宜ノ処置ヲ断行スル様篤ト説得
セラルル等早キニ臨ンテ充分御手配相成り度ク尚本件ハ居
留民ノ人心ニ對スル影響ヲモ慮慮シ極ク内密ニ取運フヘキ
コトハ申ス迄モ無キ次第ナカラ為念
本大臣ノ訓令トシテ濟南ニ転電アリタシ

526 昭和2年4月19日 在青島矢田部総領事より
幣原外務大臣宛(電報)

濟南及び沿線各地の在留邦人引揚者收容方ニ

ス)
蓋シ徐州陥落セハ単ニ濟南カ直ニ非常ノ混乱ニ陥ルヘキノ
ミナラス鐵道全線ニ互リテ混乱状態ヲ惹起スルヲ免カレス
甚タシキハ南軍カ鐵道中断ノ作戦ニ出ツルコトアリ得ヘキ
ヲ想像シ居ラサルヘカサレハナリ就テハ目下本官限リノ
腹案トシテ濟南ニ三列車、沿線ニ一列車ヲ配シテ本邦人収
容ヲ為サシムヘク右ニ要スル客、貨車、機關車ハ急迫ノ間
ニ合フ様適當ノ地点ニ予メ配備方兎玉限リノ肚ニテ手配シ
置ク様極内密ニ申含メアリ

右列車運輸ノ「ダイヤグラム」モ兎玉ニ於テ作製中ニテ之ヲ
運轉スル場合ニハ他ノ一般列車ノ運輸ハ一切之ヲ取消サシ
ムヘク從テ線路ニ故障無キ限リ本邦人ヲ列車ニ收容シテヨ
リ十二時間位ニテ濟南ヨリ当地ヘノ引揚ケヲ実行シ得ル見
込ナリ(濟南在留民ハ為シ得レハ一部天津ニ向ハシムル事
モ考ヘ置クヲ要ス)当地ニテハ親戚知人等ニ寄寓ノ便ヲ有
スルモノヲ除キ全部中学校女学校等炊事ノ設備有ル場所ニ
一時收容シ得ル考ナリ此ノ際特ニ必要ナルハ前線ニ於ケル
形勢ノ判断ニシテ右ニ付テハ濟南ニ於テ小野中佐其他我武
官ト緊密ナル連絡ヲ取り出来得レハ累次前線濟南間ヲ往復

セシメテ形勢ノ観測上時機ヲ失セサル様手配スル事最モ必要ナリ尚引揚ケ決行ノ際掩護ノ必要上當館警察官ノ大部分ヲ派出スルヲ要スヘク思考セラルル処仮令當地ノ警備ノ為ニハ海軍力ヲ有スルト雖モ斯ル場合允奮ヲ免カレサルヘキ本邦人ノ取締又主トシテ救護ノ目的ノ為ニ今回民団ニ於テ組織シタル義勇隊ノ指揮並ニ陸戰隊ノ後方勤務等ノ必要有リ少クトモ三十人位ハ當地ニ留メ置ク事絶対必要ナルヲ以テ(目下當館ニ現在スル警察官ハ警部以上ヲ除キ三十九人ニ過キス)此ノ際濟南及當地並各分館所在地ニ相當増員ノ必要ヲ認ム右増員數ハ更ニ電申スヘキモ予メ御含置ヲ請フ尚引揚計畫ニ付テハ實際問題ニ付直接打合せヲ為シ置ク事適切ト考フルニ付此ノ際他用ニ託ケ濟南總領事同警察署長各分館主任ト當地ニ於テ會議スル事ニ手配シタリ御承認ヲ請フ

濟南、張店、博山、坊子へ転電セリ

527 昭和2年4月20日 在濟南藤田總領事より 田中外務大臣宛(電報)

濟南附近の情勢安定し現在のところ居留邦人引揚げの必要なしと認めらるる情勢について

七 山東出兵問題

局側ニ於テ予期シツツアル状態ナリ右ノ如ク当地方内外ノ形勢ハ一般ニ良好トナリ往電^{五三}第五七号發電ノ當時トハ余程状態ヲ異ニシ一般市中モ平靜トナリ商取引モ普通ニ行ハレ一時動揺セシ人心モ漸次安定シツツアリ從テ新ニ形勢ノ大ナル變化ナキ限り当地居留民避難ノ必要ナキ次第ナル処此際大袈裟ニ避難ノ準備ヲ為スコトハ事情ニ暗キ一般民心ヲシテ却テ疑心暗鬼ヲ生セシメ徒ラニ動揺セシムル虞アルヲ以テ此際ハ只万一ノ際ノ計畫ノミニ止メ具体的ノ準備ハ更ニ将来形勢ノ變化ヲ見タル上順ヲ追フテ着手スルヲ妥當トスヘシ又約二千ノ当地居留民ヲ一時ニ避難セシムルコトハ非常ナル混雜ヲ来ス虞アルヲ以テ今後當方面ノ形勢ニ重大ナル事變突發ノ虞ナキ限り大体三期ニ分チ第一期ニハ蚌埠及徐州戰ノ結果ヲ見テ老若婦女ヲ避難セシメ第二期ニハ山東(脱)開戦ノ結果(脱)ヲ帯ヒタルモノ及已ムヲ得サル事情アルモノ以外ノ男子ヲ避難セシメ第三期ニハ南軍ノ泰安線突破ヲ見テ残り全部ヲ避難セシムル予定ナリ其時ハ或ハ膠濟線不通トナル虞モアルヲ以テ津浦線ニテ天津へ赴クコトモ予メ考究シ置クヘシ兎ニ角万一ノ為予メ大体ノ引揚計畫ヲ立ツル為青島總領事發貴大臣宛電報第七三号末段ノ

濟南 4月20日後發
本省 4月21日前着

第六六号

当地方形勢ノ變化ハ一、南軍ノ積極的進撃孫伝芳ノ態度便衣隊ノ活動及露支關係ノ急變等ニ依テ左右セラルル次第ナルコトハ累次電報ノ通ナル処其後南方派ハ御承知ノ通左右兩派ニ分裂シ從テ當分南軍ハ積極的北進ノ機會ヲ得サルヘク觀察セラレ二、孫伝芳ト張宗昌トノ關係ノ改善セラレツツアルコトハ既電ノ通ニ有之三、便衣隊ノ潜入ニ関シテハ當局ハ極力之ヲ防止シツツアリ且北方ハ南方ト事情ヲ異ニスルヲ以テ南方各地ニ於テ見タルカ如キ便衣隊ノ活動ハ之ヲ北方ニ於テハ見ラレサルヘシト思ハレ四、露國モ急ニ滿蒙方面ニ武力ヲ使用スル程強硬ナル態度ニ出テサルヘキヲ以テ從テ奉天軍モ差当リ後顧ノ憂ナカルヘク右ノ如ク最近各方面ノ狀況ハ山東軍ニトリ好都合ニ進展シツツアリ加之全線ノ戰況又有利ニシテ既ニ津浦線ニ於テハ浦口ヲ占領シ天津徐州間普通列車開通シ孫伝芳軍ハ既ニ揚子江北一帯ヲ其手ニ収メ津浦線以東ハ問題ナク安徽方面ニ於テモ既ニ壽州合肥方面迄進出シ近ク江北一帯ヲ平定シ得ヘシト山東當

次第モアリ本官ハ二十二三日頃青島ニ出張スヘキニ付右御承認ヲ請フ
在支公使、青島、天津へ転電セリ

528 昭和2年5月25日 田中外務大臣より 在濟南藤田總領事宛(電報)

濟南在留邦人中婦女子の青島引揚げについて

- 付記一 濟南方面居留民保護について
二 濟南方面派兵について
三 青島方面軍艦増派について
四 京津地方増兵について

本省 5月25日後發

第二二号(至急極秘)

安徽ノ戰況ノ将来ハ今俄ニ之ヲ予断シ難キモ從來ノ例ニ徴シ万一戰況山東軍ニ不利ナル場合ニハ南軍ノ侵入ニ先チ山東軍ノ敗兵何時貴地ニ竄入スルヤモ計リ難ク万全ヲ期スル為貴地在留民中ノ婦女子丈ハ此際直ニ青島ニ避難セシムルコトトシ度ニ付テハ收容所、輸送方法等在青島總領事トモ御協議ノ上可然御取計相成度右応援ノ為不取敢青島宛往電第五五号ノ通り訓令セリ
將又貴地其他山東地方一般在留民保護ニ付万全ヲ期スル為

其ノ方法ニ付目下陸軍側ト協議中何分ノ儀追テ申進スヘキ
モ御含迄

訓令トシテ青島ニ転電アレ

北京、天津ニ転電アレ

奉天、上海及上流各地、広東及雲南、汕頭、香港、厦門、

福州 転電スミ

(付記一)

濟南方面居留民保護ニ関スル件(極秘)

(五月二十四日閣議ニ基キ陸海軍側ト協議セ

ル措置案)

南北戦乱ノ推移ニ伴ヒ山東方面殊ニ濟南地方混乱状態ニ陥
リ我カ在居留民ノ生命財産ニ対シ掠奪暴行等行ハルル惧ナシ
トセス依テ該地方居留民保護ノ為左ノ措置ヲ執ルコト可然
ト思考ス

甲、内部關係

(欄外記入二)

- 一、在濟南居留民中婦女子並小兒ハ直ニ青島ニ避難セシムルコト
- 二、青島及膠濟鐵路沿線ノ巡查ヲ濟南へ増援セシムルコト

(イ)我方ハ山東安徽方面ノ時局ニ顧ミ敗兵ノ掠奪及便衣

隊ノ煽動暴行ニ対シ濟南方面居留民保護ノ為自衛上ノ手段ヲ執ルノ止ムヲ得サルニ至リタル処右目的ヲ達スル為ニハ地理的關係上南支方面ノ如ク軍艦ヲ以テスルヲ得ス陸兵派遣ノ要アリ

(ロ)但シ右ハ純然タル居留民保護ノ見地ヨリ出テタルモノニシテ支那南北兩軍ノ作戦ニハ一切干渉セサルモノナルコト

(ハ)從テ今後同方面ノ危険去ルニ至ラハ我方ハ直ニ軍隊ヲ撤退セシムヘキコト

ヲ予告セシムルコト

三(イ)直ニ声明書ヲ發シテ右ノ趣旨ヲ明ニスルト共ニ

(ロ)張作霖側ニ対シテハ 在支公使

南京政府ニ対シテハ 在上海總領事

其他南方側各勢力ニ対シテハ 在広東、漢口、福州、汕頭、厦門等各領事官

ヲシテ右趣旨ヲ予メ通告セシメ我方派兵ノ趣旨ニ付誤解ナカラシムルコトヲ期スルコト殊ニ蔣介石側ニ対シテハ前記二、ノ(ロ)我方ノ派兵ハ毫モ南北ノ作戦ニ干渉

(欄外記入三)

ト
三、在青島總領事ノ裁量ニ依リ同地海軍側ト協議ノ上青島市街四方及滄口方面ノ要所ニ陸戰隊ヲ揚陸配置スルコト

四、濟南ニ於テハ居留民ヲ同商埠地要所ニ集合セシメ青島ニ於テハ特別列車ヲ準備スルコト

五、前記居留民保護ノ為必要ナル陸兵ヲ濟南ニ派遣スルコトトシ之カ準備ヲ整フルコト

六、右陸兵ノ輸送ハ特別列車ニ依ルコト尚一部陸兵ヲ連絡兵トシテ張店ニ置クコト

七、在濟南居留民ハ必要ニ応シ少数ノ残留管理者ヲ除キ或ハ膠濟線上ノ一地点ニ避難セシムルコト右ハ一時的避難ナルヲ以テ差当リ張店迄トスルコト

八、食糧其他避難民救護ノ準備ヲ整ヘ置クコト

乙、涉外關係

(欄外記入四)

一、以上八項ノ手配ニ関シ在濟南青島兩總領事へ必要ノ訓電ヲ發スルコト

二、在濟南青島兩總領事ヲシテ張督弁及趙商埠總弁ニ対シ

セントスルモノニ非ス從テ蔣ニシテ北進ヲ欲セハ自由

ニ右作戦ヲ繼續シ得ヘキコトヲ充分説明スルコト

四、英米仏伊等關係国ニ対シテハ東京及北京ニ於テ各代表者ニ対シ前記ノ趣旨ヲ充分説明シ尚前記諸國駐在帝

国大使ヲシテ各任国政府ニ通告セシムルコト

(欄外記入二) 二十四日夜写手交

(欄外記入二) 訓令スミ

(欄外記入三) 陸海參軍へ写交付済

(欄外記入四) 二十五日中ニ必要ナル兵数及計画 応急措置

陸軍ヨリ提案ノ答 右高裁ヲ仰キタル後閣議ヲ請ヒ勅裁ヲ經タル後決行

(付記二)

濟南方面派兵ノ件(極秘)

一、目的 濟南及其以東膠濟鐵道沿線要點ニ於ケル帝國臣民ノ保護

二、兵力 万全ヲ期センカ為ニハ充實セル一師團ヲ要

スルモ差当リ某一師團ヨリ出シ得ル最大限ノ平時部隊(約五千)ヲ派遣シ情況之ヲ要スト認ムルトキハ更ニ他ノ師團ヨリ若干ノ

補足ヲナス

三、到着期日

運送船其他ノ準備及輸送ノ為メ発令後概ネ九日ニシテ青島ニ到着ノ予定

從テ応急ノ為メ取敢ヘス旅順方面ヨリ約二ヶ大隊(約九百)ノ歩兵ヲ急派シ前項ノ部隊ノ到着ヲ待タシムルコトトス

此部隊ハ遅クモ第四日青島ニ着ス

(欄外記入一)

陸軍案

(欄外記入二)

兵力御決定ノ上明日中ニ閣議ニ請議ノ手續ヲ要ス(木村亜細亜局長の印)

(付記三)

青島方面軍艦増派ニ関スル件

昭和二年五月二十四日午後六時海軍省軍務局杉山中佐ヨリ柳井事務官宛左ノ通り電話アリタリ

海軍省ニ於テハ今次支那時局ニ鑑ミ青島方面軍艦増派ノ要ヲ認メ常盤ヲ急派スルコトニ決定シタルカ同艦ハ準備其他ノ都合上多分二十六日頃佐世保出発ノ運トナルヘシ
末尾記入 (二十六日出発ニ決定ノ旨二十五日夜再電話アリタリ)

話アリタリ)

七 山東出兵問題

本省 5月27日 前着

第九二号

(五二八文書)
貴電第二二二号ニ関シ

居留民引揚ハ各方面ニ重大ナル關係ヲ有スルノミナラス居留民自身ニトリテモ種々複雑ナル利害關係アリ從テ之カ実行ハ極メテ慎重ニナスヘキモノナルコトハ申迄モナキ儀ナル処特ニ当地ノ如ク小資産ノ居留民多ク又其日暮シノ者サへ鮮カラサル土地ニ於テハ引揚ハ直ニ彼等ノ生活根柢ヲ破壊スル次第ナルヲ以テ万已ムヲ得サル場合ノ外可成各人ノ随意ニ任セ之カ強制ヲ差控フルコト考慮ノ必要ナキヤト存セラル此際婦女子避難ハ万全ヲ期スル為ニハ尤ノ次第ナルモ当地方ニ於テハ屢次ノ往電ノ如ク未タ夫程危機切迫セリトハ認メラレス人心ハ一時多少動揺セルカ如キモ前方ノ実情漸次明トナルニ從ヒ既ニ鎮靜ニ歸シ目下平常ト何等異ナルナク從テ此際婦女子文ノ引揚ヲ勧告スルモ多数ノ居留民ハ之ヲ必要トセス且彼等自身ノ利害關係等ヨリ之ニ応セサルモノ多キ状態ナリ又之ヲ強制引揚シムルニ於テハ当地居留民一部ノ性質並從來ノ例ニ鑑ミ生活ノ保障損害賠償等種々ノ問題ヲ作ル虞アリ旁將來当地ニ於テ必要ト認ムル時機

(付記四)

京津地方増兵ノ件(極秘)

(欄外記入)

濟南方面派兵ヲ要スルト同時ニ京津地方ニモ情況ノ變化ニ応シ派兵ヲ要スヘシト信スルヲ以テ予メ閣議ニ於テ之ヲ認ムル如クナスコト緊要ナリ然ラサレハ或ハ機ヲ失スルナラシムル場合ノ派兵ハ某一師団ヨリ出シ得ル最大限ノ平時部隊トス

南滿ヨリハ最早派兵スルヲ得ス

(欄外記入)

本件兵力御決定ノ上濟南派兵前ニ列國ニ通告致度シ(木村亜細亜局長の印)

(付記)

一、北支駐屯軍増派ノ件(約二大隊)
可成速ニ決定關係國ニ通告ヲ要ス之ニヨリテ濟南方面居留民保護上間接ニ重大影響アルヘク濟南派兵モ少数ニテ足ルノ効果アリト判断ス

529

昭和2年5月26日

在濟南藤田總領事ヨリ
田中外務大臣宛(電報)

濟南在留邦人婦女子の青島への避難実行時期
について

濟南 5月26日後発

ニ於テ引揚シムルコトトセハ好都合ト存セラル現在徐州蚌埠方面南北兩軍ノ勝敗ハ未タ遽ニトスヘカラサルカ將來飯二徐州ニ於テ破ルルトスルモ徐州濟南間約二百哩アリ且所々山嶽重疊シ守ルニ易ク攻ルニ難シ飯二南軍更ニ北進ヲ実行スルモノトシテモ到底南方平地ノ如ク急激ニ進出シ得サルヘク殊ニ河南定マラサル以上南軍ノ北進ハ困難ナリ又山東軍ノ敗兵モ濟南附近ノ戦鬪ニ破レ大挙殺到シ結局濟南ヲ放置スルモノト定ラサル以上掠奪騷擾ヲナスモノニアラサルハ從來各地ノ例ニ照シ明ナルヘク從テ徐州ノ大勢山東軍ニ不利ニシテ何人モ引揚ヲ必要ト認ムルニ至テ後婦女子ヲ青島ニ避難セシムルコトトシテモ決シテ遅カラサルヘシト認メラル且北軍既ニ蚌埠ヲ回復シ漸次頽勢ヲ挽回シツツアル今日尚將來ハ予測シ難シトスルモ現状右ノ如クナル以上御申越ノ當時トハ稍事態ヲ異ニスル次第ナルヲ以テ婦女子ノ自發的避難ハ之ヲ差止ムル限リニ非ストスルモ(現在ノ処自發的ニ引揚ヲ希望スルモノ殆トナシ)此際我方ヨリ進テ避難セシムルコトハ尚時機ヲ見度ク前方形勢ニ関シテハ本官ハ出来得ル限リノ方法ヲ以テ注意シ万違算ナキヲ期スヘキハ勿論又婦女子青島避難ノ御訓令ニ基キ青島總領事ト

モ協議シ其準備ハ充分ナシ置クヘキモ其実行時機ニ關シテハ本官ノ裁量ニ任ス様御了承アリタシ右ニ關シ更ニ何等ノ御訓令ヲ仰ク
在支公使、青島、天津へ転電セリ
張店、博山、坊子へ暗送セリ

530 昭和2年5月27日 田中外務大臣より 在青島矢田部総領事宛(電報)

山東出兵およびこれに伴う措置について

- 別電一 五月二十七日付田中外務大臣より在中国芳沢公使、在青島矢田部総領事宛第一六二号
出兵に關する閣議決定(甲号)
- 二 五月二十七日付田中外務大臣より在中国芳沢公使、在青島矢田部総領事宛第一六三号
出兵に關する声明書(乙号)
- 三 五月二十七日付田中外務大臣より在中国芳沢公使、在青島矢田部総領事宛第一六四号
濟南方面派遣軍の行動について(丙号)
- 付記 五月二十六日総領事官邸における濟南派兵に關する協定事項

第五八号(至急極秘)

本省 5月27日後發

右輸送ノ為ニハ六十輛(三列車分)ヲ要ス委細ハ熊野丸ニテ貴地ニ向ヘル草場少佐ト協議アレ
四、青島ニ於ケル派遣軍ノ宿營ニ就テハ貴地陸軍代表同少佐ト打合ノ上支那側ト交渉アリタシ
本大臣ノ訓令トシテ別電ト共ニ濟南ニ転電シ右ノ趣旨ニヨリ張宗昌ニ然ル可ク申入レシメラレタシ
編注 本電は同日在中国芳沢公使へ転電された

(別電一)

本省 5月27日後發

合第一六二号(至急極秘)

別電甲

昭和二年五月二十七日閣議決定

一、陸軍大臣、外務大臣間ニ協定シタル左記四項ニ付五月二十七日閣議ニ於テ大体承認

(イ)濟南帝國居留官民及膠濟鐵道沿線要地ニ於ケル帝國臣民保護ノ為不取敢滿州ヨリ歩兵四大隊及之ニ付屬スル部隊ヲ派遣ス(約二千人)

(ロ)右派遣部隊ハ差当リ第十師團ノ部隊ヲ充當シ得ヘキモ

濟南宛往電第二二二号末段ニ關シ
二十七日別電合第一六二号(甲号)ノ通り閣議ニ於テ決定シ二十八日勅裁ヲ仰キ閣議決定第二項ノ部隊ニ出動ヲ命セラレ同部隊ハ三十日大連發同三十一日青島着ノ予定ナルニ就テハ

一、貴官ハ直チニ貴地当局ニ對シ別電合第一六三号(乙号)ノ声明書ノ趣旨ニヨリ出兵ノ不得已理由ヲ説明セラルルト共ニ濟南ハ海岸ヲ距ル遠隔ノ奥地ニ位シ居留民保護ノ準備ハ急速ノ措置ヲナシ難キコト及支那ノ形勢刻々變化スル今日ノ事態ニ於テハ早目ニ必要ノ準備ヲナス事ノ不得已次第二ニシテ從來ノ事例ニ徵シ帝國政府ニ於テ此ノ際特ニ憂慮スルハ敗竄兵ノ乱入又ハ戰時混乱ノ際ヲ利用スル暴徒ノ暴行ニヨリ長江方面ニ於テ經驗シタル不祥事件ノ再發ニアルコトヲ懇切ニ説明シ置カレタシ

二、右派遣軍ノ濟南地方ニ於ケル行動ニ就キ予メ別電合第一六四号(丙号)ノ通り陸軍当局トノ間ニ協定ヲ遂ケタルヲ以テ御含置相成度シ

三、將來右派遣軍隊輸送ニ就テハ別電合第一六四号(丙号)(ニ)ノ通り御含ノ上兪玉ト協議シ交渉セラレタシ

同師團ハ近キ將來ニ於テ交代ヲ要スルヲ以テ駐留長キニ互ルノ見込ナルニ於テハ成ル可ク速ニ新ナル部隊ト交代セシムルヲ要ス

(イ)北支那駐屯軍兵力ノ増加ヲ必要トスル場合ニハ第一項ニ準シ不取敢滿州ヨリ所要ノ部隊ヲ派遣ス

(ニ)第一項及第三項ノ派兵ノ為生スル在滿兵力ノ不足ハ内地ヨリ補充ス

二、前項(イ)ノ実行トシテ直ニ滿州駐屯軍ヨリ二千人ヲ不取敢青島迄派遣シ形勢ヲ見テ濟南ニ前進ノコト

三、其他ノ事項ニ付テハ今暫ク時機ヲ見テ更ニ協議決定スルコト

四、右派兵決定シタル時ハ直ニ南北ノ当局ニ對シテハ在外公館ヨリ東京ニ於テハ外務大臣ヨリ英、米、仏、伊四國ノ代表者ニ對シ派兵ノ説明通告ヲナシ同時ニ新聞ニ依リ別紙声明書ヲ發表スルコト

五、列國ニ對シテハ協議事項(ハ)北支兵力増加ノコトヲモ同時ニ通告スルコト

(別電二)

合第一六三号(至急極秘)
別電乙

支那ニ於ケル最近ノ動乱殊ニ南京、漢口其他ノ地方ニ於ケル事件ノ実跡ニ徴スルニ兵乱ノ際支那官憲ニ於テ保護充分ナルヲ得サリシ為在留帝国臣民ノ生命財産ニ対スル重大ナル危害ヲ被リ甚シキハ帝国ノ名誉毀損ノ暴挙ヲ見タリ從テ現下北支ノ動乱切迫ノ際此種事件再発ノ虞ナキヲ保セス今ヤ右戦乱ハ濟南地方ニ波及セムトシ同地在留帝国臣民ノ生命財産ノ安全ニ付危惧ノ念措ク能ハサルモノアリ同地ニハ帝国臣民ノ居住スルモノ二千ノ多数ニ上リ而モ同地ハ海岸ヲ距ルコト遠キ奥地ニ在ルヲ以テ長江沿岸各地ニ於ケル如ク海軍力ニ依リ之ヲ保護スルコト到底不可能ナルヲ以テ帝政府ニ於テハ不祥事件ノ再発ヲ予防スル為陸兵ヲ以テ在留邦人ノ生命及財産ヲ保護スルノ已ムヲ得サルニ至レリ然ルニ右保護ノ為派兵ノ手配ヲ為スニハ相当ノ日子ヲ要シ而カモ戦局ハ刻々変化シツツアルニ顧ミ応急措置トシテ在滿部隊ヨリ約二千ノ兵ヲ不取敢青島ニ派遣シ置クコトニ決セリ

方在留邦人ヲ要所ニ集結シテ之ニ保護ヲ加フルモノナルコト

(ロ)派遣軍ハ軍事占領ノ場合ト異リ徵発等占領ニ伴フ行為ヲ行ハサルコト

(イ)派遣軍ハ其ノ防備範圍以上ニ特定地帯ヲ定メサルコト

(ニ)派遣軍隊、軍需品其ノ他軍關係ノ鉄道輸送ニ付テハ一応鉄道当局ト交渉ノ上其ノ了解ヲ得ルニ努ムルコト

(ホ)山東鉄道沿線ノ警備兵ハ専ラ軍ノ後方連絡ノ為ニスルモノニシテ同鉄道ノ警備其ノモノハ原則トシテ支那側ノ担任スルコトヲ建前トスルコト

(ハ)派遣軍撤退ノ時機ニ付テハ派遣軍司令官並在濟南総領事ノ報告ニ基キ中央ニ於テ之ヲ決定スルコト

(付記)

昭和二年五月二十六日総理官邸ニ於ケル濟南派兵ニ関スル協定事項

一、総理ハ陸軍大臣外務大臣間ニ成立シタル別紙協議事項ヲ承認シタリ

二、五月二十七日極秘裡ニ閣議ニ於テ上記協議事項ニ付承

右陸軍力ニ依ル保護ハ固ヨリ在留邦人ノ安全ヲ期スル自衛上已ムヲ得サルノ緊急措置ニ外ナラスシテ支那國及其人民ニ対シ何等非友好的意図ヲ有セサルノミナラス南北兩軍何レノ軍隊ニ対シテモ其作戰ニ干渉シ軍事行動ヲ妨碍スルモノニ非ス

帝國政府ハ斯ノ如ク自衛上已ムヲ得サル措置トシテ派兵ヲ行フト雖モ初メヨリ永ク駐屯セシムルノ意図ナク同地方ノ邦人ニシテ戦乱ノ患ヲ受クルノ虞ナキニ至ラハ直ニ派遣軍全部ヲ撤退スヘキコトヲ茲ニ声明ス

(別電三)

合第一六四号(至急極秘)
別電丙

濟南方面派遣軍ノ行動ニ関スル件(案)

濟南ハ單純ナル支那自開商埠地ニシテ外国租界ニ非ス從テ同地方ニ派遣セラルヘキ軍隊ノ行動ニ付テハ租界等ニ於ケルモノニ比シ更ニ一層ノ制限ヲ受クル次第ナリ即チ

(イ)派遣軍ハ一定ノ地域ヲ占領スルモノニ非スシテ単ニ同地

認ヲ求ムルコト

三、上記協議事項ニ付軍部ニ於テ準備ヲナシ置キ其濟南派遣ノ時期ニ関シテハ支那ノ形勢次第ニヨリ之ヲ決定ス

陸軍ニ於テ総理大臣ノ承認ヲ經テ決定ス

四、右派兵決定シタル時ハ直ニ南北ノ当局ニ対シテハ在外公館ヨリ東京ニ於テハ外務大臣ヨリ英、米、仏、伊四國ノ代表者ニ対シ派兵ノ説明通告ヲナシ同時ニ新聞ニ依リ声明書ヲ發表ス

五、列國ニ対シテハ協議事項四、北支兵力増加ノコトヲモ同時ニ通告スルコト

付記

a、前記協議ニ依リ四ヶ大隊ヲ滿州ヨリ派遣シ其ノ欠ヲ内地ヨリ補充スル等ノ為ニハ大体一ヶ月ヲ要スル見込ニシテ其ノ費用ハ二百七十乃至三百万円ヲ要スルコト

b、濟南派遣兵ノ鉄道輸送ニ関シ一応支那ノ鐵路当局ノ諒解ヲ取付クルコトニ付テハ外務省側ニ於テ交渉スルコト若シ交渉成立セサルトキハ自衛上軍ニ於テ同鉄道ヲ使用スルノ外ナキコト

c、協議事項中ノ三、膠濟鐵道ノ保護ノ問題ニ付テハ支那ノ軍隊又ハ土匪等ニ依リ鐵道破壊ノ虞アル場合ニ初メテ問題トナルモノニシテ今直ニ之ヲ問題トスルモノニ非ルコト

五月二十六日協議決定

一、濟南帝國居留官民ヲ同地ニ於テ保護スル為不取敢滿州ヨリ歩兵四大隊及之ニ付屬スル部隊ヲ派遣ス(約二千人)情況ニ依リテハ更ニ有力ナル部隊ヲ増派スルヲ必要トス
二、前項派遣部隊ハ差当リ第十師團ノ部隊ヲ充當シ得ヘキモ同師團ハ近キ將來ニ於テ交代ヲ要スルヲ以テ駐留長キニ互ルノ見込ナルニ於テハ成ル可ク速ニ新ナル部隊ト交代セシムルヲ要ス

三、濟南及膠濟鐵道沿線ノ要点ニ於ケル帝國臣民ヲ確實ニ保護スル為ニハ少クモ歩兵八大隊ヲ基幹トスル混成部隊ヲ必要トス
四、北支那駐屯軍兵力ノ増加ヲ必要トスル場合ニハ第一項ニ準シ不取敢滿州ヨリ所要ノ部隊ヲ派遣ス

五、第一項及第四項ノ派兵ノ為生スル在滿兵力ノ不足ハ即

レ度シ

尚当地ニ於テハ二十八日日本大臣ヨリ当地四國代表者ニ對シ右(一)ノ点説明ノ答
別電ト共ニ天津、奉天ヘ転電アレ

編 注 別電甲、乙、丙号は五三〇文書参照

532 昭和2年5月27日 田中外務大臣より
在上海矢田、在広東森田(寬蔵)各総領事宛(電報)

山東出兵に關し南軍側の濟南占領および北進を妨ぐる意図なき旨表明について

本省 5月27日後發

合第一六五号(至急)

(一)支那ニ於ケル最近ノ動乱殊ニ南京漢口事件等ノ実跡ニ徴スルニ兵乱ノ際支那官憲ニ於テ保護十分ナルヲ得サリシ結果在留邦人ノ生命身体財産ニ對シ重大ナル危害ヲ蒙リ甚シキハ帝國ノ名譽毀損ノ暴挙ヲ見ルニ至リタルカ此等不祥事件ハ概ネ交戰軍隊ノ乱入ニヨリ若クハ混乱ノ際ヲ利用スル暴徒ノ為ニ生スルヲ常トセリ從テ今ヤ安徽戰乱ノ濟南方面ニ波及セントスルニ際シテモ斯ル不祥事ノ再發ナキヲ保シ難キ処同地ハ土地遠隔ニシテ在留民保護ノ

時内地ヨリ補充ス

531 昭和2年5月27日 田中外務大臣より
在中国芳沢公使宛(電報)

山東出兵および華北増兵の実施予定について

本省 5月27日後發

第二九五号(至急極秘)

(一)安徽方面戦局ノ推移ニ鑑ミ此際早キニ臨ンテ十分濟南居留民保護ノ手配ヲナシ置クコト緊要ト認メラレタルニ付十七日閣議ニ於テ別電甲号(合第一六二号)ノ通決定シ尚軍部ト外務トノ間ニ別電丙号(合第一六四号)ノ通打合ヲ了シ在青島及濟南総領事ニ對シ青島宛往電第五八号ノ通訓令シ置キタルニ就テハ貴官ハ張作霖及外交部ニ對シ別電乙号聲明書(合第一六三号)ノ趣旨ニ依リ我方派兵ノ理由等ヲ十分説明シ置カレ度シ

(二)尚別電甲号協議事項(ハ)北支増兵決行ノ時期及兵数等ニ付テハ未タ確定ニ至ラサルモ我方トシテハ必要ニ応シ約二千ヲ増派スル方針ニシテ其ノ時期ハ大体青島派遣部隊カ濟南ニ進ム時即形勢ノ悪化シタル際ナリ右ノ旨貴官ヨリ在貴地英米仏伊四國代表者ニ對シ前記(一)ト共ニ併セテ内話シ置カ

為必要ノ手配ヲナスニハ相当ノ日子ヲ要シ然モ支那ノ戦局ハ刻々変化シツツアルニ顧ミ我方ニ於テハ予メ万一ノ場合ニ備フル為ニ二十七日閣議ノ決定ヲ經テ此際濟南方面在留民保護ノ目的ヲ以テ在滿駐屯軍ヨリ約二千ノ兵ヲ不取敢青島迄派遣シ同地ニテ命ヲ待タシメ必要ニ応シ濟南ニ出動セシムルコトトシタリ尚右派遣軍ハ三十日大連出發三十一日青島着ノ予定

(二)然ルニ本件措置ニ付テハ支那現下ノ風潮ニモ鑑ミ或ハ之ヲ以テ支那主權ノ侵害ナリトシテ排日運動ヲ煽動シ或ハ我方ニ於テ暗々裡ニ北軍ヲ援助セムトスルモノナルカ如キ誤解ヲ生スルコトナキヲ保シ難キヲ以テ当方ニ於テ別電合第一六三号ノ通聲明書ヲ公表スルヲ答ナルニ付テハ貴官ハ必要ニ応シ右聲明書ヲ發表シ且貴官ノ裁量ニヨリ前記(一)ヲモ適宜付加説明セラレ我方派兵ノ趣旨ニ誤解ナカラシメムコトヲ期セラレ度ク尚本件派兵ニ對スル反響ニ付テハ特ニ御注意ノ上隨時電報アリ度シ
(三)貴地方南軍側当局ニ對シテハ直ニ別電聲明書及前記(一)ノ趣旨ヲ説明セラレタル上尚本件出兵ヲ以テ或ハ南軍ノ進出ヲ阻止シ北軍ヲ援助スルモノナリトノ誤解ヲ抱クヤモ

本省 5月27日後発

明方について

第二三〇号(至急)

(一)支那ニ於ケル最近ノ動乱殊ニ南京漢口事件等ノ実跡ニ徴スルニ兵乱ノ際支那官憲ニ於テ保護十分ナルヲ得サリシ結果在留邦人ノ生命身体財産ニ対シ重大ナル危害ヲ蒙リ甚シキハ帝國ノ名譽毀損ノ暴拳ヲ見ルニ至リタルカ此等不祥事件ハ概ネ交戦軍隊ノ乱人ニヨリ若クハ混乱ノ際ヲ利用スル暴徒ノ為ニ生スルヲ常トセリ從テ今ヤ安徽戦乱ノ濟南方面ニ波及セントスルニ際シテモ斯ル不祥事ノ再発ナキヲ保シ難キ処同地ハ土地遠隔ニシテ在留民保護ノ為必要ノ手配ヲナスニハ相当ノ日子ヲ要シ然モ支那ノ戦局ハ刻々変化シツツアルニ顧ミ我方ニ於テハ予メ万一ノ場合ニ備フル為ニ二十七日閣議ノ決定ヲ經テ此際濟南方面在留民保護ノ目的ヲ以テ在滿駐屯軍ヨリ約二千ノ兵ヲ不取敢青島迄派遣シ同地ニテ命ヲ待タシメ必要ニ応シ濟南ニ出動セシムルコトトシタリ尚右派遣軍ハ三十日大連出發三十一日青島着ノ予定

(二)然ルニ本件措置ニ付テハ支那現下ノ風潮ニモ鑑ミ或ハ之

測ラレサルニ付貴官ハ我方派兵ノ目的ハ前記ノ如ク全然在留民ノ生命財産ノ保護ニ在リ今後万一我軍隊ノ濟南出動ヲ見ル場合ニ於テモ我方ニ於テハ在留民ヲ濟南城外適当ノ場所ニ集結セシメ専ラ之ヲ保護スルニ止メ先年郭松齡事變ノ際ノ如ク一定ノ地域ヲ中立地帯トスルカ如キコトナク從テ南軍側カ濟南城ヲ占領シ尚北進スル場合ニ於テ之ヲ妨クルモノニ非サル旨ヲモ十分説明シ置カレ度シ

(四)將又北支駐屯軍ニ関シテモ同方面ノ形勢發展如何ニヨリテハ必要ニ応シ滿州方面ヨリ略同様ノ兵力ヲ増援スル方針ナリ御含迄

(上海宛ノ分ニハ「本大臣ノ訓令トシテ別電ト共ニ蘇州、杭州、南京、九江、漢口へ転電シ上流地方へハ漢口ヨリ適宜転電セシメラレ度シ」ト付記ノコト)

(広東宛ノ分ニハ「本大臣ノ訓令トシテ別電ト共ニ汕頭、厦門、福州、雲南へ転電シ参考トシテ香港へ転電アリタシ」ト付記ノコト)

533 昭和2年5月27日 田中外務大臣より 在米國松平大使宛(電報)

ケロッグ米國務長官に山東出兵決定の経緯説

ヲ以テ支那主權ノ侵害ナリトシテ排日運動ヲ煽動シ或ハ我方ニ於テ暗々裡ニ北軍ヲ援助セムトスルモノナルカ如キ誤解ヲ生スルコトナキヲ保シ難キヲ以テ当方ニ於テ別電合第一六三号ノ通声明書ヲ公表スル筈ナルニ付テハ貴官ハ必要ニ応シ右声明書ヲ發表シ且貴官ノ裁量ニヨリ前記(一)ヲモ適宜付加説明セラレ我方派兵ノ趣旨ニ誤解ナカラシメムコトヲ期セラレ度ク尚本件派兵ニ対スル反響ニ付テハ特ニ御注意ノ上隨時電報アリ度シ

(二)將又北支駐屯軍ニ関シテモ同方面ノ形勢發展如何ニヨリテハ必要ニ応シ滿州方面ヨリ略同様ノ兵力ヲ増援スル方針ニシテ其時期ハ大体青島派遣部隊カ濟南ニ進ム時即形勢ノ悪化シタル際ナリ

(四)就テハ貴官ハ責任國政府当局ニ対シ別電聲明書及前記(一)ノ趣旨ヲ然ルヘク説明シ且前記(三)北支増兵ニ関スル件ヲ内話セラレ度シ尚当地ニ於テハ二十八日日本大臣ヨリ当地英米仏伊四國代表者ニ対シ右説明ノ答

別電ト共ニ訓令トシテ英ニ転電シ英ヲシテ本大臣ノ訓令トシテ仏伊ニ転電セシメ参考トシテ露獨白へ転電セシメラレ度

七 山東出兵問題

編注 別電合第一六三号は五三〇文書別電ニ参照

534 昭和2年5月28日 田中外務大臣 英・米兩國臨時代理大使 會見

青島出兵に関する田中外務大臣と四國代表との會見
 付屬書 華中方面における戦況概要
 大臣會見録 十

五月二十八日午前十一時三十分田中大臣ハ仏伊兩國大使並ニ英米兩國代理大使ノ來省ヲ求メラレ

本日特ニ御足勞ヲ煩ハシタルハ中支方面ニ於ケル其ノ戦局ノ發展ニ鑑ミ其ノ概況ヲ御話スルト共ニ之ニ対シ帝國政府ノ執ラントスル措置ニ付御諒解ヲ得ンカ為ナリト前提セラレタル上

一、戦況ニ関シ別紙最近ノ支那情勢(付屬書参照)ノ大要ヲ地図ニ付約三十分ニ互リテ説明ヲ試ミラレタル後

二、右ニ付帝國政府ノ執ラントスル措置ニ関シ

南京ニ於テ御互ヒニ苦キ經驗ヲ嘗メタルハ尚吾人ノ記憶ニ新ナル所ナルカ戦局ノ發展前述ノ如クナル關係上濟南地方ニ於テモ亦事變ノ發生ヲ見越シテ適當ノ措置ヲ執ルヘキ時

期ニ達セリト思考ス濟南ニハ日本人ノ居住スル者二千ノ多
キニ上リ居ル処同地ハ海口ヲ離レタル奥地ニアルカ為揚子
江沿岸ノ諸地方ニ於ケルカ如ク海軍力ヲ以テ我在留民保護
ノ目的ヲ達スルコトハ不可能ニシテ此目的ノ為ニハ陸兵ノ
派遣ヲ必要トスル次第ナルカ仮令滿州ヨリ急速派兵スルト
シテモ最順当ニ運フ場合ニ於テ尚五日ノ日子ヲ要スル状
態ナリ而カモ状況ノ変展全然予測スルヲ得サル支那ノ現戰
局ニ鑑ミルトキハ相当時日ノ余裕ヲ以テ予メ之ニ応スル準
備ヲ必要トス仍テ今回帝國政府ニ於テハ滿州派遣軍ヨリ約
二千ノ兵力ヲ割キテ先ツ青島ニ派遣シ濟南進出ニ付テハ更
ニ今後ノ状況ニ依リ新ナル命令ヲ待タシムヘキコトニ決定
シタリ即チ濟南方面ノ在留邦人ニ不幸ナル事變發生スヘシ
ト予斷シ得サル限リハ敢テ奥地ニ進マサルモノナリ尚本件
派兵ニ付諒解セラレ度キハ自衛上已ムヲ得サルノ緊急措置
ニ外ナラサルカ故ニ支那及其ノ人民ニ對シテハ何等非友好
的ノ意圖ヲ有セス又南北兩軍ノ何レノ軍隊ニ對シテモ其ノ
行動ニ干与スルモノニ非サルコト並ニ同方面ノ邦人ニシテ
戰亂ノ禍ヲ受クルノ虞ナキニ至ラハ右派遣軍全部ハ直ニ撤
退スヘキコト之ナリ尤モ右帝國政府ノ決定ニ付テハ本日正

七 山東出兵問題

直魯運軍ハ四月上旬ノ戰勝後揚子江ノ線ニ到着シ爾後隊伍
ヲ整頓シテ冒險ナル渡河ヲ控ヘ河南方面ノ戰況發展ヲ待チ
ツツ南方側軋轢ノ推移ヲ望觀シツツアリキ此間河南方面ニ
於テハ武漢派軍ニ對シ緩徐ナカラ堅実ナル攻勢ヲ採リ大体
ニ於テ戰況ハ北軍ニ有利ナル如ク思ハシムルモノアリタリ
南方派ニ於テハ四月十八日南京ニ國民政府ヲ樹立セル蔣介
石一派ハ新政府ノ組織鞏固ヲ計リ軍隊内部ノ肅清ヲ策スル
ノ傍ラ表面北方トノ妥協及武漢派トノ宣伝彈圧戰ヲ試ミツ
ツ江ヲ隔テテ北軍ト相對峙シ武漢側ハ唐生智ヲ總司令ニ任
シ河南ヨリ南下セル奉天軍ニ對抗セシメタリ
五月上旬來南京軍ハ部隊ノ整頓、配備ノ變更、舟筏ノ蒐集
徵發ヲ行ヒツツアリシカ五月十五日未明浦口砲撃ト同時ニ
渡河ヲ開始セシカ北軍ハ安徽方面ヨリノ南軍ノ壓迫ニ依リ
テカ抵抗ヲ試ムルコトナク後退セシヲ以テ南軍ハ続々江ヲ
渡リテ北軍ニ追尾シ五月十八日頃ニハ北軍ヲ鳥衣、巢県ノ
線ニ壓迫セリ山東軍ハ五月十九日鳥衣ニ於テモ敗レ二十日
概ネ定遠、明光ノ線ニ退キ更ニ二十一日蚌埠ニ於ケル便衣
隊ノ活動ニ依リ大混乱ヲ惹起シタルカ如ク蚌埠ハ既ニ南軍
ノ手ニ落チ目下固鎮付近ヨリ壽県付近ニ互リ陣地ヲ占メア

午聲明書ヲ發表スル管ナルヲ以テ之ヲ御覽アリ度シトテ同
聲明書英訳文写ヲ各大使ニ手交セラレ

尚大臣ヨリ右青島派遣ノ軍隊ヲ更ニ濟南ニ進メサルヘカラ
サルカ如キ事態發生スル場合ニ於テハ帝國政府トシテハ北
支駐屯軍ニ對シテモ適當ノ増援ヲ行ヒ以テ北支那ニ於ケル
在留民保護ノ目的ヲ達スル積リナルカ此ノ點ニ関シテハ何
レ其ノ時機ニ至リ更ニ御來訪ヲ求ムルコトアルヘク何レニ
シテモ自分ノ支那ニ對スル根本方針ハ從來モ度々繰リ返シ
テ申上タル通り支那ニ於ケル出來事ハ支那人自身ヲシテ解
決セシメサルヘカラス唯在留民ノ保護ニ関シテハ我々ハ充
分ナル措置ヲ講セサルヘカラスト云フニアルコトハ更ニ良
ク御諒解アリ度シト付言セラレタリ

右ニ對シ仏國大使ヨリ青島派遣兵ノ到着ノ時期、英國代理
大使ヨリ青島派遣兵ヲ濟南ニ進出セシメラルヘキ時期ニ付
質問アリタル後何レモ大臣ノ好意ヲ謝シテ退出シタリ

(昭和二年五月三十日沢田電信課長口述速記) (山崎)

(付屬書)

中支方面ニ於ケル戰況概要(會見録第十付屬書)

ルモノノ如シ孫伝芳軍ハ二十日第一線ヲ以テ宝心ニ後方部
隊ヲ以テ淮陰ニ退却シ將來情況不利ナルニ於テハ海州ニ退
却更ニ山東沂州ニ退ク予定ナリト伝ヘラル

河南方面ノ情況

西平、上蔡方面ニ於テ奉天軍ハ二十一日堰城、周家口ノ線
ニ後退セシカ兩地共敵ニ奪取セラレタルモノノ如ク又西北
軍ノ河南進出ハ奉天軍ニ尠カラサル脅威ヲ与フルヲ以テ張
治公軍援助ノ為メ奉天軍第八軍ヲ派遣シ張治公軍ハ國民軍
ノ前敵司令方振武軍ト鉄門付近ニテ衝突セシカ戰況有利ナ
ラス目下洛陽付近ニ在ルモノト觀測セラル從テ該方面ノ状
況必スシモ奉天軍ノ為樂觀ヲ許サス殊ニ山東軍ノ敗退ハ直
接間接河南方面ニ多大ノ影響ヲ及ホスモノト觀測セラル

漢口方面ノ情況

宜昌ニ在リシ夏斗寅ハ四川ノ楊森ト連絡シテ兩軍共漸次江
ヲ下リ夏軍ノ一部ハ五月十七日武昌南方嘉魚付近ニ達シ楊
森軍ノ一部ハ沙市ニ到着ス武漢政府ハ取敢ヘス二團ノ集成
兵團ヲ武昌南方地区ニ派遣セシモ武漢ハ多少動揺シアリ又
樊鐘秀ハ漢水付近ニ在リテ隨時反共産ノ態度ヲ鮮明ニセン
トスルノ状態ニ在リ武漢共産政府ノ運命漸次危殆ニ瀕シツ

ツアリ而シテ之等軍隊ト唐生智軍トノ色彩ハ從來必スシモ同一ナラサルヲ以テ唐生智軍トノ關係モ今後情況推移如何ニヨリ合離計リ難キモノト観測セラレ

要之南方軍ニ在リテハ武漢政府側ノ共產主義的色彩一時減退セル状アルモ北伐ノ氣勢ハ南武者ノ響応接密ナルト否トニ拘ラス両方面共大ニ揚リアリ殊ニ津浦沿線方面ニ於テ形勢ノ進展刮目ニ値スルモノアリ之ニ反シ安國軍ハ単リ山東軍方面甚シク悲境ニ陥レルノミナラス延テ京漢線方面モ亦能ク黄河以南ニ止マリ得サルナキヤヲ疑ハシムルモノアリ殊ニ山西閻錫山ノ態度ニ疑ハシキモノアルニ於テ益々然リ從テ戰況ノ推移如何ニ依リテハ京津地方ニ動揺ヲ来タシ殊ニ濟南地方ノ擾乱ヲ惹起スルコトナキヲ保セサルノ状ニアリ

535 昭和2年5月28日

田中外務大臣より
在米國松平大使、在中國芳沢公使、在青島矢田部、在上海矢田、在廣東森田各総領事宛(電報)

山東出兵に関する陸軍当局談話報について

付記一 五月二十八日陸軍省公表
青島方面派遣兵力について

事カ起ラサルヘシト予斷シ得ル限り敢テ奧地ニ進入セシムル様ノコトナキノミナラス派兵ノ目的カ一ニ在留帝國臣民ノ生命、身体、財産ノ保護ノミニ止マル故彼ノ世間往々憂フルカ如キ行動ニ出ツルコトハ勿論アルヘカラサルコトテアル
尚ホ此ノ派兵ハ支那南北兩軍ノ軍事行動トハ何等ノ關係ナキコトモ亦言フ俟タサル所テアツテ吾人ハ成ルヘク速ニ事態安靜ニ歸シテ一刻モ早ク兵ヲ撤スルニ至ランコトヲ希フモノテアル

(付記一)

青島方面派遣兵力 昭和二年五月二十八日
陸軍省公表

滿州駐劄師団ヨリ左記部隊ヲ派遣ス

左記

長 歩兵第三十三旅団長

郷田兼安

歩兵第三十三旅団(歩兵第十連隊)ノ約二千人
歩兵第六十三連隊

工兵及無線電信部隊若干

右部隊ハ五月三十日大連ニ於テ香港丸ニ搭乘三十一日青島

七 山東出兵問題

二 右同日參謀總長通報

在滿州歩兵第三十三旅団の青島派遣について
本省 5月28日後發

合第一六六号(至急)

別電

陸軍当局談 五月二十八日發表

既ニ發表セラレタ通り此度廟議ヲ以テ濟南方面ニ在ル帝國臣民ハ其ノ儘其ノ場所テ出来ル丈ケ動揺セシムルコトナク保護ヲ全クスル方針ヲ立テラレ之ニ応シテ陸軍ノ少数部隊ヲ先ツ青島迄派遣シ置クコトナレリ

此ノ派兵ノ時期ニ就テハ種々ノ觀察アランモ濟南ハ其ノ位置ト交通ノ關係上仮令滿州ヨリ急速派兵スルトシテモ最モ順當ニ運フ場合ニ於テ五日ノ日子ヲ要スル状態ナル故情況ノ變転計ルヘカラサル支那ノ現戰局ニ鑑ミル時ハ相當ノ余裕ヲ以テ予メ之レニ応スル丈ケノ準備ヲ必要トスル
此際政府ニ於テ必要最小限ノ兵力ヲ不取敢青島ニ派遣シタルハ全ク右ノ關係ヲ顧慮シタルモノテアツテ一ニ不測ノ急ニ応スル用意ニ外ナラヌモノテアル
以上ノ次第テアルカラシテ濟南方面ノ邦人ニ不幸ナル出来

着ノ予定

(付記二)

參一發(支)第一号

昭和二年五月二十八日
參謀總長

通報

時局ニ鑑ミ濟南及膠濟鐵道沿線ノ要地ニ於ケル帝國臣民ヲ保護スル為先ツ在滿州歩兵第三十三旅団(長少將郷田兼安)付ニシテ工兵一小隊ヲ付ス)ヲ青島ニ派遣セシメラル(五月二十八日伝宣)

同旅団長ニ對シテハ其任務達成上特ニ外務官憲等ト密接ナル連繫ヲ保持シ涉外事項ニ就テハ任務ニ直接關係アルモノノ外外務官憲等ノ處理ニ委スル如ク指示セリ(五月二十八日)

(付箋) 國際法上ノ見地ニ基ク軍ノ行動ニ關スル件ハ別ニ派遣部隊ニ示スコトトス

遣部隊ニ示スコトトス

536 昭和2年5月31日

田中外務大臣より
在濟南藤田總領事宛(電報)

濟南在留邦人婦女子引揚げの實行時機および
方法は總領事の裁量に一任について

本省 5月31日発

第二六号

貴電第九二号ニ関シ
(五二九文書)

貴地居留民保護ニ関シテハ青島宛往電第五八号ノ次第モア
(五三〇文書)

リ旁々婦女子引揚方ニ付テモ往電第二二二号当時トハ既ニ事
(五二八文書)

態ヲ異ニスルモノアルヲ以テ右実行ノ時機及方法等ハ貴官
ノ裁量ニ依リ適宜之ヲ決定セラレ差支ナシ

北京、青島、天津ニ転電アリ度

537 昭和2年5月31日 在濟南藤田総領事より
田中外交大臣宛(電報)

林省長濟南への日本軍出兵に反対の意向表明
について

濟南 5月31日後発
本省 6月1日後着

第一〇一号(極秘)

五月三十一日林省長ノ希望ニ依リ特ニ往訪面会シタル処日
本ノ山東出兵問題ニ関シ極秘ニ懇談シタシト前提シ日本今
回ノ出兵ニ関シテハ自分(省長)ハ了解シ得ルモ一般ノ民
衆ノ了解ヲ得ルコト殆ト不可能ニシテ現ニ昨日モ商議會議

七 山東出兵問題

以テ響ク故斯クセハ一般民衆ノ反対ヲ多少ニテモ緩和スル
コトヲ得ヘシト語りシヲ以テ本官昨日既ニ詳述セル次第ナ
ルモ更ニ一応今回出兵ノ已ムヲ得サル所以ヲ繰返シ而シテ
今回ノ出兵ハ直ニ濟南ニ来ルモノニ非ス省長ノ申出ノ如ク
元々先ツ青島ニ来リ万一ノ際濟南ニ来ルモノニシテ濟南ノ
治安ニシテ完全ニ維持セラレ本邦人ノ生命財産ニ何等ノ危
険ナキ以上元ヨリ濟南ニ来ル必要ナキモノナリ日本政府ノ
惧ルル処ハ一、南(軍)ト二、敗兵ノ殺到掠奪ト三、土匪紅
槍会便衣隊等ノ内部攪乱ナルカ之等濟南治安維持ニ関シ如
何ニ考ヘ得ルヤト反問セルニ省長ハ一、南軍ハ決シテ濟南
迄来ルモノニ非ストテ頭カラ否定シ之ニハ確信アルカ如キ
口吻ヲ洩シ二、敗兵カ仮令濟南ニ帰来スルコトアルモ大部
隊密集シテ来ルモノハ孰レモ相当ノ責任者統率シ来ルヲ以
テ其ノ惧ナク三々伍々来ルモノハ其ノ力足ラス治安維持ノ
任ニアル部隊ヲ以テ嚴重取締ルコトヲ得ルヲ以テ之亦心配
スルニ足ラス且濟南ニハ巡警其ノ他相当ノ警備隊居ルヲ以
テ決シテ敗兵ノ掠奪ニ委スコトナシ先年泰安付近ニ於テ大
敗シテ退却セシトキサヘ何等掠奪ノコトナカリシヲ以テ這
間ノ消息ヲ知ルコトヲ得ヘシ又三、土匪モ濟南付近ニハ極

長、総商會會長、教育會會長等多數來訪シ出兵ニ関シ嚴重
抗議方要求シ且種々激烈ノ言動アリタルヲ以テ自分ハ本件
交渉ニ関シテハ予ニ委セラレタキ旨説得シ一般民衆ニ対シ
テハ現在支那ノ状況ヨリ見テ之ヲ全ク沈黙セシメ壓迫スル
コトハ不可能ナルヲ以テ其ノ意見ヲ述ヘルコトハ差支ナキ
モ實際運動ヲ起スコトハ地方官トシテ許ササル旨論シ置キ
タリトテ種々這回ノ苦衷ヲ述ヘ更ニ濟南ハ他ノ各開港地ト
異リ内地ニ属スルヲ以テ此ノ地ニ外国ノ軍隊ヲ入ルルコト
ハ一般支那人ニ極メテ強ク響ク次第ナルコトヲ詳述シ最近
數年來当地ニ於テハ日支ノ關係頗ル良好ナリシニ拘ハラ
ス今回ノ出兵ニ依リ惡化シ引テハ種々ノ問題ヲ起スコトハ兩
國ノ為洵ニ遺憾ニ堪ヘサルヲ以テ何トカ之ヲ未然ニ防クカ
又ハ緩和シタシト語り其ノ方法トシテ省長ハ本官ト昵懇ノ
間柄ナルヨリ特ニ肺腑ヲ開キテ懇談スル次第ナリトテ之カ
為第一ニ必要ナルコトハ全然出兵ヲ中止スルコトナルモ若
シ日本ニ於テ中止困難ノ事情モアラハ之ヲ青島ニ止メ万々
已ムヲ得サル場合ノ外濟南ニ来ラサル様セラレタシ濟南ト
青島トハ其ノ距離幾何モナク危急ノ際ハ直ニ来ルコトヲ得
ヘク又青島ト濟南トハ一般支那人ノ頭ニモ可成リノ差異ヲ
メテ少ク紅槍会ニ至リテハ山東省南部ノ産物ニシテ濟南泰
安付近ニハ存在セス元來紅槍会ハ一種ノ部落自衛團ニシテ
防禦ヲ主トシ積極的ニ他地方ヲ攻撃スルモノニ非ス又濟南
ニハ工場少キヲ以テ労働者ノ暴動モナク学生ノ運動ハ自分
ニ於テ責任ヲ以テ取締ルヘク便衣隊モ嚴重ニ警戒シツツア
ルヲ以テ濟南地方ノ治安ハ現在ハ何等ノ不安ナク将来假令
徐州方面ニ於テ山東軍敗ルルモ濟南ハ決シテ混乱スルニ至
ラス若シ將來万一濟南ノ治安維持困難トナル場合ハ必ス事
前ニ之ヲ知ルコトヲ得ルヲ以テ直ニ通知スヘク其ノ節濟南
ニ来ルモ遅カラサルヘシ若シ日本政府ニ於テ自分ノ此ノ意
見ヲ容レラレ当分青島ニ止メ濟南ニ来ラシメサルコトトセ
ハ自分モ一般民衆ノ盲動ヲ宥ムルニ甚タ都合ヨク又在留日
本人保護ニ関シテモ完全ニ責任ヲ負テナスヘキニ付是非右
ノ如ク取運フ様政府ニ傳達方懇々ト申出アリタリ本官ハ右
兎ニ角政府ニ傳達スヘキモ今回日本出兵ノ真意ハ累次申入
ノ通ナルニ付右一般民衆ニ然ルヘク傳達シ誤解ナキ様セラ
レタク尚為ニスルモノノ此ノ機ニ乘シテ不穩ノ行動ヲナス
モノハ嚴重取締ラレ度キ旨申入レ置キタリ

538 昭和2年6月(3)日

在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)日本の山東出兵兵力は二千にては不足との張
督弁意見表明について濟南 発
本省 6月3日前着

第一一〇号(極秘)

六月一日夜張督弁帰済シタルヲ以テ二日午前本官督弁ヲ往訪シ山東出兵ニ関シ一応御訓電ノ次第ヲ説明シタル処督弁ハ今回ノ出兵ハ居留民保護ノ為ニシテ他意ナシト云フカ如キ外交的辞令ハ日本ニ反感ヲ有スル学生ヤ南軍ニ対シテハ必要ナルヘキモ自分ニハ必要ナリ自分ハ日本政府ノ真意カ果シテ何処ニアルカ打アケテ貰ヒタシトノコトナリシヲ以テ本官ハ政府ノ訓令トシテ本官ノ承知シ居ルコトハ右ノ範圍ニ出テサルコトヲ説明シタルニ督弁ハ御互共ニ之以上何モ知ラサルモ貴政府ト張作霖トノ間ニ或ハ何等カノ話合アルヤモ知レサルヲ以テ一応北京ニ赴テ張作霖ト種々協議シ度キ積リナリトテ当地ノ用事サヘ片付ケハ今明日中ニモ

七 山東出兵問題

リノ儘忠告スル所以ナリト語りタルヲ以テ本官ハ忠告ヲ感謝シ直ニ日本政府ニ伝達スヘキ旨並ニ現ニ尚督弁カ山東ニ勢力ヲ有スル次第ナルヲ以テ督弁ニ信頼シテ居留民ノ保護ヲ托シ度キコトヲ述ヘ更ニ將來濟南地方ニ於テ万一ノ事カ予想セラルル際単ニ二千ト限ラス更ニ多数ノ軍隊ヲ派遣シ得ルコトトモ予想セラルルカ其時期ハ來ルヘキヤ而シテ若シ來ルトセハ何時頃ナルヘキヤト督弁ノ判断ヲ求メシ処督弁ハ將來ノ事ハ如何トモ断言シ難キモ尚二十日ヤ一ヶ月ハ大丈夫ナリ若シ將來何等カ危険アル節ハ予メ通知スヘシト語りシヲ以テ本官ハ此点特ニ念ヲ押シテ双方充分連絡方依頼シ置キタリ

右督弁トノ会见ニ際シ本官ノ得タル印象ニ依レハ要スルニ督弁ハ出兵ニハ敢テ反対セサルモ南軍ノ兵力ハ相当強ク且日本軍ニ敵対行ヲ執ル虞ナキニアラサルヲ以テ二千ノ兵ニテハ不足ナルヘク更ニ多数ノ出兵ヲ必要トスルト云フニアリ更ニ尚日本カ山東ニ於ケル利権擁護ノ為張督弁ヲ援助センコトヲ希望シ之カ為或ハ一般支那人ヨリ自分カ攻撃セラルルモ敢テ遺憾トスルニ足ラストテ日本政府ノ積極的援助ヲ希望ストノ意言外ニ窺ハレタリ御参考迄ニ申添フ

上京シ度キ意向ナル旨語り更ニ日本ノ山東出兵ニ対シテハ自分ハ決シテ反対セス寧ロ歓迎スヘク但シ自分カ山東ニ於テ勢力ヲ有スル間ハ條約ヲ尊重シ責任ヲ以テ外国人ヲ保護スヘキニ依リ其ノ必要ナルヘキモ自分カ勢力ヲ失シ外國人ヲ保護シ得サル虞アルニ至ラハ寧ロ自分ヨリ進ンテ出兵ヲ請フヘク之カ為メ國人ヨリ売國奴ナトノ汚名ヲ被ムルモ

何等虞ルルニ足ラストテ暗ニ緊急ノ場合日本ノ出兵ヲ希望スル口吻ヲ洩ラシ而シテ更ニ語ヲ強メテ日本カ出兵セサレハ即チ止ムモ一旦出兵スル以上ハ二千ヤ三千ノ兵ニテハ足ラスト冒頭シ南軍カ相当精銳ナル武器彈藥ヲ有シ更ニ士卒トモニ勇猛ニシテ且排外心強ク條約モ國際法モ承認セストノ破壊的思想ヲ有シ蔣介石カ仮令穩健ノ考ヘヲ有スルト雖下級士官ノ此ノ思想行動ハ如何トモスヘカラス且学生無賴漢等ノ一般民衆之ニ付和雷同スルニ於テハ仮令蔣介石ノ力ヲ以テシテモ收拾困難ナルヘキヲ以テ濟南居留民ノ真ノ安全ヲ計ル為ニハ二千ノ兵ニテハ必ス足ラズドセ出兵スルナラ寧ロ更ニ大部隊ヲ出兵スルコト必要ナリト述ヘ更ニ自分ハ日本ノ出兵ニ敢テ反対ストカ又ハ賛成スルカノ意見ヲ述ヘタル次第ニハアラサルモ從來ノ友情ニ顧ミ單ニ事実は

在支公使、青島へ転電セリ

539 昭和2年6月3日

田中外務大臣より
在青島矢田部総領事宛(電報)濟南への出動実施の時機につき迅速に意見上
申方について藤田総領事宛訓令

本省 6月3日後発

第六二号(極秘)

藤田総領事へ左ノ通

第二九号

貴電第一〇一号並第一〇五号ニ関シ

(欄外記入) 山東派遣軍濟南出動ニ付テハ十分形勢ノ推移ヲ考察シ必要ニ応シ最機宜ニ適セル時機ニ於テ中央ヨリ命令スルヲ原則トスルモ右ノ違ナキ場合モアルヘキニ付其ノ際ハ緊急ノ措置トシテ貴官ノ請求ニ基キ司令官ニ於テ判断シテ直ニ進出スルコトアルヘシ就テハ貴官ハ情報ノ迅速発電並進兵ノ時機ニ付意見上申相成ルト共ニ派遣軍当局トノ連絡ニ十分留意シ居留民保護ニ万遺算ナキヲ期セラレ度

尚林省長ノ申出ニ対シテハ同省長ノ立場ハ之ヲ諒トスルモ我方派兵ハ自衛上已ムヲ得サルニ出テタルモノナルコト並

本件ハ既ニ帝國政府ニ於テ決定セルモノニシテ今更変更ノ余地ナキモ濟南進兵ノ時機ニ就テハ慎重ニ考慮シテ決スル筈ニテ専ラ同方面形勢發展ノ如何ニ係ルコトナルニ付山東官憲ニ於テモ右ニ関シ出来得ル限り正確ナル情報供給ニ努メラレ度キコト等ノ趣旨ヲ以テ然ルヘク応酬シ置カレ度以上陸軍側トモ協議濟

北京、奉天、上海、漢口、広東へ転電アリ度
(欄外記入) 六月三日阿部軍務局長ト打合済

陸軍省へハ写スミ

540 昭和2年6月6日 田中外務大臣より
在濟南藤田総領事宛(電報)

濟南在留邦人避難は大袈裟にならざる様心得
方について

本省 6月6日午後

第三二号

貴電第一二四号ニ関シ

屢次貴電ニ依レハ貴地ノ事態ハ居留民ノ生命財産カ差当リテ危殆ニ瀕スル次第ニモアラサルヤニ認メラルル処青島ニハ陸兵ノ準備モアル今日貴地在留民中任意引揚ヲ為ス向ハ

尚張督弁ハ孫伝芳ト会见スル為今明日中ニ一時南下スル予定ナリト

(三)五日夜張作霖ヨリ張宗昌ニ対シ現ニ閻錫山カ張作霖ト蔣介石トノ間ニ調停ヲ持出シツツアルニ付何等カノ決定ヲ見ル迄戦争ヲ中止シ且褚玉璞ト連名ニテ山東直隸兩省保安々民ノ通電ヲ発セラレ度キ旨電報アリタリトノコトナリ右ハ五日夜耿ト同席シアリタル李副官長カ督弁ヨリ呼戻サレ歸リ来リテノ談話ナリトノコトナルヲ以テ相当信用ヲ置クニ足ルヘシ尚邱ノ談ニ依レハ督弁ハ帰済後或ル會議ノ席上蔣介石モ自分モ討赤ト云フ点ニ於テハ目的ヲ共ニスルモノナル旨語リタリトノコトナリ又蔣介石モ武漢政府トノ關係上之以上北進ヲ困難トスル事情モアリ且唐生智及馮玉祥トハ何等連絡ナキヲ以テ蔣介石、張作霖、張宗昌、閻錫山等反共産派ノ間ニ何等カノ妥協成立スル氣配漸次擡頭シ来レル模様見ユルトノコトナリ
北京、上海、奉天、青島、天津、広東、芝罘へ転電シ坊子、張店、博山へ暗送セリ

七 山東出兵問題

542 昭和2年6月8日 田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛(電報)

別トシ一般ニ避難等ハ成ル可ク大袈裟ニ互ラサル様致度支那ノコトニ付予メ充分ノ準備ヲ整へ置カルルコトハ適當ナルモ為念
北京、青島ニ転電アリ度

541 昭和2年6月7日 在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

北方軍閥の動向に関する情報について

本省 6月7日前着

第一二二号

六月六日邱任元及耿錫齡等ノ談ヲ綜合スレハ

(一)現在南方戦線ハ大ナル変化ナク徐州ハ猶山東軍ノ手ニアリ現ニ戒嚴司令史同地治安維持ノ任ニ當リ未タ南軍ノ進出スル模様見エス褚玉璞ハ五日前線ヨリ帰済シ督弁ト面談ノ上天津ニ赴クヘシトノコトナルカ右ハ河南ノ形勢ニ顧ミ直隸河南边境防備ノ計画ヲ立ツル為ト並ニ直隸省銀行紙幣維持ノ為ナリトノコトナリ

(二)張督弁ハ濟南人心ノ不必要ナル動揺ヲ防ク為北京行キヤ中止シ総參謀長李藻麟ヲ代表トシテ張作霖ノ下ニ派遣セリ

田中総理の袁良への談話内容について

本省 6月8日午後

第二八二号

袁良十一日当地ヲ発シ帰国ノ途ニ就クコトハ既ニ御承知ノ通ナルカ同人ハ滯京中田中総理トモ会ヒ又当省側トモ再三懇談シタルカ特ニ出兵ニ関シテハ貴官ノ南京政府ニ対スル接触ト相俟チ同人ニハ充分当方ノ意向ヲ承知セシムルコトニ努メタル次第ナリ最近同人ノ申出ニ依レハ暇乞旁々総理ニ面会シタル節総理ハ支那ノ目下ノ時局ニ於テハ濟南ニ進兵スルヲ必要トセサル形勢ナルカ出兵ハ元来日本ノ希望セサル所ナルモ支那ノ形勢ニヨリ出兵ヲ余儀ナクセラレタルモノニシテ素々日本ノ本意ニアラス幸ヒ目下ノ形勢継続セハ青島ヨリ撤兵シ得ルノミナラス北支那ニ於テモ一兵モ増兵スルノ必要ナカルヘシト断言セラレタリト言ヘルニ付当方ニ於テハ或ハ支那側ニ於テ誤解ナキヲ保シ難キヲ懸念シ次官ヨリ更ニ補足的説明トシテ我方ニ於テ出来得レハ青島ヨリ撤兵致度キハ当初ヨリノ意図ナリシヲ以テ総理ノ言明モ其ノ腹ノ中ヲ腹藏ナク述ヘラレタル次第ナルモ張宗昌ノ軍ニハ御承知ノ通不良ナル分子尠カラサルヲ以テ山東方

面ノ形勢次第ニヨリテハ何事カ勃発スルヤモ計リ難ク目下ノ処ニテハ青島ニ日本軍隊ノ存在ニヨリテ暴行事件等ノ發生ヲ抑制シ得ル見込ニシテ総理カ濟南進兵ノ要ナシト述ヘラレタルモ其ノ辺ノ見込ヲ話シタル迄ニシテ万一山東方面ノ秩序紊乱スル場合ニハ濟南ニ進兵スルコトアルヤモ計リ難シスノ如キ万々一ノ場合進兵スルコトニ付テハ支那側ニ於テモ充分諒解アリ度ク尚北支ニ付テハ列國ヨリ屢々増兵方ヲ手ヲ替ヘ品ヲ代ヘ申出アリシモ帝國政府ニ於テハ大体未タ其ノ時機ニアラスト応酬シ置キタル次第ナルカ形勢次第ニヨリ濟南ニ兵ヲ進ムル事態トモナラハ其ノ時ハ即北支一体ノ大動乱ノ時ナルヘキヲ以テ北支ノ増兵モ亦止ムヲ得サルヘキコトヲ列國ニ言明セサルヲ得サル次第ナリ故ニ北支ニ関シテモ万々一ノ場合ハ増兵スルコトアルヤモ知レサルモ之モ前者ト共ニ帝國政府ノ欲セサル所ナリトテ我方ノ底意ヲ袁良ニ伝ヘ置ケリ右ハ袁ニ於テ総理ノ言ヲ誤伝セムコトヲ懼レ次官ヨリ為念説明シ置キタル次第ナルカ貴官ハ黄郛、伍朝樞等ニ対シ袁良ノ南京政府ニ対スル報告ト相応スル様適當ノ機会ニ我方ノ真意ヲ腹藏ナク説明シ置カレ度シ

七 山東出兵問題

第ヲ申入レラレ且帝國政府ニ於テハ南京事件ヲ主トシテ共産党系ノ仕業ト認メ居レルニ付共産派ノ撲滅ノ策シ健実ナル政策ニ力ヲ致サムトスル南京政府ニ対シテハ充分同情ト好意ヲ有スルコト今尚變ルコト無シ我方ニ於テハ北支方面ニ騷擾起ラサコトニ付明確ナル南方側ノ保障ヲ得ルニ於テハ撤兵ノ時期ニ付考慮致ス考ナル処袁良等南京側代表ノ謂フ所ニ依レハ南軍ノ北進モ徐州迄ニシテ其後ハ力ヲ内部ノ整理ニ致スヘシト謂ヒ又ハ徐州占領後ハ武漢ノ肅清ニ向フト謂ヒ徐州以北ニ進出セサルカ如ク声明シ居レルモ一般内外人ハ南軍ノ進出計画如何ニヨリテハ山東京北方面ニ於テ重大ナル戦乱ヲ見ルモノトシテ殊ニ北支ニ於ケル諸外國人ハ現ニ今尚不安ノ念ヲ抱キ人心動搖シ列國官憲側ニ於テモ之ニ対スル措置ニ付協議ヲ進メ居ル実情ナリ從テ北方軍閥ノ態度ヲ明ニスルコトモ当然必要ナルカ南軍ノ將來ノ態度方針ヲ此ノ際中外ニ明白ニ何等カノ方法ニテ声明スルコト双方ノ為得策ナルヘシト思考セラル旨並二十日ノ會議ニ參列ノ為帰朝ノ際其ノ辺ノ消息総理ニ説明シタキ旨懇談シ蔣ノ真意ヲ突留メ結果回電アリタシ

貴官今回ノ帰朝ニ先チ右懇談ヲ為スノ趣旨ハ現在北支方面

尚南方側ニ於テハ現政府カ張作霖ニ対スル同情又ハ勢力保持ノ為暗中飛躍ヲ試ミ居ルヤニ誤解シ勝ナルヲ以テ総理ハ明白ニ張作霖ヲ支持スル考毛頭ナキ旨ヲ内話シタルニ袁ハ総理ニ於テ張ノ下野ヲ勸告スル考アル如ク解シ居レリ此点モ御含ミノ上南方派ト接觸ノ節誤解ナキ様懇談セラレタシ北京、奉天、漢口、濟南、青島、広東へ転電アリ度シ

543 昭和2年6月13日

田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛(電報)

山東出兵と関連し蔣介石の今後の意図探索方
について

本省 6月13日後発

第二八七号(大至急 極秘)

在支公使宛往電第三二七号ノ會議ノ為帰朝ニ先チ貴官ハ蔣ニ面会ヲ求メラレ山東出兵ニ関スル我方ノ立場ヲ今一応明白ニ説明セラレタル上青島総領事発本大臣宛電報第一二九号膠海丸事件ヲ引用シ帝國政府ニ於テハ本件ヲ南京事件等ト同一視セムトスル次第ニアラサルモ我方ニ於テ保護ノ充分ナラサル所ニ於テハ南軍ト雖往々ニシテ斯ノ如キ事例發生スル事実ニ鑑ミ南京政府ノ反省ヲ煩ハササルヲ得サル次

ノ政況ニシテ各種勢力ノ利害錯綜ニ因リ一時小康ヲ保ツモノナラハ我方ニ於テハ適當ノ時機ニ於テ山東派遣軍ノ撤退ヲ実行シタキ底意ニ出ツルモノニシテ其ノ機会トシテハ南京側北進停止ノ声明若クハ北軍トノ間ニ停戦等ノ事実アラハ最モ妙ナリト思考スルモ之ニハ北方側ヨリ言明ヲ取付クルコトハ困難ナラサルモ南方側ノ意向ヲ突留ムルハ此ノ儘ニテハ容易ナラサルヘシト考ヘタル次第ナリ但シ現在ノ如ク南京ヲ始メ南方諸地方ニ於テ出兵反對運動起リ漸次排日運動ニ変リツツアル事態ニ於テ撤兵ヲ実行スルニ於テハ元來事大主義ノ支那人ニ対シ惡印象ヲ与フルヲ以テ南方ノ現狀ニテハ今直ニハ右実行ハ絶対ニ不可能ナリ右貴官限り極秘ノ御含ミ迄

北京へ転電アリ度シ

544 昭和2年6月14日

在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南進兵の見込等に関する黄郛及び郭交渉員
の談話について

上海 本省 6月14日後着

第八六一号

貴電第二八二号ノ件ハ既ニ黄郛ニ申込済ナルカ十三日黄郛

ニ面会シタル際黄曰ク蒋介石ハ自分ノ電報(往電第八三八号末段参照)ヲ受取りタル時杭州行ニテ急キ居リタルモノ

ト見エ右電報ヲ其儘党部ニ転交シタルヲ以テ党部ヨリ自分
ヘ「貴電見タ党本部ヨリハ対日經濟絶交ノ通令ヲ各市党部
ニ下シタルコトナシ」ト簡單ニシテ他人行儀ノ返電アリ依
テ十一日夜蒋介石当地通過ノ際嘉興迄汽車ニ同乗シ先ツ前
記ノ点ニ付蔣ノ不注意ヲ詰リタルニ蔣ハ粗忽ヲ詫ヒタリ云
々ト語レルカ同日午後郭交渉員本官ヲ来訪シ在南京ノ伍朝
枢ヨリ「黄郛来電ニ依レハ青島ノ日本兵ハ濟南ニ赴クコト
ナク天津方面ニ輸送サルヘシトノコトナリ事実然ルヤ否ヤ
日本総領事ニ確メヨ」トノ電訓ヲ示シ本官ノ意見ヲ求メタ
ルニ付貴電ノ趣旨ヲ説明シ閣下ノ袁良ニ語ラレタル点ニ言
及シタル処意外ニモ郭ハ袁良カ東京ニ在ルヲ知ラス又黄郛
蔣介石トノ關係ヲモ知ラサルノミナラス多分伍朝枢モ知ラ
サルヘシトテ種々質問シタルニ付本官モ何等カ「デリケー
ト」ノ關係ヲ生シテハ氣毒ニ付余リ立入りテ説明ヲ加ヘス
然ルヘク応接シ置ケリ尚黄郛モ郭モ又王寵惠モ山東出兵ニ

軍ノ濟南進出決行ヲ余儀ナクセラルルニ至ルヘキニ付テハ
予メ右御含ミ置キアリ度ク右ニ関シ何等心得ヘキ次第アラ
ハ至急本官及濟南総領事ニ対シ御電訓ヲ請フ
北京、濟南、芝罘、坊子、張店、博山、天津、奉天、上海、
漢口、広東へ転電セリ

546 昭和2年6月15日 在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫軍敗北に伴う坊子濟南への出兵は慎重を要
する旨意見具申について

濟南 6月15日前發
本省 6月15日後着

第一四〇号

在青島総領事發大臣宛電報第一三三号末段ニ関シ孫伝芳軍
ノ海州退却後ノ状況ニ関シ金參謀長ノ談ニ依レハ日照方面
ノ同軍ハ周陰人之ヲ統率シツツアリトノ事ナルカ同人ハ前
福建督弁ニシテ相当人望アリ且孫伝芳直系ノ人物ナルヲ以
テ孫ノ意志ニ反シテ何等ノ行動ヲ取ルモノト思ハレス又前
電ヲ以テ縷々申進メ置キタル通り張宗昌ト孫伝芳トハ新タ
ニ山東連防ノ計画ヲ樹テ孫ハ山東東部ノ防備ヲ分担スルコ

対スル排日運動ハ突發事變ナキ限り大事ニハナラサルヘシ
ト云フ見込ニ付テハ略一致シ居レリ

在支公使、奉天、漢口、濟南、青島、広東へ転電セリ

545 昭和2年6月15日 在青島矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫軍の進出に伴う我軍の濟南進兵の必要性に
ついて

青島 發
本省 6月15日後着

第一四一号(至急)

本官發濟南宛電報第一二〇号ニ関シ

孫軍カ果シテ沿線各地ニ於ケル我在留民ノ生命財産ニ危害
ヲ加フルモノナリヤ否ヤハ断言シ難キカ如クナルモ既ニ山
東軍側ノ抑制ニ聽從セスシテ沿線都邑ニ進出セントスル以
上之等地方カ非常ノ不安ニ驅ラルルハ当然ニシテ此ノ事態
ニ対シ禍ヲ未然ニ防カンカ為軍ノ出動已ムナキニ至ルヘキ
ヲ想定セサルヲ得ス而モ孫軍ノ進出順路ニ当ル坊子濰縣高
密地方ニ我軍出動シテ警備ニ当ル結果孫軍ハ漸次沿線ヲ西
進スルニ至ルヘキコト想像スルニ難カラス其ノ結果自然我

トトナリ居ル次第ナルヲ以テ海州方面ノ南軍ニシテ積極的
ニ北進セサル限孫軍ハ同方面ノ守ヲ棄テテ移動スヘシトハ
認メラレス且同軍カ飯ニ膠濟沿線ニ出ツトシテモ同軍従来
ノ性質ニ鑑ミ南京及漢口事件ノ如ク排外的暴動ヲ為スモノ
トハ考ヘラレス且又相当ノ指揮者アリテ移動スル限リ通過
都市ヲ悉ク略奪スルモノトモ想像セラレス尤モ支那軍隊ノ
略奪ハ民国元年以來常在ノ事實ニシテ敢テ今日初メテ特ニ
其危険ヲ感スルモノニ非ス今回南京漢口事件等ノ排外的性
質ヲ有スルニ顧ミ出兵シタルハ既ニ内外ニ声明シタル通ナ
ル以上單ニ孫軍敗兵ノ北方移動ヲ予想シ直ニ山東派遣軍ヲ
青島ヨリ坊子方面ニ動かサル事トモナラハ支那側ニ於テ
ハ益々出兵ノ真意ヲ疑フニ至ルヘク此点ハ篤ト御考慮ノ必
要アルヘシト存セラル元來濟南進兵モ慎重考慮ヲ要スヘキ
点ハ申ス迄モナク
一、濟南ハ支那人一般ヨリ内地ト認メラレ居リ他ノ開放地
トハ趣ヲ異ニシ居ル事
二、濟南ニ進兵スレハ自然膠濟鐵路管理又ハ占領ノ形トナ
リ日本ノ真意ハ此処ニ在リトナス支那当局及民衆ニ更ニ
一段ノ氣勢ヲ添ヘシムルニアルモノナルヘキ処此二ノ条

件ヲ具備スル点ニ於テハ坊子ハ何等濟南ト異ナラサルノ
ミナラス未開放地ト云フ点ニ於テハ濟南ヨリ更ニ強キ印
象ヲ支那人ニ与フルモノト存セラル申ス迄モ無キ儀ナカ
ラ右予メ御考慮相煩度シ
在支公使、青島ニ転電セリ

547 昭和2年6月16日 在青島矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫軍敗退後の山東方面の形勢について

青島 発
本省 6月16日前着

第一四四号(至急 極秘)

祝司令ハ十五日朝窃ニ副官長ヲ郷田司令官ノ下ニ遣シ孫軍
既ニ膠県王台鎮ニ進出シ尚北上シツツアルヲ以テ鐵路沿線
ニ頭ルルコトモ間モナキコトト察セラルル処右ノ行動ヲ阻
止スルコトモ出来兼ヌルニ付外國人ノ生命財産ノ如キモ支
那側ハ完全ニ保護シ難ク懸念セラルト述ヘ貴方ニ於テ何カ
良策アラハ教示アリ度キ旨申出テ暗ニ我出兵ヲ逡巡スルカ
如キ口吻アリタルニ對シ本官ハ我出兵ハ輕々ニ行ヒ得ヘカ
ラサル次第ヲ語り若シ孫軍カ鐵路沿線地方ニ進出シ不穩ノ

出兵ノ一日モ速ナラン事ヲ熱望スル所アリタル趣ナリ右談
話ハ我出兵ニ依リテ間接ニ山東軍ノ為有利ナル形勢ヲ馴致
スル事モ有之ルヘキカトノ考ヘモ混リ居ル可ク迂濶ニ鶴呑
ミニスヘカラサル所ナレトモ前電祝司令ノ内話ト対照スル
ニ白及ヒ馮ノ寝返リニ基因スル孫軍ノ惨敗ニ依リテ南軍ノ
追撃ヲ見ルニ於テハ鐵路沿線ノ治安ニ影響ヲ及ホスヲ免レ
サル可ク考察セラレ右総弁ノ内話ニ依ルモ余程部内動揺ヲ
来シ居ルモノト察セラル

在支公使、濟南、芝罘、天津、坊子、張店、博山、上海、
漢口、広東、福州、奉天ヘ転電セリ

548 昭和2年6月16日 在上海矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東出兵反対執行委員会において対日經濟絶

交の方法決定について

上海 6月16日前発
本省 6月16日後着

第八六七号

往電第八六〇号ニ関シ

出兵反対執行委員会ハ十四日經濟絶交ノ方法ヲ討議シ大体

行動ヲナスモノアレハ和平的行動方勧告シ度キニ付其隊長
及兵数等ヲ知り度キ旨答ヘタル処直ニ取調ヘ通報スヘシト
テ辞去セル由ナルカ本官ハ支那軍憲カ何トナク慌テ居ル様
子窺ハルルヲ以テ為念川南ヲ以テ祝司令ヲ訪問セシメ(其
模様ハ往電第一二〇号ノ通)更ニ張総弁ニ会見セシメ形勢
ヲ問質サシメタル処総弁ハ諸城營州日照ノ各地ヲ孫軍ニ明
渡スコトトナリタルヲ以テ同軍ニ對シテハ左シタル心配ナ
シト打消シナカラ昨今局面甚タ面白カラストテ

呂公望(前浙江省督理)李景林カ各々宣撫使トシテ奉直魯
軍ノ切崩シニ当ル事トナレル旨ノ張督弁電報及ヒ孫軍敗退
ノ原因ハ白宝山及ヒ馮紹閔ノ裏切りニアル事並ニ孫軍敗兵
中ニ白及ヒ馮ノ旧部下モ混入シ尚右敗兵ノ後ヲ追ヒ来ル
部隊ノ少カラサルニ顧ミ省内ノ秩序ハ到底維持スルニ困難
ナリト悲觀シ之ハ極秘ナルモ實際ノ腹中ヲ打明クレハ自分
ハ林省長及ヒ陳交渉員ノ内意ヲ確メタル処ニ依ルモ日本軍
ノ濟南出動ハ事態止ムヲ得サルモノトシテ諦メ居ル事ニモ
アリ昨今ノ情勢ハ濟南ヘノ進兵ヲ決行スル好機會ナリ督弁
ノ腹モ大抵自分ト間違ヒ無カル可ク良心ニ誓ヒ実情ヲ打明
クル次第ナルニ付堅ク口外無キ様セラレタキ旨懇々内話シ

左掲ノ如ク決定シタル由ナリ

- (一)商人一般ニ日貨ヲ取扱ハサル様警告ヲ發スルコト
- (二)日貨ヲ引続キ販売スル者ハ相当ノ制裁ヲ加ヘ隠シテ日貨
ヲ販売スル者ヲ摘發シタル者ニハ相当賞与スルコト
- (三)一般ニ寄付ヲ勧誘シ日貨排斥運動ニ要スル資金ヲ集ムル
コト

在支公使、奉天、天津、青島、濟南、漢口、広東ヘ転電セ
リ

549 昭和2年6月16日 田中外務大臣より
在青島矢田部総領事宛(電報)

濟南進兵はなお早計に失するとの判断につい

て

本省 6月16日後発

第七〇号(大至急 極秘)

貴電(四五五文書)第一四一号ニ関シ

最近ノ情報ヲ綜合スルニ沿線各地方在留民ニ對スル危険切
迫セルモノトハ認め難キノミナラス坊子發貴官宛電報第一
〇号其ノ他ノ情報ニ徴スルモ孫軍ノ秩序概ネ良好ナルカ如
ク支那側並在留民カ我軍ノ出動ヲ希望スルハ夫々ノ立場ニ

依り無理カラサル次第ナルモ政府ニ於テハ今直ニ右貴電ノ如キ措置ニ出ツルハ早計ニ失スルモノト思考シ居レリ尤モ在留民ニ於テ任意ニ他ニ避難セムトスル向ニ対シテハ之ヲ阻止スルノ限ニアラス尚時局柄濟南ト貴地トノ連絡打合ノ為藤田ヲ貴地ニ出張セシムルコトニ取計置キタルニ付同官ト篤ト懇談ヲ遂ケラレ時局ニ善処セラレタシ
濟南へ転電セリ

550 昭和2年6月16日 田中外務大臣より
在濟南藤田総領事宛(電報)

張宗昌に在留邦人保護に関する保障を言明せしめるよう訓令について

本省 6月16日後發

第三六号(大至急 極秘)

青島發貴官宛電報第一三〇号ニ関シ

山東東部ノ事態ハ此ノ際特ニ慎重ノ考量ヲ要スルコト貴電第一四〇号ノ通りニシテ此ノ際一步ヲ過レハ日支ノ親善關係ノ上ニ回復シ難キ惡結果ヲ生セムコトヲ慮リ青島総領事ニ対シテハ別電青島宛第七〇号ノ通り訓令シ置キタル処貴官ハ直ニ張宗昌ニ面会ヲ求メ在留邦人ノ保護方ニ関シ先ツ

ハ其行動如何ニ依リ相当ノ措置ヲ取ルヘキ覚悟アルヲ要スル次第ナリ尤今日迄ノ情報ニ依レハ諸城ニ於ケル孫軍ノ行動モ必スシモ不規律ナラス一部膠州城ニ近ツケルモノモ未タ何等節制ヲ欠ケルモノアルヲ聞カス從テ此際急遽軍ノ出動ヲ要スルカ如キ事態切迫シ居レリトハ認め難キ次第ナリ今十六日午後坊子日本人会代表來青至急派兵方陳情シ来リタルヲ以テ右趣旨ヲ以テ応酬シ置キタリ御含迄
在支公使、濟南へ転電セリ

552 昭和2年6月17日 閣議決定

濟南および膠濟鉄道沿線への進出について

付記 「山東方面における最近時局の形勢」(六月十九日調 亜細亞局第一課)

六月十七日閣議決定

七 山東出兵問題
(欄外記入)
曩ニ山東派兵ニ関シ請議セシ際単ニ歩兵四大隊ヲ取敢エス青島ニ派遣シ置キ其他ニ就テハ更ニ決定スルコトトナリ居レルヲ以テ事実該派遣隊ハ緊急ノ情況ニ際シ独断専行スルノ外未タ濟南進出ニ関シ允裁ヲ仰キアラス
然ルニ山東方面ノ形勢別紙情報ノ如ク逐日險惡ヲ加ヘツツ

彼ヲシテ適當ノ措置ヲ講セシムルト共ニ保護ニ関スル明確ナル保障ヲ言明セシムルコトニ交渉セラレタク尚適宜青島ニ出張シ矢田部総領事ト懇談ヲ遂ケラレ時局ニ善処セラレタシ

551 昭和2年6月17日 在青島矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫軍の行動は統制され、我が軍の出動を要請する程切迫しおらざる状況について

青島 發
本省 6月17日前着

第一四五号

濟南發大臣宛電報第一四〇号ニ関シ

濟南總領事意見ノ通不開放地タル坊子方面へノ我軍出動ハ最モ慎重ニスルヲ要シ又濟南へノ進兵力直ニ鉄道ノ管理乃至占領ヲ意味スルモノトハナシ難キモ少クモ軍ノ後方連絡ノ必要上場合ニ依リテハ其処進ム覚悟アルニアラサレハ進兵容易ニ実行シ難カルヘク從テ我軍ノ出動ハ絶対必要ト認めラルル時期ニ於テスルヲ要スルコト勿論ナル処孫軍カ侵水ノ如ク沿線地方ニ進出シ来リツツアル事態ニ対シテ

アルヤニモ見受ケラルルヲ以テ五月二十七日ノ閣議ニ於ケル未決事項中濟南及膠濟鉄道沿線ノ要地ニ進出シ帝國臣民ヲ保護スルコトニ就テハ機ヲ失セス措置スルコトト致シ度
(欄外記入) 林軍事課長ヨリ午後五時半入手
(付 箋) 総理大臣ヨリ左ノ注意アリタリ
出先軍隊指揮官ト総領事ト協議ノ後必要ノ措置ヲ取ルヘキハ勿論ナルモ事早急ニ失シテ事態ヲ激成シ他日ノ問題ヲ起ササル様深ク注意スルコト)

(付記)

山東方面ニ於ケル最近時局ノ形勢

(昭和二年六月十九日調)

亜細亞局第一課

(一) 津浦線方面

山東軍ハ目下山東省境韓莊ニ第一防御線ヲ更ニ兗州泰安ニ第二第三線ヲ設ケ南軍ノ進出ニ備ヘツツアリ其実力約七八万ト伝ヘラルル処右防禦線ハ地形頗ル要害ナル上同方面ノ山東軍ハ既ニ敗將ノ淘汰、兵士給料ノ支払等ヲ為シ陣容相当整備セルカ如ク他方南軍側ニ於テモ未タ何等行動ヲ開始

シ居ラス旁々同方面ノ現状ハ山東軍ニ取り特ニ憂フヘキモノナシト認メラル

尚同方面ノ形勢ニ関シテハ昨今韓莊陥落説、斬雲鶚曹州占領説、潘鴻鈞ノ背叛ニ依リ濟寧陥落説等種々ノ誤報伝ヘラレツアルニ顧ミ為念右ニ関スル最近ノ情報ヲ摘記スルニ大要左ノ如シ

(1)韓莊方面ニ於テハ南軍ハ何等行動ヲ開始セズ

(2)潘鴻鈞ハ目下山東軍ノ精銳タル杜鳳拳軍並孫殿英軍ト共ニ濟寧方面ニ在リ何等裏切ノ事実ナシ

(3)斬雲鶚ハ現ニ鄭州ニアリ且同軍ハ曩ニ奉天軍ニ破ラレ支離滅裂ノ状態ニアリ纏マリタル手兵トテナキ状態ナルヲ以テ近ク同軍ノ曹州攻撃アルヘシトハ認メラレス

(二)山東各部ニ於ケル孫軍ノ移動

五月下旬南軍ニ圧迫セラレ海州ニ退却セル孫伝芳側ノ諸軍(周蔭人、白宝山、馮紹閔、鄭俊彦等)ハ六月九日南軍(葉開鑫)ノ攻撃ヲ受ケ海州ヲ放棄シ沂州方面ニ退却シ目下同地ニ司令部ヲ置キツアル処同軍ノ一部約一万八千人(周蔭人統率)ハ其ノ後諸城ヲ經テ漸次膠濟鐵路沿線膠州方面ニ移動スルニ至レリ

到着ノ予定ナルヤニテ目下同地方官憲並商總會ニ於テ宿舍糧食等ノ準備ヲ為シ居レリ)

尚南軍ノ先鋒約一団ハ目下鄭城ニ進出シタルニ過キササルノミナラス追撃急ナラス而テ孫伝芳(目下北京ニ滞在中)ト張宗昌トノ間ニハ最近山東共同防守並在山東孫軍ノ統率ヲ張ニ委任方諒解成リタル趣ニテ旁々山東軍ハ沂州ニ軍隊ヲ増派シ居レリ

將又孫軍中白宝山ノ態度ニ関シテハ昨今諸説伝ヘラレツツアル処白宝山カ孫伝芳ヨリ離反スルニ至レルハ事実ナルカ如シ尤モ白ハ多年海州ヲ生活ノ本拠トシ同地ニ多額ノ財産ヲ有スル關係上海州ヲ離レ得サル事実アリ従ツテ何人カ同地方ニ来ルモ之ト迎合スルヲ常トスルモノナルヲ以テ今次白カ南軍ト連絡スルニ至リシハ怪シムニ足ラサルト同時ニ白ニ於テ孫伝芳軍及山東軍ニ対シ攻勢の態度ニ出ツルコトモアリ得サルモノト認メラル

(三)結論

津浦線方面並山東各部ニ於ケル形勢右ノ如クナル処山東軍側ニ於テハ南軍ハ韓莊方面正面攻撃ノ難キヲ避ケ西ハ曹州、東ハ鄭城方面ヨリ山東ニ侵入シ来ルヲ惧アリトシ予メ之

右孫軍移動ノ報ニ接スルヤ在濟南山東軍司令部ハ不取敢在青島祝戒嚴司令ニ対シ孫軍ヲシテ可成膠州城内ニ入ラシメサル様努ムヘキモ孫軍ハ友軍ナルヲ以テ絶対ニ衝突スヘカラサル旨ヲ嚴命シタル趣ナルカ右孫軍ハ六月十五日膠州ニ到着シタルモ城内ニハ入ラス何等衝突乃至掠奪等ノ事件ナク目下市中平靜ナリ

尚六月十五日孫軍ノ一部約一千五百及山東軍ニ改編セラレタル土匪約千萊蕪ニ入り漸次博山方面ニ移動シツツアル趣ナリ
右孫軍北上ノ理由ニ付テハ山東軍側当局ニ於テハ孫軍ハ同軍ノ駐屯区域ト定メタル諸城、日照、莒州等物資ノ供給不便ナル地方ヲ厭ヒ軍ノ給養ニ便ナル鉄道沿線ニ移動シ来レルモノナルヘシト觀測シ居レル処其ノ後張宗昌ハ孫軍ヲ濰縣、高密、膠州ノ三地ニ收容スルコトニ決定シ其ノ旨祝司令ニ電命スル所アリ目下同方面各地当局ハ右訓令ニ其キ宿舎並輸送等ニ付手配ヲ行ヒツツアリ(1)曩ニ海州ヨリ青島ニ逃レタル孫軍三千ハ六月十七日列車ニテ平穩裡ニ同地ヨリ濰縣ニ到着シ又(2)孫軍二師約三千名ハ莒州ヨリ安邱ヲ經テ十八日坊子ニ来着シ市中平穩ナルカ本隊ハ十八日中ニ

カ対策ヲ講シツツアルカ如ク(尤現在ノ処鄭城ニハ南軍ノ一部現ハレ居ルモ曹州前面ニハ南軍未タ来ラス斬雲鶚ハ猶鄭州ニアリ)旁々山東方面ニ於ケル一般ノ形勢ハ山東軍ニトリ特ニ急迫セルモノトハ認メ難キ次第ナリ

553 昭和2年6月17日 在中国堀臨時代理公使より 田中外務大臣宛(電報)

張宗昌に山東省内在留邦人保護に關し申入れ 方藤田総領事宛訓令について

北京 6月17日後發 本省 6月18日前着

第六九〇号

本官發濟南宛電報第三号 貴電第一三七号ニ関シ

六月十七日西田ヲシテ孫伝芳ニ会见交渉セシメタル処孫ハ在留日本人ノ保護ニ関シテハ自分ノ軍隊ニ対シテハ從來ヨリ言明シアルニ付御安心アリ度ク更ニ御申出ニ基キ電訓ヲ發スヘシト答ヘ次テ山東省内ニアル自分ノ軍隊ハ全部張宗昌ノ統率ニ委任スルコトナリ良好ナル軍隊ハ保存シ不良軍隊ハ武装解除ヲ行フ事ニ決シ居レリ自分ハ今夕張宗昌ト

同伴出京シ自分ハ天津ニ数日滞在スヘキモ張宗昌ハ濟南ニ直行帰ル筈ナリト述ヘタルニ付西田ハ更ニ張宗昌ニ面會セントシタルモ同人ハ既ニ張作霖等ト會議中急ニ面會困難ニシテ孫モ同會議ニ出席スヘシトノコトニ付膠濟鐵道沿線邦人保護方及ヒ金參謀長ヨリ依頼セル張督弁至急歸濟方ノ件孫伝芳ニ託シ張宗昌ニ轉達シ置キタル趣ニ付張督弁歸濟ノ上貴官直接御交渉相煩ハシ度シ尚西田ノ印象ニ依レハ孫伝芳ハ上述ノ如ク直ニ電訓スト云ヘルモ孫ヨリ同軍ノ司令部二十一日以來數回電報シタルモ未タ返電ナシト述ヘタルコト及ヒ別電第四号ノ如ク孫ハ同軍ノ現駐屯地点スラ明確ニ承知セサル次第第二付山東省内ニ於ケル孫軍十餘万人ト称スルモ孫伝芳ハ既ニ其ノ統轄能力ヲ欠ケルモノト認メララルニ付孫ノ日本人保護ノ電訓モ如何ナル程度迄徹底スヘキヤ覺束ナキ次第第二付右御含ミアリタシ

別電ト共ニ大臣、青島ヘ転電セリ

554 昭和2年6月19日 在上海清水(芳次郎)総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

排日運動取締方に関し郭交渉員に抗議文手交 について

分青島ヨリ大連ヘ撤兵スヘシトノ新聞電報アリ此ノ機会ヲ逸セス激烈ナル排日手段ヲ執リ日本政府ヲシテ直ニ撤兵ノ決定ヲ為サシムトノ魂胆ヨリ当地総指揮部主任陳群及市党部幹部等カ躍起トナリテ運動シタル結果ナルカ如ク兎ニ角右公告内容ノ如ク極端ナル方法ニテ日貨排斥ヲ強制スルハ黙視シ難ク之ヲ實際見ルモ十八日朝来支那商人側ヨリ邦商ニ対シ公告ニ見ル如キ制裁ヲ加ヘラルル虞アル以上当分取引出来ストテ買約定ノ取消シヲ申込ムモノアリ新規先物商談ノ如キ殆ト杜絶ノ有様ナルニ鑑ミ本官ハ十九日(日曜)朝郭交渉員ヲ往訪シテ長時間ニ互リ篤ト警告シタル上別電ノ如キ抗議文ヲ手交シ嚴重取締方ニ付要求シタルカ右ニ対スル交渉員ノ態度等ハ後電ノ通り

本電別電ト共ニ北京ヘ転電シ青島、濟南、天津、漢口、奉天ヘ転電セリ

(別電)

上海 6月19日後発
本省 6月19日後着

第八八〇号(別電)

別電 六月十九日付在上海清水総領事代理より田中外務大臣宛第八八〇号
右抗議文内容

上海 6月19日後発
本省 6月19日後着

第八八一号
往電第八七六号ニ関シ

当地有力支那官民中日本ノ出兵ニ対シ諒解シ居ルモノ相当アルモ国民革命軍内ニ出兵ハ日本カ如何ニ弁解スルモ北方軍閥援助ニ相違ナシトシ排日ヲ鼓吹シ居ルモノ鮮カラス一方売名乃至勢力維持ノ為ニスル排日家排外愛國熱ニ浮カサレ居ル人達本邦品ニ対スル競争品ヲ取扱フ会社商店其他排日ノ為ニ利益ヲ受クヘキ人々等漸次相呼応シテ運動ノ歩ヲ進メ之ニ対シ黄郛、殷汝耕其他邦人ニ關係アル親日実業家等排日緩和ニ尽力シ居ルモ表面ハ未タ出兵反対委員会等ニ反対出来ス遂ニ往電第八七六号ノ通具体的排日方法ヲ決議スルニ至リシモノナルカ同委員会ハ更ニ二十八日ノ各新聞紙ニ日貨ヲ取扱フモノハ逮捕シテ木製ノ檻内ニ拘禁シ街路ニ曝シモノトスル旨ノ公告ヲ為スニ至レリ右ノ如ク近來數日間ニ当地運動力頓ニ悪化シタル原因ノ一ハ數日前日本ハ多

(交渉員宛抗議訳文)

本月上旬ヨリ当地ニ排日の運動起リ漸次盛ナル傾向アリタル処最初当方ニ於テハ此種国交ニ有害ナル運動ハ当然貴方官憲ニ於テ充分取締ララルモノト思惟シ抗議ヲモ差控ヘ居リタル処貴方官憲ハ其後右運動カ漸次悪性ヲ加ヘ来リシニ拘ラス寸毫モ取締ヲ行ヒタル形跡ナキノミナラス貴国官民ノ重要機關及団体ノ間ニ出兵反対運動委員会ヲ組織シ東路前敵総指揮政治部及市党部等官界人物カ先導トナリテ公然不穩ナル排日運動ヲナシ一般民衆ノ対日感情悪化ヲ煽動シ居ル事実アリ殊ニ昨今ニ至リテハ別紙貴国側新聞切抜ノ如ク日貨排斥ヲ強制シ日支通商ヲ妨害スル諸決議ヲナシ殊ニ本十八日ノ諸新聞紙ニ委員会ハ租界外目抜ノ場所ニ十數箇ノ木製ノ檻ヲ設備シ日貨ヲ取扱ヒタル者ハ逮捕シテ右檻内ニ拘禁シ晒者トスル旨ノ公告ヲナス等種々極端ナル手段方法ヲ採ルニ至レリ

惟フニ斯ノ如キ極端ナル排日方法ニ出テ而モ取締ノ地位ニアル官憲側カ之等排日運動ニ公然加担シ居ルカ如キハ從來有触レタル排日運動ト異リ国交ヲ無視シタル暴挙ニシテ事態重大ナリ依テ本官ハ茲ニ不取敢貴交渉員ニ対シ貴国民政

府当局ノ深キ注意ヲ喚起シ即日別紙諸決議ノ実行ヲ厳禁シ且前記ノ如キ乱暴ナル公告ヲ取消シ尚爾今官界人士ノ此種運動ニ加担スル者ナカラシメ併テ一切ノ不穩ナル排日行動乃至宣伝ヲ切実ニ取締ラルル様即時然ルヘク措置方要求ス至急何分ノ回答アリタシ
(本電中ノ別紙ハ郵送ス)

555 昭和2年6月19日

平岡(小太郎)青島居留民団行政委員長、鈴木(格三郎)青島商業会議所会頭より
田中外務大臣宛(電報)

孫軍敗兵は膠済沿線に殺到し情勢不安につき
在留邦人保護のため兵力増遣方要請について

青島 6月19日後発
本省 6月20日前着

同文六

南軍ノ為ニ海州ヲ逐ハレタル孫伝芳、白宝山旗下ノ兵数万ノ内一部ハ海路青島ニ退キ爾余ノ大部隊ハ今ヤ膠済鉄道沿線ニ殺到シ続テ南軍ハ長驅其後ヲ追ヒツツアル現状ニシテ地方住民ノ不安其極ニ達セルノミナラス延テ濟南地方ノ治安モ亦脅威ヲ受ケツツアリ目下ノ情勢ハ出兵當時ノ情勢ト

在支公使、上海ニ転電セリ

557 昭和2年6月22日

在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

張督弁に対し在留邦人保護につき申入れにつ
いて

濟南 6月22日後発
本省 6月22日後着

第一五三号

(五五〇文書)

六月二十一日日本官張督弁ニ面会シ貴電第三六号居留民保護ニ関シ嚴重申入レタル処督弁ハ責任ヲ以テ治安維持及日本人保護ヲ為スヘク殊ニ膠済沿線居住ノ本邦人ニ関シテハ孫伝芳トモ好ク協議ノ上十分保護スヘキニ付十分ニ信賴アリ度旨繰返シ語レリ尚博山発本官宛電報第二号ニ関シ土匪劉黒七ノ改編軍來ルトノ噂ニ関シテハ督弁ハ之ヲ否定シ劉黒七部下ノ軍隊改編ニ関シテハ褚玉璞カ一時之ヲ計画シタルコトアルモ自分ハ之ヲ中止セシメ飽ク迄討伐シ不良軍隊ノ増加ヲ防クコトトセリ博山ニハ孫伝芳軍ノ一部ヲ駐屯セシムル筈ナリトノコトナリ

七 山東出兵問題

北京、天津、奉天、芝罘、青島、坊子、張店、博山、上海へ転電セリ

ハ甚タシキ相違アリテ膠済鉄道沿線及濟南ノ防衛上懸念ニ堪ヘス此際在留同胞ノ徹底的保護ニ付更ニ兵力御増遣アル様特ニ御配意ヲ希フ

556 昭和2年6月20日

在漢口田中(正一)総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

山東出兵に対する漢口方面の排日風潮と武漢
政府の対日態度について

漢口 6月20日後発
本省 6月20日後着

第三五九号

山東出兵ニ関シ当地ノ排日風潮ハ二三日来稍々露骨トナリ各新聞ハ上海ノ排日運動状況等ヲ特電トシテ掲載シ又第四方面軍総指揮部政治部ノ如キハ日本ノ山東出兵ニ反対ストノ幕ヲ主要道路ニ張り第十五軍第三十軍政治部ノ出兵反対宣言漢口特別市党部ノ出兵反対及世界戦争製造ノ日英帝國主義反対通電或ハ湖北省教職員協会ノ排日宣言等各種ノ伝單ヲ撒布スルモノ鮮カラス但シ政府当局ノ対日態度ハ従来ト何等變化ナク寧ロ此風潮ノ拡大ヲ極力抑圧シ居ル模様ナリ

558 昭和2年6月23日

在上海清水総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

我方の排日抗議に対し中国側山東撤兵を要求
について

上海 6月23日後発
本省 6月23日後着

第八九一号

(五五四文書)

往電第八八一号
本官ノ抗議ニ対シ二十三日交渉員ヨリ要頭左ノ通公文ノ回答アリタリ

今回排日運動ノ發生ハ日支兩國民間ノ不幸事件ニシテ本交渉員ノ甚タ遺憾トスル処ナリ依テ当方ニ於テハ御来示ノ如ク不穩ナル各種排日運動ニ対シテハ既ニ我政府ノ権限ノ及フ限り力ヲ尽シテ夫々阻止方ノ方法ヲ講スルコトトナリタルニ付貴国政府ニ於テモ直ニ山東ヨリ撤兵セシメ以テ排日運動發生ノ余地ナカラシムル様致度ク右然ルヘク政府ニ伝達方御取計ヲ請フ

在支公使、濟南、漢口、天津、奉天、青島へ転電セリ

昭和2年6月24日 在中国現臨時代理公使より
田中外交大臣宛(電報)

英国公使との排日排英ボイコットに関する対
応策協議について

北京 6月24日後発
本省 6月25日前着

第七二五号

本二十四日日本官英公使ニ面会ノ節同公使ハ日本ノ山東出兵ノ為中南支那ニ於ケル排日貨ノ形勢如何ト尋ネタルニ依リ相当重大ナリツツアリト答ヘタル処同公使ハ重ネテ日本政府ハ右形勢ニ依リ「アラーム」サレ居ルコトナキヤト問ヒタルニ付長江筋ノ「ビジネス、インテレスト」カ多少「アラーム」サレ居ル事実ハ承知シ居ルモ政府カ如何ニ考ヘ居ルヤニ関シテハ今日迄報道ニ接セスト受流シタル処英公使ハ倫敦政府ハ最近ノ排英貨運動ニ大分「アラーム」サレタルカ如ク其実状ヲ問合セ来リタルニ依リ排英貨運動ハ從來通り継続サレ居ルモ最近特ニ高調シタルカ如キ模様ナシ右ハ「センセイショナル」ナル新聞報道ニ誤ラレ居ルニアラスヤト問ヒ返シタル処本國政府ヨリ兎ニ角最近ノ排英

往電第一七一号末段ニ関シ

新聞報ニ依レハ当港内ニ一大勢力ヲ有スル駁艇總工會(解船營業組合)ハ昨二十四日宣言ヲ発シ七月一日ヨリ以後日本品ノ積下シ停止方ヲ布告シタルカ今後ノ成行嚴重警戒ヲ要スト認メラル

北京、上海、香港、汕頭、厦門、福州へ転電シ漢口、濟南へ暗送セリ

561 昭和2年6月26日 在濟南藤田總領事より
田中外交大臣宛(電報)

膠濟沿線の治安良好なるも万一の際天津より
の派兵考慮方について

濟南 6月26日前着
本省

第一六〇号(極秘)

膠濟鐵路沿線ニ進出セル孫伝芳軍ノ状態ニ関シテハ累次往電ノ如ク一、同軍カ何等排外的性質ヲ帯ヒスニ、坊子發貴大臣宛累次ノ往電ニ見ル通り同軍ノ規律ハ相当嚴肅ニシテ秩序ハ充分ニ維持セラレツツアリ三、孫伝芳ト張宗昌トノ連絡ハ相當鞏固ト認メラルル次第ナルヲ以テ現在ノ所同軍

貨運動ノ対策ヲ講スルニ当リ何等カ日本政府ト協力シテ執

ルヲ得ヘキ措置方ナキヤニ関シ東京政府ト談合ヲ遂クル様駐日大使ニ訓令セル旨通知シ来レリ何レ東京ニ於テ駐日大使ヨリ御相談スルニ至ルヘシト言ヒタル後英公使ハ話頭ヲ一転シテ支那相手ニ一定ノ政策ヲ立テテ之ヲ遂行スルニハ相当ノ決心ヲ要スル次第ナルカマサカ北支ノ増兵問題等ニ対スル日本政府ノ態度ハ今回ノ排日運動位ニ影響サレサルヘシト冗談口調ニテ問ヒタルニ依リ本官ハ日本ハ如何ナル事態ノ下ニ於テモ英国其他ニ与ヘタル「プレッジ」ヲ考量スルコトヲ忘レサルヘシト応酬シ置キタリ右英国公使ノ談話及当地方英人ノ言説ニ依ルニ山東出兵ニ基ク排日運動ノ擡頭ノ為竊ニ排英運動ノ轉換ヲ期待シ居ルモノノ如ク感セラレタリ

560 昭和2年6月25日

在広東森田總領事より
田中外交大臣宛(電報)

解船營業組合の日貨積下し停止宣言について

広東 6月25日後発
本省 6月25日後着

第一七七号

ノ鐵路沿線進出ハ何等沿線居住本邦人ニ危険ヲ来スモノトハ認メラレサル次第ナル処昨二十四日青島ヨリ帰来セル草場少佐ノ談ニ依レハ派遣軍側ニテハ一、孫伝芳ノ態度不明ナルコト二、周蔭人カ張宗昌ニ裏切り南軍ト連絡スル虞アリ從テ一旦事件勃発スレハ膠濟鐵路遮断セラレ濟南へノ進兵困難トナルヘキヲ以テ現在輸送安全ノ際ニ於テ先ツ沿線又ハ濟南ニ進兵セシメ時機ヲ俟ツヘシトスル意見ニテ右当局へモ具申スヘシトノコトナルカ孫伝芳軍ノ沿線進出ハ出兵當時トハ大ナル事態ノ変化ナルカ孫伝芳ト張宗昌トノ關係ハ累次往電ノ如ク極メテ良好ノ状態ニアリ張督弁モ此ノ点ハ何等疑ヲ挾ミ居ラス現ニ往電第一五九号ノ通孫ハ現在病ヲ推シテ家族同伴濟南ニ来リ居ル事実モアリ離反常無キ支那政局ノ状態ナルヲ以テ将来ハ形勢ノ変化ニ連レ或ハ無之ヲ保セストスルモ現在ノ所孫張兩人ノ間ニ衝突ヲ来スヘキモノトハ思ハレス又周蔭人ノ態度ニ関シテハ今之ヲ何レトモ判断スルノ材料ニ乏シク見方ニ依リテハ二心ヲ以テ青島ニ抛ラムトスルモノト見ラレサルニ非スト雖然シ周ハ直隸人ニシテ其部下軍官ハ主トシテ直隸山東人ナリ又孫伝芳トハ福建以来苦樂ヲ共ニシ来レル關係モアリ且又

従来孫伝芳部下ニシテ南軍ニ投シタル周鳳岐カ結局如何ニ
虐待セラレツアルカノ事実等モ充分承知シ居ルヘキ筈ナ
ルヲ以テ現在孫伝芳ノ意志ニ反シ張宗昌ニ反抗シテ南軍ニ
投スヘキモノトハ認メラレス周蔭人軍カ北上セシハ往電第
一五八号末段ニモ述ヘタル通全ク給養上ノ関係ニシテ青島
発本官宛電報第一三四号ノ同軍青島入ノ件右ハ仮リニ事実
ナリトスルモ地盤給養ノ為ト見ルヘク之ヲ以テ南軍ト連絡
ノ結果ナリトナスハ余リニ早断ナリト認メラル同軍給養ニ
関シテハ既ニ本官宛青島宛電報第一四八号ヲ以テ報告ノ通
張督弁ニ於テモ既ニ決定シ居リ孫伝芳ト協議ノ上之カ実行
ヲ見ルヘキ段取ト迄ナリ居ルヲ以テ何レニシテモ現在ノ所
同軍カ張宗昌ニ反旗ヲ翻ヘスヘシトハ想像セラレス尤モ各
地方ノ小変動ト雖大体ニ於テ大勢ニ支配セラルルモノナル
ヲ以テ將來徐州、河南及北京方面ノ形勢ノ推移如何ニ依リ
テハ其余波ハ孫伝芳軍殊ニ周蔭人軍ニモ波及セストモ限ラ
サルモ右ハ各方面ノ形勢ノ変化ヲ見テ然ル後判断シテモ決
シテ遅キニ失セス且却テ誤無キヲ庶ヒ得ヘシ故ニ本官ハ孫
伝芳軍ノ沿線進出及周蔭人ノ態度ヲ理由トシテ此際進兵セ
ムトスルハ尚考慮ノ余地アリト信ス早目ニ用意スルニ越シ

青島又ハ天津ニ引揚ケシメル方大局ヨリ打算シテ極メテ得
策ナルヘキモ既ニ濟南進兵方針ニ廟議御決定ノ上ハ今更ニ
変更モ困難ノ事情有ルヘク從テ万一青島ヨリ派兵不可能ノ
際ハ天津ヨリ派兵スルコトトシ孫軍進出ノ新事実ニ対スル
対応策至急然ルヘク御考慮相煩ハシタシ右愚見ニ関シテハ
來濟中ノ山梨大将モ全然同意見ニテ之モ同大将帰朝後更ニ
閣下ニ詳細申述フヘシトノコトナリ御参考迄ニ申添フ
北京、青島、天津へ転電セリ

562 昭和2年6月26日 在濟南藤田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

我が軍輸送列車等の準備および在留邦人の派
兵請願について

濟南 本省 7月26日前着

第一六一号

外務大臣宛青島宛電報第七八号ニ関シ孫伝芳軍膠濟鐵路沿
線進出並ニ周蔭人青島入ニ関シ万一ノ際ニ処スヘキ方法ニ
関シテハ往電第一六〇号ヲ以テ申進メノ通ナル処尚膠濟鉄
路輸送ニ関シ草場少佐ノ言ニ依レハ派遣軍輸送ニハ差当リ

タルコトナシトスルハ何人モ異議無キ所ナルモ右ハ其結果
ニ何等影響弊害ノ無キ際ニ云フヘキモノニシテ御承知ノ通
濟南進兵ハ膠濟鐵路トノ関係濟南カ支那内地タル事実及二
十一箇条問題ニ関連シ延テハ重大ナル結果ヲ来スヘキ虞有
ルモノナルニ付テハ此点特ニ慎重ニ考慮スヘキモノニ非ス
ヤト認メラル

(9) 尤モ膠濟鐵路断絶ノ虞有リトナス点ニ至リテハ同鐵路カ大
小三十余ノ鉄橋ヲ有スル事実ニ顧ミ支那内争ニ基キ又ハ日
本ノ出兵ヲ妨害スル意味ニ於テ之ヲ破壊又ハ遮断セラルル
虞ハ敢テ孫伝芳軍ノ進出シタル後ト限ラス当初ヨリ有リシ
コトナリ殊ニ同軍ノ進出後ハ將來形勢ノ推移如何ニ依リ一
層其可能性ヲ有スルニ至レリ就テハ其際ヲ慮リ軍隊輸送ノ
完全ヲ期スル為未タ必要ト認メラレザル今日ヨリ濟南ニ進
兵シテ却テ其悪影響ヲ受クルヨリモ膠濟鐵路沿線一帶ノ形
勢ハ出兵決定當時ト事態自ラ異ルモノ有ルニ顧ミ此際寧ロ
天津ヨリ濟南進出ノ準備ヲ為シ若シ青島ヨリノ進兵不能ノ
場合ハ直ニ天津ヨリ派兵シ得ル様兩途ノ準備ヲ為シ置クコ
ト此際ニ処スヘキ最適当ナル処置ニ非スヤト存セラル尤モ
如何ナル場合ニ於テモ濟南ニ進兵セス万一ノ際ハ居留民ヲ

三列車軍需品全部包含シテ計六列車(約百二十輛)有レハ
充分ナリトノコトナルカ現在膠濟鐵路ニハ貨車計約千五百
輛アリ右ノ内現ニ孫伝芳軍カ濰縣ニ於テ約百五十輛坊子ニ
於テ約百二十輛抑留使用シツツアリトノコトナルカ右ニ對
シテハ追テ其返還方交渉然ルヘシト存スルモ尚其外ニ残留
貨車約千余輛有ル筈ナリ尤モ其中ニハ軍隊輸送等ニ使用セ
ラルルモノアルハ事実ナルモ輸送完了後ハ現ニ之ヲ返還シ
ツツアルヲ以テ手配ヲ為サハ万一ノ際軍隊輸送ニハ不足ヲ
感セサルヘシ

尚貨車必要數量ノ手配ニ関シテハ本官赴青ノ節既ニ郷田司
令官及児玉トモ協議ノ上予メ修繕等ノ名義ヲ以テ四方工場
内ニ尚一部ハ^{タイコウ}構内ニ入レ置キ万一ノ際直ニ之ヲ使用シ
得ル様手配ヲ整ハシムルコトトシ置キタリ又軍隊輸送ニ関
シテハ張督弁ハ既ニ之ヲ諒解シ何時ニテモ必要ノ命令ヲ出
スヘキ意向ヲ示シ居リタルカ右ハ濟南出兵ヲ以テ暗ニ山東
軍危険ト看做シテノ行為ナルコトハ其口吻ヨリシテ察セラ
レタルモ兎ニ角督弁ニ於テハ之ニ反対又ハ妨害スル意図無
キモノノ如シ又往電第一六〇号末段天津ヨリノ輸送ニ関シ
テモ他ノ事ニ託ツケテ夫トナク督弁ニ質シタルニ督弁ハ天

津ヨリノ輸送モ充分便宜ヲ計ルヘシトノ意向ヲ示セリ

尚貴電末段当地方一般状勢ニ関シテハ累次電報ノ通差当リ危険ト目スヘキ事実有ルヲ認メス愈今後徐州ニ於ケル馮玉祥、蔣介石会见ノ結果蔣ノ對山東策如何ニ変化スヘキヤヲ注意スルコト最肝要ト存セラル又当地方居留民ノ派兵請願ニ関シテハ我方ニ於テ一応事態ヲ説明シ請願ノ無意義ナルヲ論シタルモ目的ハ保護ニ非ス他ニ有ルヲ以テ請願セルモノナリ即チ右ハ其裏面ニ於テ過去ノ軍駐屯時代ノ景氣ヲ回顧シ此ノ機会ニ一儲セムト企ラミ居ルモノ鮮カラズ尚又日本兵ノ来済ヲ当込ミ支那人ヨリ有料ヲ以テ貴重品ノ保管預入等相当大規模ニ計画シ居ル者スラ有リ彼等ハ何等實際ノ政情ヲ理解シ其危険ヲ感シテ派兵ヲ請願スルモノニ非ス全ク軍ヲ食物ニセントスル魂胆ニ出ツルモノ鮮カラサルヲ以テ此辺ノ事情ハ既ニ勿論御承知ノコトト存スルモ御参考迄ニ申添フ

北京、青島へ転電セリ

563 昭和2年6月27日 田中外務大臣より
在坊子福士書記生宛(電報)

坊子付近の在留邦人保護について

ついで

青島 発
本省 7月4日後着

第一六八号(至急)

往電第一六七号ニ関シ

陳軍李副官本四日渡瀨顧問ヲ来訪シ転交方依頼アリタル趣ヲ以テ膠州滯陣中ノ陳軍長ヨリ援魯總司令ノ名ヲ以テ本官及郷田、中島両司令官ニ宛タル宣言書ヲ持参セリ其ノ内容大体左ノ通

「弊軍ハ茲ニ潮流ノ趨勢ト魯東数百万民衆ノ希望ニ順応セシカ為孫中山先生ノ三民主義ニ服従シ保国榮民ノ趣旨ニ基キ永遠ノ計ヲ建テントト正式ニ宣布ス尤モ弊軍ノ範圍内ニ在ル貴国居留民ノ保護ニ関シテハ絶対完全ニ其ノ責任ヲ負ヒ又膠濟鐵路ノ交通ニ付テモ障害ヲ發生セシメサル様必ス尽力スヘシ弊軍ハ何等内政ニ根本的改革ヲ加フルコトナク既往漢口、九江ノ如キ暴動ハ断シテ發生セサルコトヲ厳重声明ス就テハ貴国在留商民ニ対シ安心スヘキ旨御傳達ヲ請フ尚貴我ノ間ニ隨時連絡員ヲ派遣シ相互ニ意見ヲ交換シ居留民保護ニ便センコトヲ希望ス」云々

七 山東出兵問題

本省 6月27日後発

第一一号

貴電第二九号ニ関シ

山東方面一般状勢ハ大体濟南来電第一五四号ノ通ナルモノノ如ク從テ南軍側ニ於テ直ニ北進孫軍ト決戦ノ挙ニ出ツヘキヤ否ヤ猶疑アリ又万一右決戦行ハレ且孫軍ノ敗北ニ帰スル場合ニモ(イ)同軍側ニ於テ更ニ第二線及第三線ニ拠リ抵抗ヲ繰返スヘキヤ或ハ(ロ)其儘無抵抗退却ヲ行ヒ貴地方ニ於テ兩軍ノ戦鬪ヲ見ルコトナクシテ終ルヘキヤ容易ニ予想シ難キモノアリ差当リ慎重ニ形勢ヲ見徐々ニ措置スルコトト致度キニ付テハ右御含ミノ上此ノ上トモ諜報者等ヲ充分利用シ在青島總領事ト充分連絡ノ上必要ノ場合ニハ直ニ請訓セラルルコトト致度尤モ現地ノ事情緊急請訓ノ違ナキ場合ノ居留民保護方ニ就テハ貴官ノ裁量ニ依リ適宜措置セラレ差支ナキハ勿論ナリ

青島、濟南、張店、博山へ転電アリ度

564 昭和2年7月(4)日 在青島矢田部總領事より
田中外務大臣宛(電報)

援魯總司令名の在留邦人保護に関する宣言書

尚本宣言書ニハ「國民連軍東北革命軍援魯總司令」ノ印ヲ押捺シアリ公文ノ形式ヲ完備セルモノニシテ第一五三号ノ番号ヲ付シアリ相当以前ヨリ計画セラレ且可ナリ広キ範圍ニ通告セルモノナラスヤト推察セラル

転電先往電第一六七号ノ通

565 昭和2年7月(5)日 在青島矢田部總領事より
田中外務大臣宛(電報)

南北いずれを問わず在留邦人の生命財産に脅威を与える場合適當の手段を講じる旨祝司令
に対する説明について

青島 発
本省 7月5日前着

第一七一号

往電第一六八号ニ関シ
(五六四文書)

四日午後祝司令来訪シテ山東軍ノ頽勢挽回ハ殆ト其望ナク殊ニ膠東一帶ニ付テ見レハ自分ノ兵力ハ僅ニ五、六千ニシテ如何トモ策ノ施スヘキナシ然レ共苟モ膠東防守司令トシテ膠東一帶ノ治安ヲ維持スル重任ヲ負フ以上張督弁カ下野シ山東ヲ去ラサル限り飽迄モ青島地方ヲ防守シ外國居留民

保護ノ任ニ当ルヘシ若シ陳軍ニシテ強テ青島入ヲ実行セン
トセハ已ムヲ得ス武力ヲ以テ之ヲ阻止スルノ外ナク張督弁
直屬ノ部下ニシテ特別ノ關係アル自分トシテ他ニ考ヘ得ヘ
キ余地ナシ尤モ一旦張カ職ヲ離ルルニ及ヒテハ敢テ固守ス
ル必要ナク平和裡ニ青島ノ政權ヲ彼ニ讓ル考ヘナルヲ以テ
右ノ意志ヲ陳ニ通スヘク昨三日夜耿參謀長ヲ膠州ニ派遣セ
ルモ未タ帰來セスト述ヘタル上之ニ對シ伺等適當ノ方法ナ
キヤトテ暗ニ我軍ノ援助ヲ請ヒ度キ口吻ヲ洩シ尚本官ニ於
テモ陸海軍兩司令官ト共ニ陳軍長ニ對シ青島ヲ擾亂ノ巷ニ
化セシムルコトナキ様勸告センコトヲ依頼セリ右ニ對シ本
官ハ我方トシテハ南北孰レノ軍ヲ問ハス平和裡ニ青島ニ駐
屯スルヲ妨ケサルモ若シ武力ヲ用ヒ居留民ノ生命財産ニ脅
威ヲ与フル惧アル場合ニ於テハ適當ノ手段ヲ構シテ其ノ安
全ヲ期スルノミナルコトヲ説明シ置キタリ

轉電先往電第一六八号ノ通

566 昭和2年7月5日

在青島矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

陳軍の青島入りに関し祝軍との交渉について

青島

発

567 昭和2年7月5日

在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南への派兵決定方稟請

濟南

発

本省 7月5日前着

第一七八号(極秘)

山東戦局ニ関シテハ累次電報ノ通り津浦線方面ニ於テハ尚
變化ナク濟南ニ関スル限り未タ左程危殆トハ認メラレサル
モ坊子發青島宛電報第四〇号ニ依レハ南軍ハ一部青島方面
ニ向ケ進撃ヲ開始シツツアルモノト認メラレ且青島發貴大
臣宛電報第一六七号及往電第一七六号ノ通り膠濟駐屯ノ元
周蔭人軍ト張宗昌軍及孫伝芳トノ間ニ多少ノ確執アルコト
モ事実ト認メラルル以上此方面ノ南軍進撃ト相俟テ或ハ急
ニ局面展開シ膠濟鐵路遮断セラルルヤモ測ラレサル状態ナ
リ此点可成リ重大ノ形勢ト認メラレ當方ニ於テハ居留民ノ
引揚等ニ関シ順次相當ノ処置ヲ執ル必要アリト信スル次第
ナルニ付テハ往電第一六〇号及第一七三号ニ関シ至急何分
ノ御訓令ヲ得タク若シ天津ヨリノ派遣及居留民全部ノ引揚
共詮議ヲ得難ク飽迄濟南進兵ノ御方針ナル以上往電第一七
三号ニ申述ヘシ通りノ堅キ御決心ヲ以テ此際至急御決定相

第一七三号
(五六五文書)

往電第一七一号ニ関シ

本省 7月5日後着

陳軍総參議張志垣ハ四日午後前夜膠州ニ赴ケル祝軍耿參謀
長ト同道來青シテ陳軍ノ青島入ニ関シ祝司令ト交渉ヲ続ケ
居ル趣ニシテ聞ク所ニ依レハ祝軍側ノ意向ハ同軍ハ東城陽
ヲ以テ陳軍ハ西藍村ニ於テ對峙シ濟南方面ノ時局推移ヲ待
ツコトトシタシト言フニアルニ反シ陳軍側ハ祝軍カ白砂河
(旧租借地境界線)ノ線迄引下ルヘキヲ要求シテ讓ラス兩
者ノ間ニ尚相當意見ノ相違アル為目下行惱ミノ形ニアリ當
地總商會側モ青島付近ニ於ケル兩軍ノ衝突ヲ防止センコト
ヲ希望シ祝軍ニ對シ陳軍側ノ希望ヲ容ルル様懇願シタルモ
同軍ニ於テ之ヲ肯セサル趣ナリ若シ濟南發大臣宛電報第一
六九号ノ如ク張宗昌カ一戦ノ覚悟ヲ以テ今明日中ニモ出動
スルコトアラハ祝陳兩軍ノ間ニモ自然城陽付近ニ於テ衝突
ヲ免レサルニ至ルヘシト考ヘラル尚当地支那銀行ハ今日ヨ
リ四日間全部休業セリ

往電第一七一号ノ通電セリ

煩ハシタク現在既ニ具体的ニ之ヲ考慮決定スヘキ時機到來
セリト認メラルルニ依リ茲ニ重ネテ稟請ス

北京、天津、奉天、上海、漢口、広東、福州へ転電セリ

568 昭和2年7月5日

在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南出兵の至急決定方稟請

濟南

発

本省 7月5日前着

第一七九号(極秘 至急)

往電第一七八号ニ関シ
(五六七文書)

本四日張督弁ノ談ニ依レハ周蔭人軍ハ愈馮玉祥ト連絡ノ上
膠州ニ於テ獨立ノ態度ヲ明ニシタルヲ以テ張督弁ハ武力ヲ
以テ之ニ對スヘク兵ヲ率ヒ五日夜カ或ハ六日夜濟南發雜県
ニ赴クヘシトノコトナリ現在周蔭人軍ハ東城陽西曹家莊ニ
至リ膠濟鐵路交通ハ猶断絶シ居ラサルモ張督弁出征シ兩軍
開戦スルニ至ラハ勿論断絶ノ危険アルヲ以テ青島ヨリノ濟
南進兵ハ督弁出征前至急決行スル必要アリ督弁ハ本進兵ノ
件了解シ右輸送ニ関シテハ既ニ鐵路局長ニ命令ヲ發シ更ニ
別ニ命令書ヲ本官ニ手交セリ該命令書ハ草場少佐ヨリ特使

ヲ派遣シ之ヲ携帶セシメ本日夜行ニテ赴任セシムヘシト右至急御決定ヲ仰ク

(郷田司令官へ青島総領事ヨリ伝達ヲ請フ)

在支公使、青島、天津、坊子、張店、博山、芝罘へ転電セリ

昭和2年7月(6)日 在青島矢田部総領事ヨリ
田中外務大臣宛(電報)

我が陸海軍による青島の秩序維持尽力方趙総

弁より依頼越しについて

青島 発

本省 7月6日前着

第一七八号(至急)

今六日午前四時趙総弁来訪督弁ヨリ自分及祝司令宛密電ニ依レハ督弁ハ自ら六旅ヲ率テ今晚四時濟南發陳軍討伐ノ為沿線ニ向フトノ事ニテ祝軍モ命ニ依リ城陽方面ニ於テ対敵行動ニ出ツ可ク一時半既ニ尖兵隊ノ衝突ヲ見タリ祝軍殘留部隊モ今朝全部出動ノ筈ナリ右ニ付自分ニ於テハ青島ノ秩序維持ニ付懸念ニ堪ヘサル次第ニシテ警察ノミノ力ニテハ充分安心ナリ難ク斯ル際ニ於テ便衣隊又ハ無頼ノ徒ノ活動

ヲ觀ルコト無キヲ保セサルニ付テハ此際貴國陸海軍ニ於テ青島ニ於ケル内外人保護ノ見地ヨリ青島ノ秩序維持ニ付御

尽力ヲ仰キ度右ハ勿論何等山東軍援助ヲ求ムル所以ニアラス貴國ノ好意ニ依リ接収シタル青島ヲ擾乱ノ巷ト化スルカ如キ事アラハ申訳無キ次第ナルニ付自分トシテハ一意青島

ノ治安ヲ維持シ内外商民ノ安全ヲ計ラントスルノ外他意無キ次第ナリト申立テタルニ付我出兵ノ趣旨ヨリ我軍カ執レ

ノ側ヲモ援助又ハ妨害スルカ如キ事無キハ勿論ノ儀ナル事ヲ説明シ若シ貴総弁ニ於テ青島ノ秩序維持ノ見込無シト云

ハルル以上我方トシテハ邦人保護ノ見地ヨリ必要適當ノ措置ヲ採ル外無ク右ニ付テハ陸海軍指揮官トモ好ク協議ヲ遂クルコトトス可シト答ヘ引取ラシメタリ

転電先往電第一六七号ノ通り

昭和2年7月6日 在青島矢田部総領事ヨリ
田中外務大臣宛(電報)

陳に対し祝軍との衝突回避と膠濟線恢復方申

入れについて

青島 7月6日後発

本省 7月6日後着

第一八二号
(五六四支書)
往電第一六八号陳ノ宣言ニ対シ本官ハ此ノ際青島及沿線地方在留民保護ニ関シ切実ナル考慮ヲ促ス外曩ニ川南ヲ派遣シ一応連絡ヲ着ケ置キタルモ猶今後ノ連絡ヲ計ル為及陳軍カ宣言ヲ裏切り鉄道ノ交通ヲ妨害シ居ル事実ニ対シ其不信ヲ責メ速ニ之ヲ恢復セシムヘク交渉ノ為五五正午發川南ヲ膠州ニ急派シ(陸海軍司令官代理同行)六日午前一時過歸來シタルカ其報告ニ依レハ

(一)陳ハ山東人(曹州出身)トシテ多年張宗昌ノ惡政ニ苦メル人民ヲ救済スヘク義憤ニ依リ立チ馮玉祥ヨリ援魯總司令兼第三十九軍長ニ任命セラレ膠東一帶ノ実権ヲ維持スル責ニ任スルコトトナリタル關係ヨリ見ルモ内外人ノ生命財産ノ保護ニ付テハ万全ノ責任ヲ負フヘク殊ニ其數最モ多キ日本人ニ対シテハ貴我ノ友好關係ニ顧ミ殊更留意シ居ル次第ナリ然ルニ蔣介石ノ直系タル何応欽ニ属スル南軍ノ一部(三軍アリト云フ)ハ山東東南地方ヨリ北上シ既ニ膠州付近及諸城地方ニ進出シ代表ヲ派シテ陳軍ニシテ青島入りヲ欲セサレハ我軍(何応欽軍)代テ侵入スヘシト申入レ来リシカ彼等ハ排日思想熾烈ニシテ如何ナ

ル暴挙ヲ敢行スルヤモ知レサルヲ顧慮シ彼等ノ前進ヲ差止メ泰安方面ニ転出方申入レ置キタル關係モアリトテ陳軍ノ青島入りハ至急決行ノ必要アリト述ヘタルニ対シ川南ハ祝軍カ青島ニ駐屯シ居ル以上彼トノ解決付カサルニ先立チ兵ヲ進ムルハ兩者衝突ノ原因ヲ作り從テ我居留民ニ危害ヲ及ホス虞アルヲ以テ極力之ヲ避ケ何等平和的方法ニ依リ解決スルコトノ必要ヲ説キタル上我陸海軍ハ既ニ説明セル通り南北軍何レヲ問ハス其軍事行動ヲ妨クルモノニ非サルモ万一居留民ニ危害ノ及フ虞アルニ至ラハ何軍ヲ論セス自衛上必要ナル措置ヲ執ルコトアルヘキ旨ヲ付言シ警告シタルニ対シ

(二)陳ハ自分モ素ヨリ和平解決ヲ要望スル処ナリ祝自身サハ身ヲ退カハ彼ノ部下(青島駐在三団中二団ハ内通)及海軍側其他ノ機關トハ連絡付キ居ルヲ以テ青島入りヲ為スモ市内ニ於テ擾乱ヲ起ス虞ナシ安心アリ度シト確信アルカ如キ口吻ヲ洩セリ

(三)鐵路妨害ニ対シテハ決シテ部下軍隊ノ所為ニ非ス張宗昌ニ怨恨ヲ抱ケル民衆ノ仕業ト認ムルヲ以テ現二人ヲ派シ調査中ナルニ付右報告ヲ待チ適當ノ方法ヲ講スヘシト弁

明シ尚鐵路局ノ主任者大半去リタル今日之ヲ主宰スルモノナキニ付速ニ人ヲ派シ管理セシメ度考ナルカ何レニシロ自分カ青島ニ入込メハ鉄道ノ如キモ何等障害ヲ生セシムル様ノコト無キ旨前後矛盾ノ言草ニ対シ川南ヨリ膠濟線ト我担保權トノ關係並ニ交通妨害ノ及ホス重大ナル影響ヲ詳述シ至急恢復方考慮ヲ促シタル処陳ハ損害不便ハ貴國ノ受クルモノヨリモ自分ノ方却テ多大ナルヲ以テ出来得ル丈ケ早ク原状恢復ヲ計ルコトニ努ムル積リナリト言明セル由ナリ

以上ノ外陳及局長參議カ孫軍トノ關係其他ニ付語レル要領左ノ通り

編注 以下第一八二号の(3)の電文見当らず

571 昭和2年7月(6)日 在濟南藤田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

膠濟沿線の緊張に鑑み濟南進兵に対する回訓
促進方について

濟南 發
本省 7月6日後着

第一八五号(至急)

シメツツアリ兩軍衝突前ニ貴軍ノ濟南出動ヲ必要ト認メラルルニ依リ至急濟南ニ進兵セシムル様準備相煩度シ

573 昭和2年7月6日 田中外務大臣より
在青島矢田部總領事宛(電報)

濟南進兵に関する訓令について

付記一 濟南進兵に付上奏要領案

二 濟南進兵に関する田中外務大臣と四国大使との会見録

三 山東派遣軍濟南進兵について

本省 7月6日發

第八二号(至急) 極秘)

本大臣宛藤田總領事發第一七九号ニ関シ山東派兵ノ目的ハ

濟南ニ於ケル二千ノ居留民ヲ現地ヨリ引揚ケルコトナク急

ニ応シテ進兵保護スルニ在ルコトハ御承知ノ通りナリ從テ

其ノ途中ニ於ケル鉄道沿線ニ於テ戰鬪勃發シ鉄道交通断絶

シ一旦危急ノ際直ニ濟南ニ進兵スルコト不可能ノ状態トナ

リ当初派兵ノ目的ヲ達セサルカ如キ惧アルニ於テハ甚タ遺

憾ナルヲ以テ濟南總領事稟請ノ通り沿線交通断絶ニ先シ

至急濟南ニ進兵ノ命令ヲ發スルコトナレリ尚必要ニ応シ

之カ補充ノ為在滿部隊ヨリ青島方面ニ増派セラルヘシ且鉄

七 山東出兵問題

往電第一七八号及一七九号ニ関シ其後本官及在青島總領事

ヨリ累次電報ノ通膠濟鐵路沿線ノ形勢ハ漸次切迫シ並ニ濟

南ニ於テモ孫伝芳軍ト張宗昌軍トノ關係ニ種々ノ疑念モ挿

マレ人心漸次不(脱)襲ハレツツアリ本官トシテハ此際居

留民ノ安全ヲ期スル為至急適宜ノ処置ヲ執ルノ必要ニ迫ラ

レ居ルニ付テハ往電第一七三号及一七(脱)請訓ニ対シ至

急何分ノ儀御回訓ヲ得タク已ムヲ得サレハ貴電第二九号ニ

基キ機宜ノ処置ヲ執ルヘキニ付右予メ御了承置キテ請フ

北京、青島へ転電シ青島ヨリ郷田司令官へ御伝へテ請フ

572 昭和2年7月(6)日 在濟南藤田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

郷田司令官あて陳・張兩軍衝突前に濟南への
進兵準備方要請について

濟南 發
本省 7月6日後着

第一八七号(極秘)

本官發青島宛電報第一七九号

郷田司令官へ

膠州ニ於ケル陳軍ノ離反ニ対シ張宗昌ハ漸次軍隊ヲ出動セ

道沿線ニハ後方連絡ノ為若干ノ兵力ヲ配置セラルヘキモ往

電合第一六四号決定ノ通り鉄道ノ管理又ハ警備ニ手ヲ触ル

ルコトナシ以上御含ノ上貴官ハ山東省当局並濟南ノ山東軍

及沿線ニ於ケル南軍ノ軍憲ニ我進兵ノ理由ヲ充分説明ノ上

了解ヲ遂ケ軍隊輸送ニ障碍ナカラシムルハ勿論貴管内ニ於

テ直ニ戰爭ノ巷トナル虞アル方面ノ居留民ニ対シテハ任意

引揚ヲ勸告スルト同時ニ之等沿線ニ於ケル兩軍ノ責任者ニ

於テ引揚又ハ殘留ノ帝國臣民ノ生命財産ノ保護ニ関シ遺憾

ナキヲ期スル様最モ懇談的ニ諒解ヲ遂ケ邦人保護ノ措置ニ

付万遺算ナキ様御努力アリタシ

尚派遣軍出發後ノ青島ニ於ケル邦人保護ノ為ニハ差当リ海

軍ニ於テ手配方予テ電命シアリ

尚別電合第一八四号声明書ヲ六日公表セリ

別電ト共ニ訓令トシテ濟南、坊子、張店、博山ニ転電アリ

タシ

(付記一)

濟南進兵ニ付上奏要領案(極秘)

海岸ヲ距ル二百数十哩ノ奥地ニ在ル濟南在留約二千人ノ邦

人保護ノ為危急ノ際直ニ同地ニ進出セシムルノ準備トシテ不取敢青島ニ派兵方曩ニ勅裁ヲ仰キ該地ニ二千ノ兵ヲ駐派セシメ山東地方ノ形勢ノ如何ニヨリ在濟南帝國總領事ノ稟請ヲ俟ツテ進兵決行ノ命ヲ下スコトト致置タル処濟南青島間鐵道沿線ニ於テ最近支那軍隊間ニ戰端開カレ沿線地方擾亂ノ危険差迫リ速カニ濟南進兵ヲ決行セサルニ於テハ一旦危急ノ際鐵道交通斷絶ノ為派兵当初ノ目的タル濟南邦人保護ノ為進出スルヲ得ス終ニ此等多數ノ邦人ヲ危険ニ陥ルルノ虞ナシトセス仍テ濟南總領事ノ稟請ヲ容レ青島派遣軍ハ即時濟南ニ進出スルコトト相成ヘク之カ為兵力不足スヘキヲ以テ必要ニ応シ滿州ヨリ所要ノ部隊ヲ増遣スル為軍部ニ於テ適宜命令措置致ヘク同時ニ沿線ニ散在スル邦人ノ保護ニ就テ直ニ最善ノ措置ヲ講スル様當該領事官ニ電訓可致此段謹テ奏ス

(欄外記入) 七月六日午後二時口頭上奏スミ

(付記二)

大臣会見録(十八)

七月七日午後田中大臣英米仏伊各大使ノ來省ヲ求メラレ

(「センチネル」)ノ間ニ衝突起レル事態ナリ依テ七月四日午後在青島矢田部總領事ハ英米獨各領事ヲ招キ前記事情ヲ述ヘ意見ノ交換ヲ行ヒタルカ領事団トシテハ暫ク成行ヲ見ルヘシトノ意見多カリシモ英國領事ハ事態急迫セルニ鑑ミ軍隊派遣方ヲ本國政府ニ稟請シタル旨ヲ述ヘ又米國領事ハ同港碇泊中ノ艦隊乗組員ヲ必要ニ応シ上陸セシメ得ヘキ旨ヲ述ヘタリ

三、尚青島ニ於テハ商埠總弁ヨリ同地ノ秩序維持ニ付自己ノ警察力ノミニテハ充分安心ナリ難ク懸念ニ堪ヘサルヲ以テ同地ニ於ケル内外人保護ノ見地ヨリ我陸海軍ノ助力ヲ欲スル旨内々矢田部總領事ニ申入レタル次第ナルカ我方トシテハ在留邦人保護ノ為必要ノ措置トシテ派遣軍青島出發後ハ不取敢海軍ニ於テ可然手配スル筈ナリ

四、曩ニ五月二十八日各位ニ對シ青島派遣軍ヲ濟南ニ進メサル可カラサル程濟南方面ノ形勢危急ヲ告ケ從テ北支一帶動搖ノ惧アル場合ニハ帝國政府トシテハ北支駐屯軍ニ對シテモ適當ノ増援ヲ行フ決心ナルコトヲ述ヘ置キタルカ今次ノ濟南進兵ハ青島濟南間ノ交通斷絶及地方的擾亂ニ鑑ミ緊急事態發生ノ予防措置トシテ之ヲ行ヒタル迄ニ

日本政府ハ山東方面ノ情勢ニ鑑ミ曩ニ青島ニ派遣シタル軍隊ヲ今回濟南ニ進出セシムルコトニ決定シタリトテ其ノ理由トシテ六日發表ノ聲明書ノ大要ヲ述ヘラレタル後之カ補足トシテ尚申上度キコトアリ依テ本日御足勞ヲ願ヒタル次第ナリトテ左記諸点ヲ説明セラレタリ

一、今回ノ進兵ハ專ラ濟南青島間ノ鐵道沿線ニ於ケル擾亂ノ為執リタル緊急措置ナル処濟南ノ如ク海岸ヨリ二百數十哩ノ奥地ニ進兵スルハ軍ヲ孤獨ニ陥ルル危険アルニ鑑ミ後方連絡ノ為当初ノ予定通り必要ニ応シ在滿部隊ヨリ若干ノ兵ヲ青島方面ニ補充増派セサルヲ得ス右ハ当然ノ措置ニシテ特ニ申ス迄モナキコトナルカ為念尚此補充ノ軍隊ヨリ少數宛ノ兵ヲ割キテ鐵道沿線ノ重要ナル地点即チ濰縣、博山、張店等ニ派駐セシメ以テ鐵道線路ノ破壞セラルルヲ防カシムル積リナリ

二、山東方面ノ現状ヲ見ルニ鐵道沿線ノ擾亂ハ主トシテ青島ニ近キ膠州ヲ中心トシ元周蔭人軍寢返リヲ打チテ南軍ト通シタル為張宗昌ハ七月四日先ツ濰縣方面ニ於ケル其ノ軍隊ニ攻撃命令ヲ發シ又青島ニ於ケル自己所属ノ警備司令ニモ同様ノ命令ヲ下シ同五日ニハ既ニ兩軍ノ尖兵

テ濟南前面ハ未タ事態左程急迫セス南北兩軍ハ從前通り依然トシテ鉅野、界河、沂州ノ線ニ於テ對峙シ居ルニ止リ從テ北支一帶未タ動搖ノ兆現ハレサルニ付北支駐屯軍ノ増援ハ此ノ際実行セサル意向ナリ

右ニ對シ英國大使ヨリ滿州軍ハ補充ノ為何時出發スヘキヤ又其ノ數ハ現在ノ派遣軍ト同數位ナルヤヲ尋ネ大臣ハ出發ノ日決定シ居ラサルモ青島軍ハ既ニ昨夜ヨリ濟南ニ出發ヲ開始シ居ルヲ以テ滿州ヨリモ之カ補充ヲ急ク必要アリ多分明日中位ニハ出發スルコトトナルヤモ知レス又其ノ數モ先ツ現在ノ派遣軍ト同數位ノ積リナリト答ヘラレ

仏國大使ヨリ曩ニ青島派兵ノ際其ノ目的ハ日本人保護ニ在リテ支那側ノ軍事行動ニ関与スルモノニ非サルコトヲ聲明セラレタル所本日伺フ所ニ依レハ鐵道沿線ノ各要地ニモ派兵セララルル趣ナルカ斯克テハ鐵道沿線ニ於テ支那軍隊ノ戰鬪行為ヲ開始スルニ當リ鐵道線路ノ保護若クハ管理ノ為日本兵モ自然支那側ノ軍事行動ニ干渉スルノ止ムヲ得サル事態モ生スヘク先ノ聲明ト今回ノ措置トノ間ニ觀念上ノ矛盾ナキヤヲ感スル次第ナリ而シテ實際ニ兵力ヲ以テ鐵道線路ノ管理保護ヲ計ラントセララルルニ於テハ今回ノ寢返軍カ約

二万ヲ算スル趣ナルニ対シ僅ニ二千ノ兵力ヨリ少数宛割キテ各地ニ分駐セシメラルル位ニテハ右鉄道線路保護ノ目的ヲ充分達セラレ得ルヤ甚タ疑ヒ無キ能ハサル所此点ニ関スル御意見如何ト問ヒタルニ対シ大臣ハ初メヨリ多数ノ兵ヲ鉄道沿線ニ派駐セシムルコトハ却テ支那側トノ衝突ノ機会ヲ増スノ恐レアルカ為ニ之ヲ少数必要ノ限度ニ止メタルモノニシテ只今ノ所ハ今回ノ措置ヲ以テ充分ナリト思考シ居レリト述ヘラレタルニ

伊太利大使ハ日本兵駐屯スト言ヘハ支那兵ハ其ノ名ヲ尊重シ以テ其ノ数ノ如何ニ拘ラス恐レヲ為シテ衝突等ヲ避クルコトトナル次第ナルヘシト挿話シタルニ大臣ハ全ク其ノ通リナリト答ヘラレタリ

尚伊太利大使ヨリ青島派兵ノ際北京政府ヨリハ日本政府ニ対シ抗議ヲ申込ミ来リタル趣ナルカ今回モ亦嘸北京政府ヨリモ抗議アルコトナルヘシト述ヘタルニ大臣ハ支那側ニ於テハ表面ハ抗議シ乍ラモ内心ハ我軍ノ派遣ヲ歓迎シ居ル有様ニテ青島付近ニ於テモ若シ我派兵ナカリセハ既ニ今日ニ到ルヲ待タスシテ孫軍ト山東軍トノ衝突モアリシナルヘク又我軍ノ存在ヲ頼リトシテ青島付近ニ避難シ来リシ支那人

昭和二年七月八日(沢田電信課長口述)(矢島)

(付記三)

山東派遣軍濟南進兵ニ関スル件(極秘)

(昭和二年七月七日)

一、最近ノ山東方面政況

(イ) 山東方面ニ於ケル最近政況殊ニ南北対戦ノ形勢ヲ見ルニ津浦線方面ニ於テハ六月末蔣介石軍ノ攻勢開始ニ依リ山東軍ハ韓莊ノ線ヲ放棄シ爾來南北兩軍ハ大体ニ於テ鉅野、界河ノ線ニ於テ相對峙シ居リ

(ロ) 山東各部ニ於テハ海州ニ拠レル孫伝芳軍ハ六月半南軍ノ攻撃ヲ受ケ其大部分ハ軍ノ給養上便ナル地ニ出ツル為漸次膠濟鐵路沿線地方ニ移動シ来リタルヲ以テ山東軍ハ前線ニ出動シ孫軍ト共ニ沂州ノ線ニ於テ南軍ヲ支ヘ居タルカ最近前記沿線地方孫軍ノ大部ハ更ニ津浦線方面ニ移動シ界河方面ニ出動シテ山東軍ト共同動作ニ出ツルニ至レリ

(ハ) 然ルニ七月四日ニ至リ前記膠濟鐵路沿線ノ孫伝芳軍中膠州ニ在リタル陳以樂軍(元周蔭人軍)ハ南軍ニ加担

多数ナリシ情勢ナリト答ヘラレタリ

次テ米國大使ヨリ濟南ニ赴キタル軍隊ヲ更ニ津浦線ニ沿フテ進出セシメラルル積リナリヤヲ尋ネタルニ対シ大臣ハ濟南ヨリハ絶対ニ他ニ出動セシムル意思無ク同地ノ在留民危険ヲ感セサルニ至ラハ直ニ同軍ヲ撤退セシムル積リナルヲ答ヘラレ

更ニ付言シテ先般ノ青島派兵以來日本ノ真意カ山東鉄道ヲ占領シ以テ華盛頓會議以前ニ於ケル山東省内ノ日本ノ地歩ヲ回復センカ為ナリトノ誤レル解釈ノ下ニ各種ノ宣伝ヲ行フモノモアル所日本政府トシテハ今後濟南カ南軍ノ手ニ落タルト將又現在通り山東軍ノ手中ニアルトヲ問ハス兎ニ角同方面カ当該軍ノ支配ノ下ニ情勢平靜ニ帰シ秩序完全ニ維持セラレ以テ山東各地ノ我在留民安ンシテ正当ノ業務ヲ遂行シ得ルニ至ラハ直ニ我軍ヲ山東全省ヨリ撤退セシムル積リナルヲ以テ此ノ点貴大使等ニ於テ充分御諒解アリ度ク以テ世上ノ曲解ニ依リ宣伝ニ惑ハサレサル様充分注意アリ度シ此ノ点ハ本日態々御足勞ヲ煩シタル最大ノ理由ノ一ナルヲ以テ右ニ了承アリ度シト述ヘラレタルニ各大使能ク之ヲ諒解シタル旨ヲ述ヘテ辞去セリ

スルノ態度ヲ明ニシ山東々南部ヨリ北進シ来レル南軍ト相策応スルニ至リタルカ張宗昌ハ右ニ対シ四日先ツ濰縣方面ニ於ケル其軍隊ニ攻撃命令ヲ發シ又青島ニ於ケル祝軍ニモ同様ノ命令ヲ下シタルト共ニ濟南ヨリ三万ノ軍隊ヲ濰縣ニ向ケ出動セシメタルカ五日ニハ既ニ陳祝軍尖兵ノ衝突アリ膠濟鐵路沿線各地擾亂ノ危険切迫スルニ至レルノミナラス濟南方面ニ於テモ孫伝芳自身ノ態度曖昧ナル為近ク同地ニ戦禍ノ波及スルコトナキヲ保セサル状態トナレリ

二、濟南進兵方決定

前記ノ形勢ニ鑑ミ在濟南藤田總領事ハ此期ニ於テ青島派遣軍ノ濟南進兵ヲ決行スルニ非レハ同軍当初ノ目的タル同方面居留民保護ノ任ヲ全ウスルコト能ハサルニ至ルヘシトノ意見ヲ具シ至急進兵決定方電報ヲ以テ政府ニ対シ稟請シ来リタルヲ以テ參謀本部ニ於テハ五日夜青島派遣軍司令官ニ対シ不取敢前記藤田總領事稟請ノ次第ヲ報スルト共ニ濟南進兵ニ付キ準備ヲ為スヘキ旨内命シタルカ政府ニ於テモ慎重審議ノ上藤田總領事ノ稟請ヲ容レ濟南方面緊急事態發生ノ予防措置トシテ派遣軍ヲ濟南ニ進出

574

昭和2年7月6日

田中外務大臣より
在英國松井、在米國松平各大使、在
東森田總領事、在上海清水、在奉天
谷各總領事代理宛(電報)

濟南進兵に関する訓令通報について

別電 七月六日付田中外務大臣より在英國松井、在米

セシムルコトニ決定シ右ノ趣並必要ニ応シ補充ノ為在滿部隊ヨリ青島ニ増派スルコトヲ七月六日上奏ヲ了シ同日關係出先官憲ニ対シ大要左記ノ通訓令セリ

(イ)山東派兵ノ目的ハ濟南ニ於ケル二千ノ居留民ヲ現地ヨリ引揚クルコトナク急ニ応シテ進兵保護スルニ在ル処同方面現下ノ形勢ニ鑑ミ一旦危急ノ際濟南ニ進兵スルコト不可能ノ状態トナリ当初派兵ノ目的ヲ達セサルカ如キ事態トナルトキハ甚タ遺憾ナルヲ以テ沿線交通斷絶ニ先ンシ至急濟南進兵ノコトニ決セルコト

(ロ)必要ニ応シ補充ノ為在滿部隊ヨリ青島ニ若干兵力ヲ増派セルルヘキコト

(ハ)鐵道沿線要地ニハ後方連絡ノ為若干ノ兵力ヲ配置セラシムルヘキコト但鐵道ノ管理又ハ警備ニ付テハ嚮ニ外務陸軍兩省間打合ノ通一切之ニ手ヲ触レサルコト

(ニ)沿線地方直ニ戰爭ノ巷トナル虞アル方面ノ居留民ニ対シテハ任意引揚ヲ勸告スルト同時ニ沿線支那軍隊責任者ニ於テ帝國臣民ノ生命財産保護ニ関シ遺憾ナキヲ期スル様充分諒解ヲ遂クル等邦人保護ノ措置ニ付違算ナキヲ期スヘキコト

留部隊ノ外予定通海軍ニ於テ主トシテ之ニ当ルコトトシ七月六日夜ヨリ翌七日期朝ニ互リ陸戰隊五ケ中隊(約六百五十名)ヲ上陸セシメ青島市内ニ三ケ中隊、四方滄口ニ各一ケ中隊ヲ配置シタリ又七月八日午後上海ヨリ更ニ陸戰隊約三百名到着ノ筈ナリ

五、青島警備ニ関スル英米兩國側ノ態度

在青島矢田部總領事ハ山東方面ノ形勢ニ鑑ミ七月四日午後英米各領事ヲ招キ事態ヲ説明シタル上意見ノ交換ヲ行ヒタルカ領事團トシテハ暫ク成行ヲ見ルヘシトノ意見多カリシ趣ナルカ英國領事ハ事態急迫セルニ顧ミ軍艦(乗員二千名ヲ有ス)派遣方ヲ本國政府ニ稟請シタル旨ヲ述ヘ又米國領事ハ同港碇泊中ノ潜水艦隊乗組員中必要ニ応シ五百名ノ陸戰隊ヲ上陸セシメ得ヘキ旨ヲ述ヘタリ

(欄外記入) 七月八日西園寺公爵ニ提出ノモノ

三、声明書発表及關係各方面ニ対スル説明

政府ニ於テハ前項決定ノ趣旨ヲ中外ニ闡明スル為六日夕別紙^(五七四文書)第二声明書ヲ公表シ尚同日在外帝國各大使及在支各公館宛各地当局ニ対シ必要ニ応シ今次進兵ニ関スル我方ノ真意ヲ説明スルト共ニ一般輿論ニ対シテモ万誤解ナキヲ期スヘキ旨訓令シタルカ更ニ七日田中大臣ハ在本邦英米仏伊各國代表者ヲ招致シ今次措置ニ関シ充分説明ヲ与ヘ置ケリ

四、派遣軍青島出發

青島派遣軍ハ七月七日午前三時指導列車ヲ先頭トシ五ケ列車ニ分乗午前十一時終發ニテ青島ヲ発シ西進セリ

尚各地配備予定数左ノ如シ

濟南(旅団司令部) 歩兵二ケ大隊及二ケ中隊、機關銃隊一隊、歩兵銃隊二隊

張店 歩兵二個中隊、機關銃隊一隊、工兵二ケ分隊

(此中ヨリ淄川及博山ニ歩兵一ケ小隊宛隨時分派)

坊子 歩兵一個中隊、工兵一個分隊

青島 歩兵一個中隊、機關銃隊一小隊、工兵一部隊

尚軍出發後ニ於ケル青島方面ノ警備ニ付テハ前記青島殘

國松平各大使、在中國現代理公使、在上海、広東、奉天、青島各總領事宛合第一八四号
濟南進兵に関する声明書

本省 7月6日後6時45分發

合第一八二号(至急極秘)

曩ニ膠濟鐵路沿線各地ニ移動セル孫伝芳側軍中膠州ニ入りタル元周蔭人軍ハ最近終ニ南軍ニ加担スルノ態度ヲ明ニシ山東々南部ヨリ漸次沿線地方ニ北進シ来レル南軍ト相策応スルニ至レルカ右ニ対シ張宗昌ハ軍ヲ濰県ニ出動シ之ニ衝ラムトスルノ態度ヲ持シ居リ膠濟鐵路沿線各地擾乱ノ危険切迫スルニ至レルノミナラス濟南方面又孫伝芳自身ノ態度曖昧ナル為近ク同地ニ戰禍ノ波及スル虞ナシトセス依テ政府ニ於テハ在青島濟南總領事ニ対シ別電合第一八三号(青島宛第八二号)^(五七三文書)ノ通訓令スルト共ニ別電合第一八四号ノ通声明書ヲ公表シタリ

尚右措置ハ緊急事態發生ノ予防措置ニ過キス濟南前面乃至北支方面ニハ動搖ノ兆表ハレサルヲ以テ北支駐屯軍ノ増援ハ此際未タ実行スル意向ナシ

就テハ貴官ハ右御舎ノ上貴地当局ニ対シ必要ニ応シ可然我方ノ真意ヲ説明相成ルト共ニ一般輿論ニ対シテモ万誤解ナ

キヲ期セラルルコトト致度

尚当地ニ於テハ七日本大臣ヨリ当地英米仏伊四国代表者ニ
対シ右説明ノ答

在英大使宛ノ分ニハ「別電二通ト共ニ訓令トシテ在欧各
大使ニ転電アリ度」

上海宛ノ分ニハ「別電二通ト共ニ訓令トシテ漢口、蘇
州、杭州、南京、九江、蕪湖、汕頭、厦門、福州へ転
電アリ度上流地方へハ漢口ヨリ適宜転電セシメラレ
度」

広東宛ノ分ニハ「別電二通ト共ニ訓令トシテ雲南、香港
へ転電アリ度」

奉天宛ノ分ニハ「別電二通ト共ニ訓令トシテ天津、芝
罘、在滿各領事（赤峰ヲ含ム）へ転電アリ度」

ト夫々付記ノコト

（別電）

本省 7月6日後6時30分発

合第一八四号（至急）

帝国政府ハ支那動乱ノ形勢ニ鑑ミ濟南在留約二千ノ邦人保

護ノ為危急ノ際直ニ同地ニ進出セシムルノ準備トシテ曩ニ

不取敢軍隊ヲ青島ニ派遣シ置キタルカ果然山東方面殊ニ濟
南青島間鐵道沿線ニ於テ最近支那軍隊間ニ戦端開カレント

シ同沿線地方擾乱ノ危険切迫セルノ報ニ接シタリ此ノ際直
ニ濟南進兵ヲ決行スルニ非ンハ鐵道交通断絶等ノ為進兵不

可能トナルニ至ルヘク遂ニ派兵当初ノ目的タル濟南方面多
數邦人保護ノ任ヲ全フスルコト能ハサルニ至ルノ惧アリ仍
テ帝国政府ハ茲ニ当初声明ノ趣旨ニ基キ我派遣軍ヲ青島ヨ
リ即時濟南ニ進發セシムルニ決セリ右ハ固ヨリ在留邦人ノ
安全ヲ期スル緊急自衛ノ措置ニシテ邦人保護ノ外他意ナキ
コトハ中外ノ均シク諒解スヘキヲ疑ハス

575 昭和2年7月6日 田中外務大臣より
在中国現臨時代理公使宛（電報）

北支駐屯軍の増援見合わせについて

本省 7月6日後発

第三四七号（至急）

往電第三四六号ニ関シ

往電第二九五号（二）北支駐屯軍ノ増援ハ此際之ヲ実行ス
ル考ナシ為念

576 昭和2年7月(7)日 在濟南藤田總領事より
田中外務大臣宛（電報）

我が派遣軍濰縣以西への進出につき張督弁協

力方言明せる旨郷田司令官へ通報について

濟南 7月7日前着
本省 7月7日前着 発

第一八八号

本官發青島宛電報第一八〇号（極秘）

郷田司令官へ

草場少佐宛電報拝誦直ニ張督弁ニモ面会ノ上濟南及ヒ沿線
進兵決定ノ趣話シタル処督弁ハ之ヲ歡迎スル意ヲ述ヘ濰縣
以西ニ於テハ総ユル便宜ヲ計ル様直ニ命令ス可ク列車準備
ニ関シテモ既ニ趙局長ニ電命シタルモ更ニ無電ヲ以テ電命
ス可キ旨述ヘ又濟南兵舎等ニ関シテモ出来得ル限り便宜計
フ可シトノ事ナリ尚督弁ハ本日濟南濰縣ニ赴ク可キ筈ノ
処之ヲ延期シ貴官着濟ノ上出發ス可シト尚孫伝芳トハ明朝
会见了解ヲ遂クル予定

大臣、北京、坊子、張店、博山、芝罘へ転電セリ

577 昭和2年7月(7)日 在天津加藤（外松）總領事より
田中外務大臣宛（電報）

濟南在留邦人を全部天津に引揚げ方について

天津 7月7日前着
本省 7月7日前着 発

第一〇一号（至急）

在濟南青島總領事ヨリノ電報並ニ当地司令部及驅逐艦ノ入
手セル報道ニ依レハ膠濟鐵道不通トナリタル趣ナルカ右事
実トセハ山東派遣軍ヲシテ濟南方面へ進出セシメラルルハ
頗ル困難ニシテ寧ロ不可能ト思料セラルル処仮リニ何等カ
ノ方法ニ依リ之ヲ強行シ得タリトスルモ万一濟南地方ニ於
テ日支人間ニ事端ヲ醸シ或ハ敗兵乃至南軍ノ大集団ノ暴行
アリタル際我兵力^(トク)充分ナラサル場合ニハ急遽之カ救援ヲ
ナス事又頗ル困難ニシテ在留民ト共ニ我カ軍ヲシテ孤立無
援ノ窮境ニ陥ラシムル恐レアリ又濟南發貴大臣宛電報第一
七三号ニ依レハ最近同地居留民中ノ一部有識者中ニハ濟南
出兵ヲ以テ却テ生命ノ危険ヲ増大スルモノナリトノ予感ヲ
有シ居ル者モ少カラサル趣ニテモアリ

今回⁽²⁾我カ山東出兵カ支那人間ニ極メテ不人氣ニシテ将来
兩國々交上大イニ考慮ヲ要ス可キ次第ナルニモ鑑ミ政府ニ

七 山東出兵問題

於テモ何等カ適當ノ機会ト口実ノ下ニ事態ノ転換ヲ希望セラルル事ト諒察セラルニ付テハ此ノ際津浦線ニ輸送上ノ困難發生セサル以前不取敢済南居留民全部ヲ当地迄引揚ケシメラルル方至当ナル可ク山東ニ派遣セラレタル我軍隊ハ自然其目的消滅スル次第ナルヲ以テ青島ノ防備ハ之ヲ海軍ニ一任シ原駐地ニ帰還セシムルカ或ハ当地ニ差向ケラルル方彼此勘考シテ最モ賢明ナル策ニシテ且之カ実行ニハ今日ヲ以テ最モ適當ノ機会ナラスヤト思料セラル何分ノ儀御考慮相煩ハシ度シ尚済南当地間ノ交通状態ハ目下ノ処稍々不規則ナレトモ常態ニシテ当地ニ於ケル避難民收容能力又充分ナリト信ス

北京、済南、青島、上海、奉天、芝罘へ転電セリ

578 昭和2年7月7日 在上海清水総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

蔣介石排日運動に関し日本の山東即時撤兵断行を要望について

上海 7月7日前発
本省 7月7日後着

第九三五号

如キ人道ニモ反スヘシトテ上杉カ敵將武田ニ塩ヲ供給シタル史実ヲモ引用シ此際国民軍ノ名譽ノ為又両国親善ノ為速ニ上海及各地排日行動ノ徹底的取締方切実考慮サレタシト警告シタル処蔣ハ相当考慮スヘキモ何ヨリモ速時撤兵断行方日本政府ニ要望ストノ旨繰返シ述ヘタリ
尚右会見ニ立合ヒタル黄郛ノ態度モ例ニ無ク落着カス済南進兵ハ何トシテモ困ツタ事ナリト嘆息シ居リタリ
在支公使、青島、済南へ転電シ漢口、奉天、福州、広東、天津へ郵送セリ

579 昭和2年7月(8)日 在済南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

郷田司令官以下千六百名の済南到着について

済南 発
本省 7月8日後着

第一九四号

派遣軍最終列車ハ濰県方面ニ集中スル山東軍輸送列車ト行違ノ為着済時刻遅延ノ処本八日午前九時四十五分無事到着セリ猶途中坊子ニ一個中隊張店ニ二個中隊ヲ残留シ当地ニハ郷田司令官以下一千六百名駐屯スルコトナレリ

排日運動ニ関シ六日午後黄郛宅ニ於テ蔣介石ト会見シタル処蔣ハ始メヨリ興奮シタル態度ニテ「唯今落手ノ松井少將發袁良宛電報ニ依レハ済南進兵ニ決シタル由ナルカ最近予ハ何カト排日緩和ニ努メ居リ四日ノ中央執行委員会対日出兵宣言ノ如キモ其ノ内容不穩ノ点無カラシメタル次第ナル処日本カ右ノ如ク国民軍ノ熱望ヲ無視シテ撤兵セサルノミナス奥地ニ派兵セラルルハ意外ナリ南方各地排日運動ノ如キハ撤兵タニ実行セハ直ニ停止スヘキモノニ付日本政府ニ於テモ再考ノ上速時撤兵サレタシ」ト述ヘタルニ付本官ハ「出兵ハ邦人保護ノ為已ムヲ得サルニ出テタル処置ニテ寧ロ支那側ヨリ同情ヲ受クヘキ筋合ナルニ各地反対運動益々盛シナルハ不可解ナルカ当地ニ於テモ交渉員ヨリ遺憾ノ意ヲ表シ充分取締ルヘキ旨公式回答ヲモ寄越シ乍ラ取締振リ緩慢ニテ官民懲弁条例等現ハレタルハ心外ナリ」ト述ヘ排日ノ本家トモ言フヘキ米西西部地方ニ於テスラ排日ノ手段穩当ニシテ未タ曾テ当地ノ如ク排日ヲ強制シ經濟絶交ヲ強行スト言フ如キ蛮行無カリシ次第ヲ説示シ当地知識階級ノ人士集リテ官民懲弁条例ヲ作り日貨売買者乃至日本人ニ食糧品ヲ供給シタル者ハ二十日以下ノ拘禁ニ処ストシタル

北京、天津、青島、坊子、博山、張店、奉天、上海、漢口、広東、福州、芝罘へ転電セリ

580 昭和2年7月8日 田中外務大臣より
在青島矢田部総領事宛(電報)

済南進兵に伴う兵力補充について

本省 7月8日後発

第八六号
往電第八二号ニ関シ
(五七三文書)

済南進兵ニ伴フ当然ノ結果兵力補充ノ為(イ)満州ヨリ第十師団ノ残余及野砲兵二個中隊(約二千二百名)(ロ)内地ヨリ鐵道及通信兵(約百名)ヲ山東方面ニ派遣スルコトニ決定シ(イ)ノ部隊ハ十日大連発十一日貴地着(ロ)ノ部隊ハ十五日貴地着ノ予定ナリ

済南、坊子、張店、博山へ転電アリタシ

581 昭和2年7月13日 在済南藤田総領事より
田中外務大臣宛

膠済沿線の在留邦人保護に関し張宗昌に申入れについて

付属書一 六月十八日付在済南藤田総領事より張山東保

安総司令宛公信支第一一六号
孫軍北上に際し膠済沿線居住の邦人保護方に
ついて

二 六月二十九日付陳山東特派交渉員より在濟南
藤田総領事宛書簡
右に關し回答について

機密第二三六号
昭和二年七月十三日 (7月26日接受)
在濟南

総領事 藤田 栄介 (印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

居留民保護ニ関シ張宗昌ニ申入ノ件

貴電第二七号ニ関シテハ曩ニ張宗昌ニ面会ノ上御訓令ノ主
旨ヲ篤ト申入レ更ニ其後孫伝芳軍北上ニ際シ別紙写甲号ノ
通り六月十八日付公信ヲ以テ重ネテ照会シ置タル処六月二
十九日付ヲ以テ別紙写乙号ノ通り陳交渉員ヨリ回答シ来レ
リ

本信写送付先 在支公使 青島総領事

(付屬書一)

甲号写

支第一一六号

拝啓陳者在青島本國総領事及在坊子張店博山出張員等ヨリ
ノ來電ニ依レハ現ニ南方戦線ヨリ退却セル多数ノ軍隊膠済
鐵路沿線ニ向ケ北上シツツアリ該地方人心動揺シツツアル
趣ナル処膠州高密坊子濰縣青州張店淄川博山周村其他沿線
各地方ニハ本邦人ノ居住スルモノ不少候ニ就テハ該邦人生
命財産ノ保護ニ関シ予メ嚴重御処置ノ上ノ不祥事件ノ發生ヲ
未然ニ防止スル様御取計相煩度此段照會得貴意候 敬具

昭和二年六月十八日

在濟南

総領事 藤田 栄介

山東保安総司令 張宗昌殿

(付屬書二)

乙号写

敬啓者案奉

保安総司令部訓令内開拠駐濟日本総領事來函以由南方戦線
退回多数軍隊正向膠済鐵路沿線北上該路沿線各処駐有日本

人民不少為保護日本人民生命財産計請預為処置以防意外等
語業經函請安國軍孫副司令約束所部切実保護矣仰即轉知日
領等因奉此相応函達即希查照為荷順頌
時祉

六月二十九日

山東特派交渉員陳家麟

(右訳文)

拝啓陳者南方戦線退却軍隊ノ膠済鐵路沿線北上ニ際シ該路
沿線各地ニ多数居住スル日本人ノ生命財産保護方在濟南
総領事ヨリ申出アリ右ハ安國軍孫副司令ニ対シ所属部隊ニ
命シ切実保護スル様函請濟ナル旨日本総領事ニ轉達方今般
保安総司令部訓令ニ接シタルニ付右様御承知相成度此段申
進候 敬具

1582 昭和2年7月16日 在上海横竹商務書記官より
田中外務大臣宛(電報)

排日貨運動の現況について

上海 發
本省 6月16日後着

商第八二号

(一)排日貨運動ハ日ト共ニ深刻圧迫ノ手ハ交易所、船会社、砂
糖、綿布、海産物、金物、輸出雜穀等対日取引關係同業
団体ヨリ支那金融機關、邦人工場、邦人ト取引アル食料
雜貨店ニ波及シツツアリ紗布交易所ハ依然休業中、長江
及沿岸本邦汽船積止メ太古汽船罷業等ニテ怡和独リ舞
台、最近運賃三、四割方昂騰シ仏國郵船近ク海防上海間
沿岸航路ヲ開始ノ模様アリ支那側銀行及錢業公会ハ去ル
十三日ヨリ対邦人貸借兌換中止並日貨取引支那商ニ対シ
手形融通停止ヲ決議セリ其為邦人工場筋工賃銀貨支払需
要ニ難渋シツツアリ尤モ邦人銀行トシテハ直接差シタル
打撃ナキモ去ル十二日ヨリ國民政府ノ現銀輸出制限アリ
又八月一日ヨリ中央銀行開業サレ支那兌換券發行ノ噂モ
アリ自衛上近ク外國銀行ハ結束シテ支那錢莊發行莊票ノ
引入レ拒絶ヲナスニ至ルヤモ知レサル形勢ニテ金融界漸
ク動揺ノ兆アリ市場在銀トシテハ七、二〇〇万兩並七、
三〇〇万弗ト豊富ナルモ若シ莊票拒絶実行ヲ見ハ其融通
ヲ以テ生命トセル支那錢莊ハ自繩自縛ノ大苦境ニ陥リ惹
テ一般支那商ノ対外人取引混乱停頓ノ外ナカルヘク關係
邦商モ等シク警戒ヲ要ス

(二)市場本邦品在貨払底、直段昂騰ノ為支那商ノ現物販売ニ奇利ヲ博スル向モアリ旁々排貨團ノ監視圧迫、抑留、没収、徵奪等從テ益々辛辣ヲ加ヘ商内ハ長江奥地及北支那ノ局地ニ限ラレ本邦品ノ新規纏リタル商談皆無ニシテ砂糖ノ如キ受渡済約定品約四〇万俵ノ解約申出アリ若シ之ニ応スルトキハ關係邦商ノ損失ハ勿論他品亦之ニ倣ヒ悪例ヲノコス憂モアリ目下対策考究中

(三)目下夏枯閑散期ノ關係上排貨打撃ヲ感スルコト比較的輕微ナルカ如キモ今回ノ排貨風潮ハ從來ノソレト全ク趣ヲ異ニシ頗ル組織的ニ深刻化サレツツアルヲ以テ秋季需要期ノ切迫ト共ニ關係業者ノ苦痛益々加重セラレ他方不法付加税ノ増徴、時局不安ト相俟チ上海市場今後ノ成行益々悲觀ニ傾キツツアリ

583 昭和2年7月20日 在上海清水総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

排日運動緩和の形勢について

上海 7月20日後発
本省 7月20日後着

第九八一号

ノ要ナキカ大同盟等カ極端ナル行動ヲ実行スルニ於テハ之ヲ取締ルハ勿論ナリ云々」
北京、漢口、天津、青島、濟南、広東へ転電シ奉天、福州、汕頭、厦門、長沙、九江へ暗送セリ

584 昭和2年7月23日 在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東出兵問題に関する伍外交部長との会談について

上海 発
本省 7月23日前着

第九九〇号

(1)二十日日本官着任スルヤ否ヤ伍外交部長ニ対シ郭交渉員モ列席ノ上会见シタシト申入レ二十一日午後会合ス先ツ本官ヨリ東方会議ノ趣旨其結果並新内閣ノ方針政策ニ付略述シテ排日取締不法課税等ニ付南京政府ノ反省ヲ促シタル後本官出発前閣下ヨリ親シク御内訓ヲ得居ル南京政府カ暫ク兵ヲ徐州ニ止メテ内政ノ整理実力ノ充実ニ力ヲ専ラニスルコト将来ノ大ヲ為ス上ニ於テ必要ナルヘキ旨ヲ述ヘタルニ伍曰ク南京政府ハ目下山東省内ニ兵ヲ進メントスルノ意図ナク

当地排日運動ハ往電第九六三号ノ通り十四、五日頃ニハ絶頂ニ達セル姿ナリシカ往電第九七六号ノ通り南京政府ノ当地排外運動取締通令発表セラレタル昨十九日朝ヨリ排日形勢頓ニ緩和サレ支那商人ノ邦人会社商店ニ顔出シシテ先物商談ヲ試ルモノモ弗々現レ為ニ材料安ニモ拘ラス日本綿糸樂觀見越シニテ数両方暴騰シ支那綿糸逆ニ暴落セル事実モアリテ此処邦人側愁眉ヲ開ケル姿(十九日当地日本人商業會議所カ強硬ナル決議ヲ日本政府ニ打電シ之ヲ当地ニテ内外新聞ニ発表シタルハ支那側ニ対スル宣伝ノ意味ヲ多分ニ含ミ居ル次第ナリ)トナレリ尤モ今回ノ排外運動ハ大規模ニ行ハレ居ル丈ケ此儘直ニ終熄スヘシトハ考ヘラレス十九日黄郛カ本官ニ内話セル処モ左記ノ如クニシテ前途猶十分警戒ヲ要スルハ勿論ト存ス

「排日緩和ノ件ニ関シ余ノ主催ニテ昨十八日蔣介石ノ代表ノ外交渉員、警備司令、市党部、工党部委員其他重要機關ノ各代表ノ秘密會議ヲ開キ結果相当ノ成案ヲモ得タルニ付当地排日運動ハ一日ト緩和スヘシ尤モ種々ノ事情モアリテ經濟絶交大同盟ヲ解散スルコトハ困難ニシテ官民懲弁条令ニ至リテハ始めヨリ効力ナキモノニ付改メテ取消ス

事実上閣下御忠告ノ通実行シツツアルモ唯徐州ヨリ兵ヲ進メスト此際外部ニ声明スルコトハ困難ナリ右ハ即チ北伐中止ノ声明ニシテ部下ノ志氣ニモ關係シ到底出来難キモ若シ日本政府ニ於テ山東撤兵ヲ約サルナラハ声明其他ノ方法ヲ以テ外人ノ保護ニ関スル保障ヲ与フルコトハ実行シ得ヘシト述ヘタルニ付本官ハ山東撤兵ハ断シテ交換問題ニ非ス右貴方ノ声明乃至南京事件ノ解決排貨運動ノ廃止ノ如キヲ自發的ニナサハ南京政府ノ内外ニ対スル信用ヲ厚クシ人心ヲ安定セシムル上ニ多大ノ効果アルハ疑ナク其結果自然我ニ在留民ノ不安モ軽減セラレ延テハ我派遣軍モ其必要ヲ認めサルコトトナリ撤退スルニ至ル次第ナリト述ヘタルニ

(2)伍ハ然ラハ南京政府ノ名ニ於テ「南京事件ハ全ク共產党ノ仕業ナル処南京政府ハ共產党ヲ徹底的ニ驅逐シタルハ目下其軍隊内ニハ一人ノ黨員ナシ從テ将来兵ヲ北方ニ進ムル場合ニ外国人ノ生命財産ニ対スル危険ヲ感スルハ理由ナキモ外国人ノ不安ヲ除去スル為此際殊ニ嚴命ヲ下シ外人ノ保護ニ任セン云々」ト声明スル程度ノ保障ナラハ何時ニテモ喜ンテ之ヲ為スヘシト明言セリ次テ伍ハ南京政府トシテハ決シテ排日運動ヲ煽動シタル覺ナキノミナラス極力鎮圧シタ

村亜細亜局長宛私信
現地視察報告

濟南 8月3日 發
本省 8月3日 前着

第二二〇号(極秘)

政府ニ於テハ現在南北妥協ノ機運ノ動キツツアル機會ニ於テ右妥協ヲ促進セシムルト同時ニ山東撤兵ノ時期ニ關シ御考慮中ナル趣過日來濟ノ谷書記官ヨリ委細了承シタルニ付テハ御参考迄ニ左ニ卑見ヲ申進ス

今回ノ出兵ハ先ニ御訓令ヲ奉シタル通り在留民ノ生命財産ヲ現地ニ於テ保護スルノ目的ニ出テ既ニ出兵実行セラレタル以上当地在留民ハ之ニ全ク生命財産ノ保護ヲ依頼シツツアル次第ナルニ付テハ是等在留民ヲシテ安心シ且ツ政府ノ方針ヲ一貫セシムル為ニハ政府当初ノ声明通り全ク時局安定シ在留邦人生命財産ノ危険無キニ至リテ始メテ撤兵スルヲ可ト認メラレ之カ為ニハ

一、張作霖ト蔣介石トノ妥協ハ果シテ徹底的ノモノナリヤ否ヤ詳細検討スルヲ要シ而シテ張作霖、張宗昌等北方軍閥ト蔣介石トノ間ニハ其主義思想ニ於テ到底一致セサルモノアリ且大勢ハ北方軍閥ニ不利ニシテ其倒壞ハ自余ノ

ルハ貴方官民ノ能ク熟知セラルル処ナリト述ヘタルニ付本官ハ排日運動カ政府ノ煽動ナリヤ否ヤハ今日重要問題ニ非ス要ハ若シ時局安定シ帝國政府ニ於テ山東省内在留民ノ危険除去サレタリト認メ撤兵シタリトセンカ排日運動ハ直ニ終熄スルヤ否ヤニアリト述ヘタルニ兩人口ヲ揃ヘテ右ハ即日終熄スヘシト意気込テ確言セリ次テ黃郛ト會合シ右同様ノ趣旨ニテ懇談シタルカ黃郛ハ山東出兵ニ關シ種々愚痴ヲ零シタル後排日運動取締ニ對スル苦心談ヲ為シ袁良等カ我陸軍側ノ勸メニ副フテ派遣シタルモノナルニ拘ラス却テ自分等ヲシテ極メテウクワードノ地位ニ立タシメタリト恨事ヲ放チ此上ハ何トカシテ拘禁サレタル牟鈞德ノ釈放方御尽力ヲ仰クト切願セリ

漢口、在支公使、奉天、濟南へ転電セリ

585 昭和2年8月(3)日 在濟南藤田總領事より
田中外交大臣宛(電報)

山東撤兵の時期に関する意見具申について

付記一 七月二十四日付谷書記官(青島滞在)より木

村亜細亜局長宛私信

現地視察報告

二 七月三十一日付谷書記官(濟南滞任)より木

問題ニ過キスト一般ニ認メラレ居リ從テ北方軍閥ノ居城タル山東ニハ何レハ南方ノ勢力侵來スヘキモノナルコトヲ予メ考慮スル必要アリ更ニ

二、現在山東ハ張宗昌、孫伝芳ノ二大勢力アリ而シテ財政上ヨリ見テ山東省ハ到底永ク此ニ勢力ヲ養フコト能ハス此儘ニ推移セハ将来何等カノ機會ニ或ハ兩軍ノ衝突起ル惧アリ從テ孫伝芳ニシテ他ニ適當ナル地盤ヲ得テ山東ヲ去ラサル限リ山東省ニ於ケル政局ハ決シテ安定ト稱シ得サル事ヲ考慮シ置カサルヘカラス山東省ノ地位ト形勢トハ前述ノ通ニシテ政局依然安定ヲ欠キ禍根未タ去ラサルニ就テハ撤兵執行ノ時期ニ關シテハ慎重考慮ヲ要スルコト勿論ナリ而シテ万々一政府ニシテ政策上将来ノ方針ヲ根本的ニ變更セラルル御意向ナラハ撤兵ノ時機ハ敢テ問フ処ニ非スナルヘク早キヲ必要トスヘク唯表面ヲ糊塗スル意味ニ於テ何等カノ機會ヲ捕ヘ撤兵スルモ不可ナカルヘシ但シ其場合ニハ当地在留民ニ對シ将来其生命財産危険ニ瀕スル場合已ムヲ得ス青島又ハ天津ニ引揚ケルヨリ外ナキ旨ヲ篤ト説明納得セシムル用意アルヲ要ス若シ然ラスシテ政府ハ飽ク迄モ山東出兵当初ノ声明通時局安

定ヲ待チ撤兵ヲ実行セラレントスル御意向ナリトセハ撤兵後間モナク危険状態トナリ再ヒ出兵ヲ必要トスルノ醜状ヲ見サル様其時機ハ慎重考慮スルヲ要ス而シテ撤兵ノ際政府ハ山東方面再ヒ危険ト認メラルル場合ニハ何時ニテモ出兵保護スルノ意ヲ声明シ置クヲ必要ト認メラル右予メ御考量置相成度尚政府撤兵ノ御方針ニ善処スヘク何等心得置クヘキコトモアラハ御訓示ヲ得タシ
前電通転電ス

(付記一)

(私信)(極秘)

七月二十四日

青島ニテ

谷 正之

木村局長閣下

謹啓仕候出発ノ際ハ種々特別ナル御配慮ヲ辱フシ御懇情奉深謝候却説去ル十九日青島到着以來当地及四方滄口ニ於ケル陸兵配置ノ見学(配置図ハ總領事館ヨリ報告済)商業會議所、民団、紡績等ノ代表者其ノ他在留民有志者トノ応接

ニ忙殺サレ一週間ヲ夢ノ間ニ過シ明二十五日当地出發張店
(二十五日一泊)淄川(二十六日一泊)博山ヲ經テ二十七
日濟南着ノ予定ニ有之候(荒木少將ハ二十三日林大佐ハ二
十四日夫々当地ヲ出發致候)仍テ左ニ不取敢当方面ニ於テ
得タル印象ヲ報告申上候

一、出兵ノ居留民ニ對スル影響

当方面ノ関スル限リ当初ヨリ特ニ出兵ノ必要ヲ痛感シ居ラ
ス從テ政府從來ノ政策ニ顧ミ出兵ヲ予期シ居ラサリシコト
当地方有力者階級ノ偽ラサル告白ニ有之候然ルニ今回政府
ニ於テ極メテ簡單ニ派兵ヲ決定断行セラレタルヲ見テ当方
面居留民トシテハ茲ニ国策一變ヲ想像シ從テ總領事館並小
生等ニ對シテモ或ハ永久駐兵ヲ希望シ或ハ此ノ際兵ノ威力
ニ依リ青島還付以前ノ状態ニ復帰セムコトヲ求メ或ハ少ク
トモ鉄道並埠頭問題其ノ他ノ懸案殊ニ不当課税問題ヲ解決
スヘシト唱フルモノ少カラサル次第ニ有之候之等ニ對シテ
ハ適宜總領事館側ヨリ今回ノ派兵ノ目的ヲ説明シ此ノ際火
事泥ノ措置ニ出ツルコトノ大局上好マシカラサル所以ヲ懇
諭シ居リ小生モ亦總領事館側ノ努力ニ呼応スルノ趣旨ニテ
可然応酬シ置キタル次第ニ有之候只如何ニセン出兵ノ結果

有之候

三、撤兵問題

陳軍失敗ノ結果当方面ノ事態ハ安靜ニ帰シ今後俄カニ同様
ノ危険發生スヘシトモ想像セラレサルヲ以テ当地ノ関スル
限リハ何時ニテモ撤兵可ナリト被存候へ共青島撤兵問題ヲ
濟南撤兵ト獨立ニ考フルヲ得サルハ勿論ノ義ニ有之候而シ
テ濟南ニ於ケル情勢(例ハ張孫ノ關係)乃至南北妥協問題
ノ推移ヲ見ルニ今日直ニ濟南撤兵ヲ断行シ難キ事情モ想像
スルニ難カラス從テ青島撤兵モ亦容易ニ実行スルヲ得サル
モノト被存候へ共(青島減兵問題ニ関シ考量シ得サルコト
モ無之候へ共此ノ際斯ル姑息ノ手段ニ出ツルノ可否ニ付テ
ハ慎重考量ノ要アリト存候)翻テ考フルニ支那ノ戦局ハ今
ヤ一般ニ疲勞停頓ノ時期ニ入り差当リ何レノ方面ニ於テモ
大軍ノ衝突困難ナルカ如ク殊ニ北方ニ於テハ云ハハ小康ノ
時期ニ入りタルモノト想像セラレサルニアラス候ニ付今後
戦局ノ推移如何ニ依リテハ仮ニ南北妥協成ラストスルモ相
當時局ノ安定ヲ來シ從テ撤兵ノ機会ヲ得ルニ至ルコトアル
ヘキヤニ被存候此ノ点ニ関シテハ濟南到着後藤田總領事ト
モ熟議ノ上更ニ適宜報告可申上候

一般殊ニ邦人下層階級ノ人氣驕リ此ノ機会ニ支那人ヲ威圧
シ置クヘシト云フカ如キ短見ヨリ無用ニ争端ヲ繁クスルノ
傾向有之候二十日車夫水兵衝突ノ際居留民ノ野次介入シテ
事件ヲ拡大セルカ如キ實ニ此ノ辺ノ消息ヲ物語ルモノニ有
之候此ノ氣分ヲ以テ進マハ支那人側ノ報復心ヲ挑発シ撤兵
ノ曉ニ於ケル邦人ノ地位ヲ從前ヨリモ不安ニ陥ルルノ虞ア
ルコト想像ニ余リ在リ候而モ多數ノ居留民ノ事トテ此ノ間
ニ処スル總領事ノ苦心モ容易ナラサルヤニ被存候

二、出兵ノ山東政局ニ對スル影響

出兵ノ山東政局ニ對スル影響ハ内地ニ於テ想像以上ナルヲ
覺エ候当地ニ於テハ陳以榮ノ寢返リ見事ニ失敗シ青島ニ於
ケル政權ノ現状ヲ維持スルヲ得タルハ全ク我陸軍派駐ノ賜
ナリトシ今回ノ進兵ヲ以テ郭松齡事件ノ際ニ於ケル出兵ト
同様山東ノ政局ヲ北方ノ有利ニ左右シタルモノト考ニ一
致致居候此ノ辺ノ關係ハ濟南到着ノ上ハ更ニ鮮明ナルモノ
有之可候何レニシテモ張宗昌等ニ於テ我出兵ヲ德トシ居ル
コト著シキモノアルカ如ク当地邦人有識者中我方ニ於テ南
北妥協セハ撤兵スヘシト云フカ如キハ張ヲシテ却テ妥協ヲ
延期セシムル原因トナルコトアルヘシトサヘ極言スルモノ

四、軍ノ動靜

總領事館側ノ説明並本官親シク見学ノ結果ニ徴スルニ今日
ニ至ル迄軍ノ行動上非難スヘキハ既ニ矢田部總領事ヨリ報
告濟ナル坊子、滄口停車場監視兵派遣問題並袁良、牟鈞德
呼寄問題ノミニテ其ノ他ハ軍ノ規律ト云ヒ食料及宿舍ノ供
給狀況ト云ヒ何等非難ノ余地ナキヤニ被存候モ尚總領事ニ
於テハ此ノ上共軍ノ行動ニ関シ注意ヲ怠ラサル筈ニ候処幸
ニモ長谷川師團長ハ軍規ノ保持ニ熱心ナル外特ニ軍ノ國際
關係ニ留意シ居ル趣ニテ袁良呼寄事件ノ如キ同將軍ニ於テ
ハ大ニ憤慨シ居ルヤニ聞及ヒ候兎ニ角前記停車場派兵問題
ト云ヒ袁良問題ト云ヒ郷田旅團板垣參謀ノ所業ノ由ニ有之
其ノ他同旅團ハ青島ニ於ケル師團長直轄部隊ノ如ク軍規嚴
肅ナラサルヤニモ仄聞致候何レ現地到着ノ上他ノ問題ト共
ニ更ニ報告可申上候

匆々敬具

次官並閣下御心尽シノ菊正宗ハ青島ニ於テモ大ニ好評ヲ
博シ候今後鐵路沿道ニ於テモ嘸カシ喜ハルルコトト存候
次官閣下ニ宜敷御鳳声奉願候

(付記二)

(私信)

昭和二年七月三十一日

濟南ニテ

谷 正之

木村局長閣下

謹啓仕候其ノ後山東ノ炎熱ト戦ヒ各地居留民代表ノ襲撃ニ
応酬シツツ分館主任者等ト共ニ沿線各地派兵ノ状況ヲ視察
シ二十七日予定ノ通り濟南着当地居留民ノ態度、軍ノ状況
等一通リ見学ヲ終ヘ明日天津ニ向フコトト相成候就テハ
青島到着以來今日ニ至ル迄出兵問題ニ関連シ現地ニ於テ種
々見聞シ得タル結果ヲ綜合シ不取敢左ニ報告申上置候

一、軍ノ状況

沿線ニ於ケル軍ノ配置状況ハ別紙(省略)ノ通ニ有之各地ニ於ケル
兵数ノ詳細等ハ既ニ軍部ヨリ通報済ト想像致候ニ付茲ニハ
之ヲ省略致候只軍ノ生活状況並行動ニ関シ前信補遺旁々一
言申添候半ニ流石ハ山東ニテ各地共兵ノ宿舍等ハ小学校其
ノ他我官民ノ建物ニ属シ何等支那側ヲ煩シ居ラサルハ一種
ノ誇ヲ覺エ申候宿舍内部ノ設備モ淄川ヲ沿線第一トシ(魯
大ノ尽力)其ノ他ノ地方モ相当行届キ居ルヤニ認メラレ候

七 山東出兵問題

ノ一事ハ軍ノ命脈ニ関スルモノニ候ヘハ絶対必要ノ範圍ニ
於テハ自主的地位ヲ有スルノ必要有之可申從テ此ノ程度ニ
於テハ支那側ノ抗議ヲ排スルモ止ムヲ得サル義ト被存候只
必要ノ限度ニ至リテハ領事官側ニ於テモ特ニ注意ヲ要スル
旨沿線領事官ニ傳達致置候
要スルニ右一二ノ失敗及止ムヲ得サル事項ヲ除ケハ派遣軍
全部ヲ通シ目下ノ処其ノ行動上非難スヘキ点ヲ認メス殊ニ
其ノ士氣ノ旺盛ナル規律ノ嚴肅ナル支那側住民又ハ軍トノ
間ニ未タ何等ノ問題ヲ起スニ至ラサルハ邦家ノ為御同慶ノ
至ニ存候只駐兵永キニ互ル場合果シテ今日ノ志氣及自重の
態度ヲ維持シ得ヘキヤ否ヤ殊ニ各地方宿舍ノ大部分タル小
学校ノ開校モ今後一ヶ月ノ後ニ有之宿舍變更ノ結果ハ勢軍
ノ生活ハ更ニ窮屈トナルノ止ムヲ得サルモノ有之可申尤モ
一方秋冷ト共ニ漸次凌キ易クナル關係ハ想像サレ候ヘ其他
方今回ノ派遣軍ハ御承知ノ如ク滿州ニテ一時帰還見合セテ
命セラレタル氣ノ毒ナル師團ニ有之候彼此思ヒ合ハスルニ
今後駐兵永キニ互ルニ連レ宿舍問題内地兵トノ交代問題等
ヲ生スヘク其ノ他居留民中不謹慎ナル者ノ態度ト相俟チテ
支那側トノ間ニモ種々面白カラサル問題ヲ生スルコトナキ

ヘ共猶疊一枚(多クハ藁箆ノ上ニアンペラ敷)ニ二三人ヲ
收容シ居ル場所モ有之酷暑ノ初青島以外ノ地方ニ於テハ夜
間安眠シ得サル日モ多カルヘク食物モ見ルカラニ極メテ質
素ナルハ氣ノ毒ノ感ヲ催サシメ申候只師團長以下將校モ大
体下士卒ト寢食ヲ共ニシ居ル事ハ兵ノ士氣從テ軍規ノ維持
上大ナル好影響アルコトト被存候濟南ニ於テハ將校連ノ行
動ニ関シ兎角非難スヘキ理由アリヤニ聞及候処現場ニ來テ
見レハ右ハ要スルニ先着ノ旅団ニテ而モ奥地ニ進入シ居ル
關係上青島ノ部隊ニ比シヨリ多ク出征気分ニ富ミ居留民モ
亦其ノ積リニテ遇スルカ為ニアラサルカト思ハレ申候幸師
團長着青後藤田總領事ノ苦言モアリ現在私人ノ家ニ在ル將
校連モ合宿所ニ集合セシムル方針ヲ取り近ク實現ノ由ニ有
之候

軍若ハ軍ニ属スル者ノ行動上非難スヘキハ今日迄ノ所前信
申上候ニ停車場派兵問題並衰、牟問題ニ止リ居リ候ハ幸ニ
候殊ニ後者ノ如キ總領事館側ニテスゲナキ態度ヲ取りタル
為軍側失敗ノ跡益々明白トナリ頂門ノ一針ヲ受ケタル板垣
參謀ノ如キ近頃大分オトナシクナリタル由ニ有之候其ノ他
各地ニ於ケル軍用無線及電話架設問題有之候ヘ共通信機關

ヤ密カニ懸念サルル次第ニ有之候

二、各地居留民ノ態度

各地共必スシモ永久駐兵ヲ希望シ居ラス又其ノ可能ヲ信シ
居ル訳ニハ無之候ヘ共派兵ノ結果沿線居留民一般ニ何トナ
ク氣勢驕リ來レルノ風アルハ誠ニ止ムヲ得サル義ニ有之候
尤モ此ノ点青島以外ノ地方ニ於テハ同地ニ於ケルカ如ク甚
シカラサルハ不幸中ノ幸ニ有之候モ同時ニ濟南其ノ他ノ地
方ニ於テモ居留民中一種火事泥の言辭ヲ弄スルモノ尠カ
ラス甚タシキハ駐兵ヲ機會ニ漸次支那政局ヲ左右スヘシ等
ノ提議ヲ為スモノモ有之候之等ニ對シテハ小生ニ於テモ當
該地方領事官ノ努力ヲ側面ヨリ援助スル趣旨ニテ派兵ノ目
的使命ヲ説明スルト共ニ居留民ノ不謹慎ナル言動ノ為帝國
政府乃至軍ノ嚴正ナル立場ヲ傷ケルコトノ大局上極メテ好
マシカラサル所以ヲ説キ且今回出兵中ニ於ケル軍乃至居留
民ノ態度如何ニ依リテハ畜ニ此ノ上ノ駐兵ヲ不可能ニ導ク
ヘキノミナラス將來必要ノ場合ニ於ケル派兵ヲモ困難ナラ
シムルモノナルコトヲ可然說明致置候固ヨリ之等居留民カ
一二ノ説法ニ依リ其ノ言動ヲ一変ストモ予期シ得サル次第
ニ候ヘハ機會アル毎ニ繰リ返シ其ノ蒙ヲ啓クト同時ニ或場

合ニハ嚴肅ナル態度ヲ以テ彼等ニ臨ムノ要有之可申沿道領事官ニ於テモ此ノ趣旨ニテ此ノ上共居留民ノ指導ニ努ムル筈ニ候処此ノ点ニ関シ最面倒ナルハ青島居留民ナリヤニ認メラレ候

三、出兵ノ支那政局ニ及ホセル影響ト撤兵問題

濟南ニ來リ諸般ノ情報ヲ綜合致候ニ我出兵殊ニ濟南進兵ノ結果カ山東政局延テ支那南北ノ形勢ニ一大變化ヲ与ヘタルハ争フヘカラサル事実ナルヤニ被存候幸カ不幸カ我進兵ノ為南方勢力ノ山東侵入ハ茲ニ一頓挫ヲ来シ殊ニアワヨクバ山東ヲ横領セムトセル孫伝芳ノ野心ヲ阻止シ今ヤ形勢ノ變化ト機ヲ見ルニ敏ナル孫ヲシテ所謂南北妥協問題ニ耳ヲ傾ケシメス謂ハハ日本軍ト張宗昌トヲ踏ミ台ニシテ再ヒ江蘇方面ニ於ケル自己ノ地盤回復ニ狂奔セシムルニ到リ申候而シテ意氣地ナキ支那兵ノ事トテ日本兵後方ニ在リ否我軍中ニ在リトノ孫一流ノ喧伝カ如何ニ戦線ノ敵方ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキヤハ御想像ニ難カラサル所ニ有之候要スルニ我濟南進兵ノ結果ハ山東政局ノ動揺ヲ未然ニ防キ從テ其ノ意味ニ於テ我居留民ノ現場ニ於ケル保護上其ノ効果争フヘカラサルモノアリタルト同時ニ山東ノ既成政權ヲ既倒ニ

七 山東出兵問題

ノ形状ヲ呈シ殊ニ北方ニ於テ小康ヲ得ルノ徵アルニ於テハ撤兵ノ時期到レリト解スルヲ得ヘシト存候而シテ之ヲ現在ノ政局ニ徵スルニ東西南北共ニ禍機ヲ包蔵セサルニアラスト雖大体ニ於テ戰意活潑ナラス只孫伝芳カ大軍ヲ擁シテ相当ノ地盤ヲ有セサルコトカ目前ノ禍機殊ニ山東政局不安ノ重大原因ナリヤニ被存候ト同時ニ此ノ際孫ニ於テ無節制ナル欲望ニ駆ラレテ南京政府ノ立場ヲ顧ミサルニ至ルコトモ亦政局不安ノ因タルヘキコト勿論ニ候而シテ我軍ノ山東派駐ハ不幸ニシテ結果ヨリ見レハ北方殊ニ孫伝芳援助トナリ居ルコト否ム可カラサルモノ有之候ニ付テハ(1)南北ノ妥協成立スルカ(2)未タ妥協成立スルニ至ラストスルモ(イ)孫軍ノ南進優勢ヲ示スカ(ロ)同軍ノ南進停頓ノ状ヲ示サハ(蔣軍ノ方ハ大体守勢ヲ取ルモノト見テ差支無之カルヘキカ)機ヲ逸セス撤兵ヲ断行スルコト孫ノ無節制ヲ抑ヘテ南北ノ妥協ヲ促進スル所以ト存候要スルニ撤兵ヲ考量セラルヘキ時期ハ已ニ業ニ到來致居候ニ付テハ右決行ノ時機選定ノ為昨今妥協問題ノ推移殊ニ孫軍南進ノ形状ヲ注視セラルルコト刻下ノ急務ト存候而シテ申迄モナク撤兵断行ニ際シテハ一定ノ声明ヲ以テ將來万一ノ場合再出兵ノ云ヒ掛リヲ付ケ置カ

擁護シ現在ニ於テハ俊敏ナル孫伝芳ノ地盤獲得運動ニ利用セラレツツアルコトモ亦否ムヘカラサル事実ニ有之候莫慮山東ノ同一地盤ニ張孫主客兩軍引続キ駐屯スルコトモ亦同地方ノ安泰ヲ期スル所以ニ無之孫ニ一定ノ地盤ヲ獲得セシムルハ即チ山東政局ノ安定ヲ増ス所以ナルヲ思ヘハ我駐兵カ右ノ如ク孫ニ利用サルルモ或程度迄止ムヲ得サル次第ナリト被存候只此ノ際若シ孫ニシテ自ラ揚言スルカ如ク進ンテ南京上海ヲモ攻略セムトセハ蔣一派ニ於テモ力アル限リ之ト抗争スヘク從テ南北妥協ノ如キ問題トナラサルニ到ルヘキノミナラス却テ南京派ト武漢派トノ妥協ヲ促進シ其ノ結果更ニ南方勢力ノ甦生ヲ促スヘキヤ想像ニ難カラス候我進兵ノ影響如此複雑機微ナルヲ思ヘハ之カ撤退ニ付テモ種々考慮ヲ要スヘシト存候

申迄モナク現在ノ支那ニ政局ノ徹底的安定ヲ求ムルハ不可能ヲ期スルニ等シカルヘク從テ曩ニ声明書末段ニ所謂「濟南地方ノ邦人ニシテ戦亂ノ患ヲ受クルノ虞ナキニ至ラハ」云々モ固ヨリ相對的ノ趣旨ニ解スルヲ至當ト存候即チ南北ノ妥協成リテ孫伝芳モ相当ノ地盤ヲ得ルニ至ルカ又ハ妥協成ラストモ各地方ニ於ケル政權ノ分野略定マリ事実上停戰

ルルコト撤兵ニ際シ出先領事官ノ居留民ニ対スル立場ヲ容易ニシ且間接ニ支那側今後ノ輕拳ヲ戒ムル所以ト存候

匆々敬具

次官閣下ニ宜敷御鳳声奉願候本信御手許到達ノ迅速ヲ期
天津ヨリ投函仕候

(欄外記入) 二十日大臣へ報告スミ

586 昭和2年8月3日 在博山佐々木(高義)書記生より
田中外務大臣宛

淄川、博山より青島方面への避難邦人婦女子

帰還について

付屬書

八月三日付在博山佐々木書記生より在濟南藤田

総領事宛公第八〇号

避難邦人婦女子の帰還について

公第一八九号

昭和二年八月三日

(8月12日接受)

在博山

外務書記生 佐々木 高義(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

公信写送付ノ件

昭和二年八月三日付公領第八〇号
濟南総領事宛拙信写送付ス

件名

一、避難邦人婦女子帰還ニ関スル件

(付屬書)

公第八〇号

昭和二年八月三日

在博山

外務書記生 佐々木 高義

在濟南

総領事 藤田 栄介殿

避難邦人婦女子帰還ニ関スル件

当管内在留邦人婦女子ノ任意青島方面避難ノ件ニ関シテハ
既ニ報告申進置キタルトコロ近来時局稍平穩ニ復シタル為
避難者中淄川炭鉱九十六名博山十五名ハ本月一日ソレソレ
帰還シ其他モ不遠帰還スヘキ模様ナリ
右不取敢報告ス

本信写送付先 外務大臣 在支公使 青島総領事

587 昭和2年8月(4)日

在天津加藤総領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東撤兵問題に対する谷書記官の意見申進に

ついて

天津 発

本省 8月4日後着

第一一三号

亜細亜局長へ谷ヨリ

撤兵問題ニ関シテハ其後引続キ御考量中ノコトト存スルニ
付御参考迄ニ不取敢卑見申進ス

(欄外記入)

現在ノ支那ニ於テ政情ノ徹底的安定ヲ求ムルハ難キヲ期ス
ルモノナルヘク且ハ出兵声明書末段撤兵前提モ爾ク嚴重ナ
ル御趣旨ニアラスト解スル処之ヲ現在ノ政局ニ徴スルニ各
方面共ニ大体ニ停戦期ニ入り妥協気分濃厚ナルヤニ認メラ
ル唯孫伝芳カ大兵ヲ擁シテ相当ノ地盤ヲ有セサルハ目前ノ
禍機殊ニ山東不安ノ原因タルヤニ想像セラルルモ此際孫ニ
於テ地盤回復ニ狂奔スル余リ南京政府ノ立場ヲ默視スルカ
如キ態度ニ出テンカ如何ニ守勢消極ニ立ツヘキ境遇ニアル
南京派ト雖モ百方彼ト抗争スルニ至ルヘク其ノ結果独リ南

編注 本書は五八五文書付記二末段と同趣旨なるも重要電報

につき再録す

588 昭和2年8月4日

在広東森田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

李済深広東省政府委員会主席より南京政府に

対し日貨排斥中止方電請について

広東 8月4日後発

本省 8月5日後着

第二一四号

往電第二〇六号ニ関シ

(一)其後地方ニ於ケル日貨検査隊ハ殆ント廃止セラレ当市ニ
於テモ数日来全ク活動停止ノ状態ニシテ昨今日本商扱ヒ
ノ貨物ハ通過証無クモ荷揚ケセラルルモノアリ又支那商
扱ヒノ日貨ト雖モ通過証ノ発行至極頻繁トナリ日貨排斥
モ愈々終末期ニ近ツケル感アル処四日李済深ハ館員ニ対
シ当地ニ於テハ最早日貨排斥ノ必要ヲ認メサルヲ以テ昨
三日南京政府ニ対シ其ノ中止方電請シ置キタルニ付右許
可アリ次第関係団体ニ対シ山東出兵反抗委員会及対日経
済絶交委員会ノ解散方勧告(一般的命令ヲ出ス訳ニ行カ

七 山東出兵問題

方ノ政情ノミナラス北方政局ニ対シテモ更ニ意外ノ変化ヲ
醸スコトナキヲ保セス從テ孫ノ無節制ナル南進ハ出来得ル
限リ之ヲ牽制スル要アルヤニ認メラルル処我軍ノ山東派駐
ハ結果ヨリ見レハ北方援助殊ニ機ヲ見ルニ敏ナル孫ノ南下
運動ニ利用セラレ居ルコト否ムヘカラス故ニ我カ撤兵時機
ノ選定ニ付テハ此辺ノ消息ヲモ考量ニ加ヘ孫ニ相当ノ地位
ヲ与フルカ如キ南北ノ妥協成立ノ場合ハ勿論カカル妥協容
易ニ成立セストスルモ(イ)孫軍ノ南進優勢ヲ示スカ(ロ)同軍ノ
南進停頓ノ状ヲ示スニ於テハ機ヲ逸セス撤兵ヲ断行セラル
ルコト孫ノ野望ヲ抑制シテ南北ノ妥協ヲ促進スル上ニモ効
果アリヤニ思考セラル元来山東居留民ニ対スル危険切迫シ
タルカ為緊急自衛ノ道トシテ出兵セラレタルモノナルヲ以
テ右ノ如クニシテ山東方面ノ危険遠サカル場合撤兵セラ
ルハ当然ノ措置ナルヘク尤モ撤兵ニ際シテハ適宜声明等ニ
依リ将来更ニ緊急必要ノ事態起ル場合ニハ再ヒ出兵スルコ
トアルヘキ旨ヲ留保シ置カルル事出先領事官ノ居留民ニ対
スル立場ヲ容易ナラシムルノミナラス間接ニ支那軍閥ノ輕
挙ヲ戒シムル所以ナリヤニ思考ス

(欄外記入) 撤兵問題ニ対スル谷書記官意見

サレ共)ヲ試ミル心算ナリ云々ト語レリ

(二)右ハ北方ノ政局ノ推移ニ促サレタルト他方過般来本官及在留邦人商社關係支那側總商會側(從來日貨ハ当地市場商品ノ約六七割ヲ占メ居レルヲ以テ日貨杜絶ノ結果最近支那側大小商人及關係銀行業者ノ苦痛漸ク顯著トナレリ)ニ於テ表裏両方面ヨリ政府側ニ對シ種々運動シタル結果ニ基クモノト思ハル

(三)尤モ過般開平炭坑ヨリ当地兵工廠ニ對シ石炭売込ミニ際シ五萬元ノ排日運動資金ヲ提供シタル旨伝ヘラレ(外交部員玉ノ談)日貨ヲ買溜タル一部支那商人ノ反對運動モアリ日貨排斥ハ本月末頃迄ハ現状ノ儘有耶無耶ノ中ニ繼續スルモノト觀察セラル

在支公使、上海、台灣總督へ転電シ漢口、香港、汕頭へ暗送セリ

589 昭和2年8月5日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東撤兵の時期遅延等に関する伍外交部長の抗議について

上海

発

在支公使、天津、青島、濟南、奉天、漢口、広東へ転電セリ

590 昭和2年8月11日

在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東撤兵条件に関する蒋介石ほかとの南京における会谈について

上海

発

本省 8月11日後着

第一〇六七号(極秘)

芳沢公使ヨリ

(欄外記入)

本使今回南京訪問ニ付テハ南京政府ニ於テモ外国公使最初ノ訪問ナルト特ニ日本トノ關係ヲ改善シ度キ希望トノ二者ヨリ往復及ヒ滞在中非常ニ歓待ニ努メ蔣總司令ハ最初前線ニアリタルカ故本使ハ会见ヲ予期セサリシ処特ニ前線ヨリ歸リテ本使ニ歓迎ノ電信ヲ送り越シタル程ニテ南京滞在中蔣介石、胡漢民、伍朝樞、黃郛等トハ數回夫々会谈シタルカ山東ハ目下南京側ノ管下ニ非サルニ拘ハラス山東出兵反對ノ氣勢比較的強ク蔣介石ノ如キモ南京事件及ヒ山東出兵解決ノ必要ヲ説キ居タルカ右ハ国民党ノ立場ニ顧ミ内部ニ

本省 8月5日後着

第一〇四三号

四日伍外交部長ト会见ノ際伍ハ山東撤兵ノ時期ニ付テ質問シ南京政府カ貴方ノ要求ヲ容レ極力排日運動ヲ彈止シテ其權力下ニ於ケル成績ハ御覽ノ通ナルカ右ハ固ヨリ貴国政府ニ於テ南京政府ノ誠意ヲ認メラレ近ク撤兵ヲ断行スルモノト以心伝心ニ信シ居リタル結果ナリ然ルニ新聞電報ハ却テ当分駐兵スルカ如キ日本政府ノ意向ヲ伝ヘ居ルノミナラス最近入手セル山東軍中某要人ノ通信ニ依レハ日本軍ハ初メ二千ト称シタルモ目下一万ノ多數ニ上レリ兵ハ支那服ヲ纏ヒ居リ別ニ青島入港ノ日本汽船ハ每船平服ノ軍人ヲ満載シツツアル旨ヲ報セリト述ヘタルニ付斯ル「ノンセンス」ハ茲ニ「メンション」セラレサル方宜シカラン本官何等「コメント」スルコトヲ差控フヘシト述ヘタルニ併シ姓名ハ申サレサルモ現ニ要職ニアル人物ヨリノ私信ナリト言ヘルニ付若シ万一何等根拠トナルヘキ事実アラハ本官ハ何百万円ニテモ「ボナス」ニ躊躇セサルヘシト一笑ニ付シ置キタリ若シ右通信實在ストセハ山東軍側カスル苦肉ノ宣伝ヲナシ居ル証左ト存セラル

於ケル議論ニモ依ルコトト認メラルル次第ナルカ要スルニ南京政府当局者カ右二件ヲ以テ日支国交障害物ト見做シ居ルモノノ如ク旁伍外交総長九日本使來訪ノ節右二件ノ内南京事件ニ付テハ支那側ノ対案ハ我方ニ於テモ目下考慮中ナルカ南京政府ニ於テ今一層讓歩スルヲ要スト説キタル処伍ハ種々理屈ヲ並ヘ居タルモ關係国ノ出様如何ニ依リテハ尚多少ノ讓歩ヲ為スモノト觀取シタリ山東出兵ニ付テハ本使ハ我方カ山東ニ出兵シタルハ一ニ南京事件ニ婦因スルカ故ニ南京政府ハ該事件解決ノ誠意ヲ示スコトヲ要ス即チ南京政府ニシテ南京事件ヲ速ニ解決スヘキ旨並ニ山東省ニ於ケル日本人ノ生命財産ノ安固ヲ保証スル旨ノ公文又ハ覺書ヲ矢田總領事ニ送付スルコトヲ承諾スルニ於テハ我方ニ於テハ更ニ北京政府ヨリモ同様ノ書面ヲ取付クル事トシ南北双方ヨリ取付ケラ了シタル上直ニ撤兵ヲ断行スヘシト告ケタルニ伍ハ大ニ耳ヲ傾ケ考量ニ価スト述ヘタルカ九日夜ノ宴會ニ於テ付加税問題及ヒ南京事件ニ付テハ日本側ノ回答乃至申出ヲ待ツ事トシ山東撤兵問題ニ付テハ自分ヨリ近日矢田總領事ニ本使トノ会谈ニ顧ミ何分ノ儀申入ルル事トスル旨述ヘタルニ付本使ハ承知セル旨答ヘ置キタリ

北京へ転電セリ

(欄外記入) 芳沢公使南京側トノ交渉

591 昭和2年8月20日 在上海矢田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

在留邦人の生命財産の安全保障方に関する南
京政府の覚書提出について

別電 八月二十一日着在上海矢田総領事より田中外務
大臣宛第一一〇号
右覚書

上海 8月20日後発
本省 8月21日前着

第一一〇九号

本官発北京宛電報第八七二号

(欄外記入) 本官発外務大臣宛電第一〇六七号山東省ニ於ケル在留民
ノ生命財産ノ安全保障方ニ関シ二十日郭交渉員来館内容別

電第八七三号ノ通りノ覚書ヲ本官ニ交付シ公使ニ転報方申
出アリ覚書ノ内容形式多少不満足ノ嫌アルモ之ヲ受領シ差
支ヘナキヤ何分ノ御回訓ヲ請フ
大臣へ転電セリ

(欄外記入) 南京側保障取付方

(別電)

上海 発
本省 8月21日前着

第一一〇号

本官発北京宛電報第八七三号

(欄外記入) 日本政府ハ本年五月末山東ニ出兵セリ右ニ対シ中華民國国
民政府ハ累次嚴重抗議ヲ提出スル処アリタリ誠ニ此挙ハ一
面中国ノ領土主権ヲ損シ他面中日両国民ノ間漸ク諒解ス

ルニ至レル感情ニ於テモ亦絶大ノ妨害アラシメタルモノナ
リ日本政府ハ兩國ノ親善ニ顧ミ既ニ屢々山東派遣軍ヲ至急
撤退シ以テ親善ノ趣旨ニ副ハムトスル旨表示セリ

山東ニ於ケル日本居留民ノ生命財産ノ安全ニ至リテハ国民
政府ハ当ニ力ヲ尽シテ保護ノ任ヲ負フヘク茲ニ併セテ声明
ス(國民政府外交部長伍朝枢署名)
大臣へ転電セリ

(欄外記入) 南京側覚書案

592 昭和2年8月20日 在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東撤兵を考慮すべき時期と見られる旨の意
見具申について

濟南 8月20日後発
本省 8月21日後着

第二三三号

山東方面ノ政情ニ関シテハ屢次電報ノ通山東省内ハ一部地
方の土匪ノ騒乱アル外略安定シ又津浦線方面ニ於テハ孫伝
芳軍ハ既ニ浦口ヲ去ル三十支里ノ地点ニ達シ江北一帯ノ平
定ハ単ニ時日ノ問題ト一般ニ認メラレ且南京政府瓦解ノ状
態トナリタル今日孫軍ノ渡江ハ尚多少ノ困難アリトスルモ
南軍ノ再挙北伐ハ当分不可能ナルヘク又河南方面ニ対シテ
ハ直魯連軍ハ奉天軍ト策応シテ飽迄馮玉祥軍ヲ討伐セント
シ既ニ隴海線及濟寧方面ニ軍隊ヲ集中シツツアリ奉天軍ノ
京漢線方面進軍ト相俟ツテ早晚積極ノ二行動ヲ開始スヘキ
状態ナリ

現在山東ノ状勢ヨリ見テ山東ノ安定ヲ見ル為ニハ先ツ

一、南軍ノ北伐ヲ防止スルコト

二、孫伝芳ノ地位ヲ確定スルコト

三、馮玉祥軍ノ河南方面ヨリノ進出ヲ防止スルコト

ヲ必要トスルモノナルカ前述ノ通一、南軍ノ北伐ハ到底不
可能ノ状態ナリ二、孫軍ノ江北一帯領有ハ孫伝芳ノ地盤ト

シテハ不満足ナカラモ当分ノ安定ハ見ラルヘキヲ以テ今後
山東ノ安危ハ一三、馮玉祥軍ノ河南ヨリノ進出如何ニア
ルモノト認メラルル処現在馮玉祥ノ真意及同軍ノ実情ハ不
明ニシテ同方面ノ将来ハ尚予想シ難キ次第ナルモ山東軍ト
シテハ(イ)馮玉祥ハ純然タル共產派ニ属シ妥協ノ余地ナキコ
ト(ロ)政治的關係ヨリ寧ロ直隸ヲ奉天派ニ譲リテモ河南ヲ其
勢力範圍トスル必要アリ又積極的河南侵略ヲ策シツツアル
ヲ以テ何レ奉天派ノ態度決定シ閻錫山トノ諒解ヲ遂ケ次第
遠カラス何等カノ行動ヲ開始スルニ至ルヘシ

閣下發青島宛電報第六四号末段御訓令ニ関シ過日本官赴青
ノ砌長谷川司令官トモ協議シタル処司令官ハ軍事上ノ形勢
ヨリ見テ山東ノ安定カ否カハ判断シ得ヘキモ撤兵ノ時機決
定ハ政略ニ關係スル次第ナルヲ以テ意見ヲ述ヘ難シ但シ軍
事上ヨリ見テ山東安定ノ為ニハ本官同様現在ノ処更ニ河南
ノ形勢ヲ見ル事必要ナリトノ事ナリ又北京ヨリ來濟シタル
本庄中將モ同意見ナリ

現在蒋介石ノ失脚ニ依リ北伐軍ハ将来飯ニ旧蒋介石軍ト武

漢軍ト妥協スルトシテモ元ノ如キ北伐軍ヲ組織シテ捲土重来スル事ハ先ツ困難ナルヘク蔣失脚ノ今日閻錫山ト奉天派トノ關係ハ却テ有利ニ進捗スヘク從テ奉天山東兩軍ノ河南進撃ハ案外有利ニ進展スルモノトモ認メラルル現ニ張宗昌ハ張作霖ト協議ノ為本日東京スヘシトノ事ナレハ其結果何等カノ進展ヲ見ルヘク右河南方面ノ形勢定マルニ於テハ山東地方ハ先ツ当分安定ト認メラルル次第ナルヲ以テ政府当初ノ方針ニ基ケハ或ハ撤兵ヲ考慮スヘキ時期ニ達シタルモノニ非スヤト思惟セラルル河南方面ノ形勢ニ関シテハ追テ隨時電報スヘキモ右予メ往電第二二〇号ト共ニ御考慮置キ相煩度右御参考迄ニ愚見申進ス

北京、天津、奉天、青島、上海、漢口、広東ニ転電セリ

593 昭和2年8月23日 在中国芳沢公使より
田中 外務大臣宛(電報)

山東在留邦人の安全保障に関する国民政府覚書の取扱いについて

北京 8月23日後発
本省 8月23日後着

第九一五号(極秘)

儀ナキニ至ラシメルカ如キ事態ノ出現スルナカラムコトハ其衷心希望シテ熄マサル処ナル旨ヲ外交部宛送リ同日前記声明書ト共ニ発表三十一日ノ各新聞ニ掲載セラレタリ在支各総領事へ転電セリ

595 昭和2年8月31日 在青島矢田部総領事より
田中 外務大臣宛(電報)

張總弁および祝司令への撤兵通告について

青島 発
本省 8月31日後着

第二七〇号

(欄外記入)

貴電第一〇五号ノ通り撤兵声明書ハ本三十一日朝刊日支英各新聞ニ発表シ尚本官張總弁及祝司令ニ面会ノ上夫々声明書ノ趣旨ニ依リ撤兵決定ノコトヲ口頭ニテ通告シタリ総弁ハ日本カ出兵当初ノ声明ヲ必ス実行スヘキハ初メヨリ自分ノ信シ居リタル処ナルカ官民ノ一部ニ於テハ疑惑ヲ抱ケルモノナキニアラス今回愈々自分所信ノ如ク撤兵ヲ実行セララルニ付テハ直ニ商会其他各方面ニ対シ日本ノ公正ナル態度ヲ徹底諒解セシムル様取計フヘシト答へ尚我出兵ノ効果ニ就テ張督弁、林省長並自分等ニ於テ心中好ク承知シ居レ

七 山東出兵問題

本使発在上海総領事宛電報
第一六五号

貴電第八七二号ニ関シ

先方ノ覚書ハ貴官ニ於テ之ヲ受領セラレ先方へハ単ニ本使へ転報ノ手続ヲ執リタル旨回答シ置カレタシ大臣へ転電セリ

594 昭和2年8月31日 在中国芳沢公使より
田中 外務大臣宛(電報)

山東撤兵に関する北京外交部宛覚書について

北京 発
本省 8月31日後着

第九四〇号
貴電第三八九号ニ関シ

当館ヨリ三十日覚書ヲ以テ先ツ六月九日付覚書ヲ引用シテ這般ノ日本派兵ノ理由カ支那側ノ既ニ篤ト諒知セラルル通リナルコトヲ述へ更ニ貴電合第二〇三号声明書ノ趣旨ヲ敷衍記載シ最後ニ日本公使館ハ右ノ趣訓令ニ依リ北京政府ニ通告スルト共ニ支那ニ於ケル戦乱カ一日モ早ク終熄シ支那国及国民力和平ノ福祉ニ浴シ日本政府ヲシテ再ヒ派兵ノ余

リト言ヒ其他多クヲ語ラサリキ

北京、濟南へ転電セリ

(欄外記入) 青島ニ於ケル通告

596 昭和2年9月2日 在中国芳沢公使より
田中 外務大臣宛

山東撤兵に関する覚書を送付について

付属書 八月三十日付山東撤兵に関する在中國日本公使館より中国外交部宛覚書

公第八七九号

(9月8日接受)

昭和二年九月二日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

山東撤兵ニ関スル覚書を送付ノ件

山東撤兵ニ関シ八月三十日付ヲ以テ外交部宛覚書ヲ送付シ置キタル次第ハ既電ノ通ナル処右覚書並同英訳文御参考迄全文別紙送付ス

本信写送付先 在支各総領事

(付屬書)

覚書

一、最近支那ニ於ケル動乱ノ形勢ニ鑑ミ日本政府ハ山東地方ニ於ケル多数在留民ノ生命財産ノ保護ノ為必要ナル自衛手段ヲ講スルノ已ムヲ得サルニ至リ不取敢軍隊ヲ青島ニ派遣シタル次第ハ六月九日付覚書ニ詳述シアル通ニシテ右出兵ノ理由カ在留民ノ保護ノ外何等他意ナク日本側ノ支那国及国民ニ対シ保持シ来レル友誼ノ精神ニ毫末モ變更ナキハ勿論南北孰レノ交戦部隊ニ対シテモ其ノ作戦ニ関与シ又ハ軍事行動ニ直接又ハ間接ニ妨害又ハ援助ヲ与フルモノニ非ス從テ戦乱ノ禍機去リ前記派兵ノ目的消滅スルニ於テハ直ニ撤兵スヘキモノナルコトハ亦同覚書ニ明記セラレアル処ニシテ支那側ノ篤ト諒知セラルル処ナルヘシ

二、日本政府カ青島ニ派兵スルヤ不幸ニシテ其ノ予想セル如ク同方面ハ南北交戦ノ巷トナラムトシ濟南青島間鉄道沿線地方擾乱ノ危険切迫シタルヲ以テ遂ニ我派遣軍ヲ濟南ニ進出セシメ以テ該地方ニ於ケル我在留民保護ノ衝ニ当ラシムルノ已ムナキニ至リ其ノ結果斯クノ如キ動乱ニ

第一二号

当地駐屯中ノ我軍隊ハ本日午後三時半又淄川ノ部隊ハ同三時四十分同地発全部帰還ノ途ニ就ケリ
北京、濟南へ転電シ青島、坊子、張店へ暗送セリ

598 昭和2年9月(5)日 在張店宮城書記生より
田中外務大臣宛(電報)

張店の軍隊引揚げについて

張店 發
本省 9月5日前着

第一二号

当地駐屯ノ歩兵一箇中隊及鉄道班兵百二十四名ハ淄川博山ヨリ引揚ケ来レル軍隊ト合シ本四日午後七時十五分発臨時列車ニテ青島へ向ケ出発セリ右ニテ当地ハ引揚ケ完了済ミナリ

在支公使、濟南、青島へ転電シ坊子、博山へ暗送セリ

599 昭和2年9月(5)日 在坊子福士書記生より
田中外務大臣宛(電報)

坊子の軍隊引揚げについて

坊子 發

拘ハラス今日ニ至ル迄幸ニシテ日本在留民ノ保護ヲ全ウシ何等不祥事ノ發生ヲ未然ニ防止スルヲ得タリ然ルニ最近戦局ノ變転ト共ニ山東方面ノ事態安定ニ向ヒ当分日本在留民カ戦乱ノ禍ヲ受クルノ虞ナシト認メラルルニ至リタルヲ以テ日本政府ハ茲ニ其ノ当初ノ声明ニ基キ此ノ際日本派遣軍ヲ山東地方ヨリ一律撤退セシムルコトニ決定セリ

日本帝国公使館

昭和二年八月三十日

597 昭和2年9月(5)日 在博山佐々木書記生より
田中外務大臣宛(電報)

博山および淄川の軍隊引揚げについて

博山 發
本省 9月5日前着

第七六号

当地駐屯軍全部(第四十連隊第五中隊)五日午前七時二十分発列車ニテ撤退セリ
北京、青島、上海ニ転電シ濟南、張店、博山ニ暗送セリ

600 昭和2年9月(6)日 在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

濟南の軍隊引揚げについて

濟南 發
本省 9月6日前着

第二四六号

当地派遣軍ハ九月三日ヨリ撤退ヲ開始シ本五日ヲ以テ全部濟南出発ヲ了セリ
北京、在支各総領事及香港、芝罘、杭州、蘇州、南京、沙市、宜昌、蕪湖、九江、長沙、汕頭、廈門、雲南へ転電シ張店、坊子、博山へ暗送セリ

601 昭和2年9月(6)日 在濟南藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

張督弁に対する撤兵通告について

濟南 發
本省 9月6日前着

第二四七号

張督弁九月四日帰濟シタルヲ以テ五日面会御訓令ノ趣旨ニ基キ撤兵ノ次第説明シタルニ督弁ハ駐兵永延ケハ或ハ其間ニ人民ノ反感起ルナキヲ保セス現時ノ撤兵ハ其時機ヲ得タルモノナリト答ヘ更ニ日本軍ハ紀律嚴肅ニシテ駐屯中何等ノ事故ナカリシハ感銘ニ堪ヘス此点特ニ貴政府ニ傳達方依頼アリタリ

北京、青島、上海へ転電セリ

602 昭和2年9月(6)日 在青島矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

青島以西の軍隊全部の青島集中について

青島 發
本省 9月6日後着

第二八五号

濟南及膠濟鉄道沿線駐屯軍隊ハ兪玉処長ノ輸送計画ニ基キ九月二日以来貨物臨時列車ト六旅客臨時列車トヲ以テ軍隊及軍需品ノ輸送ヲ実施シ各列車ニハ邦人職員ヲ搭乗セシメ

テ専ラ運輸ノ指導ヲ為サシメ一般鉄道ノ營業上ニ大ナル支障ヲ与ヘスシテ軍事輸送ヲ完了シ六日午前九時十五分ヲ以テ完全ニ青島以西駐屯派遣軍ノ全部ヲ青島ニ集中セリ尚軍ハ六、七、八ノ三日ニ互リ乗船帰還ノ予定ナリ

北京、奉天、天津、芝罘、上海、漢口、広東へ転電シ濟南、坊子、博山、張店へ暗送セリ

603 昭和2年9月7日 在上海矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

撤兵声明中将来再派兵の一節に対する国民政府外交部の抗議について

上海 9月7日後着
本省 9月8日前着

第一一七〇号

山東撤兵声明ニ対シ郭交渉員ヨリ本官ニ対シ八日公文ヲ以テ大要左ノ如ク申越セリ
貴総領事声明ニ関シ国民政府外交部ヨリ右ハ兩國国交ヲ保全スル意アルヲ見ルニ足ルモ唯貴声明中ニ将来場合ニ依リ再ヒ派兵等ノコトアルヘシト一節アリ国民政府ハ貴国人ノ生命財産ヲ責任ヲ以テ保護スヘキ旨最近ニ於テモ声明シ

青島陸戦隊の撤退について

青島 發
本省 9月13日後着

第二九三号

陸軍出動前後ヨリ警備ノ為上陸セル陸戦隊ハ九月十二日陸上トノ通信連絡ノ為士官及兵数名ヲ残シ全部撤退シ所属船ニ復帰セリ

北京、上海へ転電セリ

606 昭和2年9月15日 在中国芳沢公使より
田中外務大臣宛

山東撤兵通告に対する中国側覚書について

付屬書 九月十三日付中国側覚書写
機密第九二六号 (9月22日接受)

昭和二年九月十五日 在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

山東撤兵ニ関スル支那側覚書写送付ノ件

山東撤兵ニ関スル八月三十日付当方覚書ニ対シ本月十三日

七 山東出兵問題

605 昭和2年9月(13)日

在青島矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東派遣軍ハ九月六日ヨリ帰還輸送ヲ開始シ不用品払下ケ等ノ残務整理ノ為数名ヲ残スノ外本八日ヲ以テ全部出發帰国セリ

在支公使、各総領事及香港、芝罘、杭州、蘇州、南京、蕪湖、九江、宜昌、長沙、沙市、重慶、厦門、汕頭、雲南へ転電シ坊子、張店、博山へ暗送セリ

山東派遣軍の帰国について

青島 發
本省 9月8日後着

604 昭和2年9月(8)日 在青島矢田部総領事より
田中外務大臣宛(電報)

タルカ凡ソ外国カ支那ノ戦乱ニ乗シ在留民保護ニ藉口シテ出兵スルハ主権ノ侵害ニシテ絶対ニ承認シ難シ又治安維持ハ国民政府ノ職權ニシテ他国ノ容喙スヘキ筋合ニ非サルニ付右貴国政府ニ伝達シ将来事端ヲ免レシムル様致度旨指令アリタルニ付右様承知アリタシ

付支那側ヨリ回答アリタル次第ハ不取敢及電報置タル処右
回答全文写並同訳文別紙送付ス御査閱相成度
本信写送付先 在支各総領事

(付屬書)

外交部節略

准八月三十日

節略、閱悉一切、此次

貴国政府派兵膠濟沿線等処開動、迭經本部以此舉侵犯中国
主權、易啓人民誤會、嚴重抗議在案、現

貴国政府決將所派軍隊一律撤退、本国政府及人民深表快
慰、至保護外僑、本国政府自當隨時隨地、始終尽力負責、
深信

貴国政府了解此旨、不至再有踰越範圍之舉動也、相應奉復、
即希查照為荷

外交部

八 日中通商条約改訂交渉

607 昭和2年1月20日

幣原外務大臣より
在中国芳沢公使宛 (電報)

通商条約改訂非公式商議開始に関する対処方

針について

付記 一月八日起草同十九日決裁

日中通商条約の改訂に関する根本方針(高裁案)

本省 1月20日後発

第五〇号

貴電第九二号ニ関シ

二十一日非公式商議開始方異存ナシ尚我方ニ於テハ承認問
題ニ触レサル限り會議ノ形式等ハ此際深ク介意セサル所存
ニ付右ノ御含ニテ館員帯同其他一応ノ挨拶ヲ述ヘラルル等
状況ニ応シ程ヨク御措置アリ度シ尚曩ニ重光携行ノ改訂試
案ニ付テハ目下關係省ト協議中ニテ未タ決定セサルニ付追
テ何分ノ義申進スル迄ハ改訂ノ實質問題ニ付テハ適宜先方
ノ意向ヲ探ルニ止メ我方ノ態度ヲ「コムミット」セサルコ
トト致シタキモ談合ノ模様ニ依リ必要アラハ前記試案第一

中華民國十六年九月十三日

(訳文)

覚書

八月三十日付覚書委細了承。今般貴国政府カ兵ヲ派シ膠濟
鉄道沿線等ニ出動セシメタルニ依リ屢々本部ヨリ本件ハ支
那ノ主權ヲ侵犯シ人民ノ誤解ヲ惹起スルモノナリトシ嚴重
抗議シ置キタル処、貴国政府ハ右派遣軍隊ヲ一律ニ撤退ス
ルコトニ決セルハ本国政府及人民ノ深ク満足スル所ナリ。
外国居留民ノ保護ニ至リテハ本国政府ハ当然隨時隨所ニ終
始責任ヲ負フヘキニ付貴国政府モ此ノ趣旨ヲ了解セラレ再
ヒ範圍ヲ踰越スル舉動ニ出ツルニ至ラサルヘキヲ深ク信
ス。右御承知相成度、此段回答ス。

民國十六年九月十三日

外交部

項及第二項ノ原則ノミハ貴官ノ私見トシテ開示セラレ差支
ナシ

(付記)

高裁案

(一月八日起草一月十九日決裁)

日支通商条約ノ改訂ニ関シテハ未タ支那側ヨリ具体案ノ提
示ナキ処条約所定ノ改訂期間モ既ニ相当經過シタル事情並
其ノ後ニ於ケル支那時局ノ推移等ニ鑑ミ此ノ際速ニ条約改
正ニ関スル我方根本方針ヲ決定スル必要アリト認メラルル
ニ付曩ニ關係局課ノ間ニ審議ノ結果作成シタル左記試案ニ
基キ關係省間ノ協議ヲ進ムルコトト致シタク右仰高裁

記

一、現行条約ノ改訂ハ大体ニ於テ一般通商航海条約ノ原則
ニヨリ相互平等ノ基礎ニ依リ之ヲ行ヒ治外法權撤廢及関
稅自主權回復ニ対スル支那ノ國民的希望ヲ速ニ實現セシ
ムル為規定ヲ設クルコト
二、日支兩國間ノ緊密且特別ナル關係ニ鑑ミ条約關係ノ急